

用ヲ出タシタルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得

管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百五十條第二項ノ規定ヲ準用ス

管理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ前二項ノ規定ヲ適用ス

第四章 不當利得

第七百三條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第七百四條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損

害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第七百五條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セザルコトヲ知リタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百六條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百七條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時效ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返

還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行爲

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコ

トヲ得ス

第七百十一條 他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母、配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財産權ヲ害セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘザリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ヲキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義

務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラサリシトキハ此限ニ在ラス
監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十五條 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者ガ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス
使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス
前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百十六條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ但注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十七條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ損害アル場合ニ之ヲ準用ス
前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ應シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

第七百十八條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者亦前項ノ責ニ任ス

第七百十九條 數人カ共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同行爲者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ
教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行爲者ト看做ス
第七百二十條 他人ノ不法行爲ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得スシテ加害行爲ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セス但被害者ヨリ不法行爲ヲ爲シタル者ニ

對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メ其物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百二十一條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス
第七百二十二條 第四百十七條ノ規定ハ不法行爲ニ因ル損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス
被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得
第七百二十三條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得
第七百二十四條 不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請

求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知リタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス不法行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

民法第四編第五編

(明治三十一年六月法律第九號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民法中修正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

民法第四編第五編別冊ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(此期日ハ明治三十一年六月勅令第百二十三號ヲ以テ

同年七月十六日ト定ム)

明治二十三年法律第九十八號民法財産取得編人事編ハ此法律發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第四編 親族

第一章 總則

第七百二十五條 左ニ掲ケタル者ハ之ヲ親族トス

一 六親等内ノ血族

二 配偶者

三 三親等内ノ姻族

第七百二十六條 親等ハ親族間ノ世數ヲ算シテ之ヲ定ム

傍系親ノ親等ヲ定ムルニハ其一人又ハ其配偶者ヨリ同始祖ニ遡リ其始祖ヨリ他ノ一人ニ下ルマテノ世數ニ依ル

第七百二十七條 養子ト養親及ヒ其血族トノ間ニ於テハ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ス

第七百二十八條 繼父母ト繼子ト又嫡母ト庶子トノ間ニ於テハ親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生ス

第七百二十九條 姻族關係及ヒ前條ノ親族關係

ハ離婚ニ因リテ止ム

夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百三十條 養子ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ離縁ニ因リテ止ム

養親カ養家ヲ去リタルトキハ其者及ヒ其實方ノ血族ト養子トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

養子ノ配偶者、直系卑屬又ハ其配偶者カ養子ノ離縁ニ因リテ之ト共ニ養家ヲ去リタルトキハ其者ト養親及ヒ其血族トノ親族關係ハ之ニ因リテ止ム

第七百三十一條 第七百二十九條第二項及ヒ前條第二項ノ規定ハ本家相續、分家及ヒ廢絶家再興ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第二章 戶主及ヒ家族

第一節 總則

第七百三十二條 戶主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ハ之ヲ家族トス 戶主ノ變更アリタル場合ニ於テハ舊戶主及ヒ其家族ハ新戶主ノ家族トス

第七百三十三條 子ハ父ノ家ニ入ル 父ノ知レサル子ハ母ノ家ニ入ル 父母共ニ知レサル子ハ一家ヲ創立ス

第七百三十四條 父カ子ノ出生前ニ離婚又ハ離婚ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス 前項ノ規定ハ父母カ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セス但母カ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百三十五條 家族ノ庶子及ヒ私生子ハ戶主ノ同意アルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得ス 庶子カ父ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ母ノ家ニ入ル 私生子カ母ノ家ニ入ルコトヲ得サルトキハ一家ヲ創立ス

第七百三十六條 女戶主カ入夫婚姻ヲ爲シタルトキハ入夫ハ其家ノ戶主ト爲ル但當事者カ婚姻ノ當時反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第七百三十七條 戶主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者ハ戶主ノ同意ヲ得テ其家族ト爲ルコトヲ得但其者カ他家ノ家族タルトキハ其家ノ戶主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス 前項ニ掲ケタル者カ未成年者ナルハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコト

ヲ要ス

第七百三十八條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非サル自己ノ親族ヲ婚家又ハ養家ノ家族ト爲サント欲スルトキハ前條ノ規定ニ依ル外其配偶者又ハ養親ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス 婚家又ハ養家ヲ去リタル者カ其家ニ在ル自己ノ直系卑屬ヲ自家ノ家族ト爲サント欲スルトキ亦同シ

第七百三十九條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ實家ニ復籍ス

第七百四十條 前條ノ規定ニ依リテ實家ニ復籍スヘキ者カ實家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサルトキハ一家ヲ創立ス但實家ヲ再興

スルコトヲ妨ケス

第七百四十一條 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ婚家又ハ養家及ヒ實家ノ戶主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス 前項ノ場合ニ於テ同意ヲ爲ササリシ戶主ハ婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年內ニ復籍ヲ拒ムコトヲ得

第七百四十二條 離籍セラレタル家族ハ一家ヲ創立ス他家ニ入りタル後復籍ヲ拒マレタル者カ離婚又ハ離縁ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ亦同シ

第七百四十三條 家族ハ戶主ノ同意アルトキハ他家ヲ相續シ分家ヲ爲シ、又ハ廢絶シタル本家、分家、同家其他親族ノ家ヲ再興スルコト

ヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後凡人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百四十四條 法定ノ推定家督相續人ハ他家

ニ入り又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得ス但本家相續ノ必要アルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ第七百五十條第二項ノ適用ヲ妨ケス

第七百四十五條 夫カ他家ニ入り又ハ一家ヲ創立シタルトキハ妻ハ之ニ隨テ其家ニ入ル

第二節 戸主及ヒ家族ノ權利義務

第七百四十六條 戸主及ヒ家族ハ其家ノ氏ヲ稱ス

第七百四十七條 戸主ハ其家族ニ對シテ扶養ノ義務ヲ負フ

第七百四十八條 家族カ自己ノ名ニ於テ得タル

財産ハ其特有財産トス

戸主又ハ家族ノ執レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ戸主ノ財産ト推定ス

第七百四十九條 家族ハ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定ムルコトヲ得ス

家族カ前項ノ規定ニ違反シ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサル間ハ戸主ハ之ニ對シテ扶養ノ義務ヲ免ル

前項ノ場合ニ於テ戸主ハ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得若シ家族カ其催告ニ應セサルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得但シ其家族カ未成年者ナルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十條 家族カ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲スニハ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承諾ヲ爲スコト

第七百五十三條 戸主カ疾病、本家ノ相續又ハ再興其他已ムヲ得サル事由ニ因リテ爾後家政ヲ執ルコト能ハサルニ至リタルトキハ前條ノ規定ニ拘ハラズ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲スコトヲ得但法定ノ推定家督相續人アラサルトキハ豫メ家督相續人タルヘキ者ヲ定メ其承認ヲ得ルコトヲ要ス

第七百五十四條 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラント欲スルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ隱居ヲ爲スコトヲ得

戸主カ隱居ヲ爲サシテ婚姻ニ因リ他家ニ入ラント欲スル場合ニ於テ戸籍吏カ其届出ヲ受理シタルトキハ其戸主ハ婚姻ノ日ニ於テ隱居

家族カ前項ノ規定ニ違反シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年內ニ離籍ヲ爲シ又ハ復籍ヲ拒ムコトヲ得

家族カ養子ヲ爲シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ從ヒ離籍セラレタルトキハ其養子ハ養親ニ隨ヒテ其家ニ入ル

第七百五十一條 戸主カ其權利ヲ行フコト能ハサルトキハ親族會之ヲ行フ但戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ其後見人アルトキハ此限ニ在ラス

第三節 戸主權ノ喪失

第七百五十二條 戸主ハ左ニ掲ケタル條件ノ具備スルニ非サレハ隱居ヲ爲スコトヲ得ス

一 滿六十年以上ナルコト

ヲ爲シタルモノト看做ス
第七百五十五條 女戸主ハ年齢ニ拘ハラズ隱居
ヲ爲スコトヲ得

有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ
得ルコトヲ要ス但夫ハ正當ノ理由アルニ非サ
レハ其同意ヲ拒ムコトヲ得ス

第七百五十六條 無能力者カ隱居ヲ爲スニハ其
法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第七百五十七條 隱居ハ隱居者及ヒ其家督相續
人ヨリ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力
ヲ生ス

第七百五十八條 隱居者ノ親族及ヒ檢事ハ隱居
届出ノ日ヨリ三個月内ニ第七百五十二條又ハ

第七百五十三條ノ規定ニ違反シタル隱居ノ取
消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

女戸主カ第七百五十五條第二項ノ規定ニ違反
シテ隱居ヲ爲シタルトキハ夫ハ前項ノ期間内
ニ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七百五十九條 隱居者又ハ家督相續人カ詐欺
又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタルトキ
ハ隱居者又ハ家督相續人ハ其詐欺ヲ發見シ又
ハ強迫ヲ免レタル時ヨリ一年内ニ隱居ノ取消
ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但追認ヲ爲シタ
ルトキハ此限ニ在ラス

隱居者又ハ家督相續人カ詐欺ヲ發見セス又ハ
強迫ヲ免レサル間ハ其親族又ハ檢事ヨリ隱居
ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但其請求ノ後隱居
者又ハ家督相續人カ追認ヲ爲シタルトキハ取
消權ハ之ニ因リテ消滅ス
前二項ノ取消權ハ隱居届出ノ日ヨリ十年ヲ經

過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第七百六十條 隱居ノ取消前ニ家督相續人ノ債
權者ト爲リタル者ハ其取消ニ因リテ戸主タル

者ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得但家督
相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

債權者カ債權取得ノ當時隱居取消ノ原因ノ存
スルコトヲ知リタルトキハ家督相續人ニ對シ
テノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得家督相續人
カ家督相續前ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ
專屬スル債務ニ付キ亦同シ

第七百六十一條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル戸主
權ノ喪失ハ前戸主又ハ家督相續人ヨリ前戸主
ノ債權者及ヒ債務者ニ其進知ヲ爲スニ非サレ
ハ之ヲ以テ其債權者及ヒ債務者ニ對抗スルコ
トヲ得ス

第七百六十二條 新ニ家ヲ立テタル者ハ其家ヲ
廢シテ他家ニ入ルコトヲ得

家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其家ヲ
廢スルコトヲ得ス但本家ノ相續又ハ再與其他

正當ノ事由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキ
ハ此限ニ在ラス

第七百六十三條 戸主カ適法ニ廢家シテ他家ニ
入りタルトキハ其家族モ亦其家ニ入ル

第七百六十四條 戸主ヲ失ヒタル家ニ家督相續
人ナキトキハ絶家シタルモノトシ其家族ハ各

一家ヲ創立ス但子ハ父ニ隨ヒ又ハ父カ知レサ
ルトキ他家ニ在ルトキ若クハ死亡シタルトキ
ハ母ニ隨ヒテ其家ニ入ル
前項ノ規定ハ第七百四十五條ノ適用ヲ妨ケス

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

第七百六十五條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラサレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十六條 配偶者アル者ハ重テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十七條 女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非サレハ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

女カ前婚ノ取消ノ前ヨリ懐胎シタル場合ニ於テハ其分婉ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セス

第七百六十八條 姦通ニ因リテ離婚又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百六十九條 直系血族又ハ三親等内ノ傍系

血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス但養子ト養方ノ傍系血族トノ間ハ此限ニ在ラス

第七百七十條 直系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス第七百二十九條ノ規定ニ依リ姻族關係カ止ミタル後亦同シ

第七百七十一條 養子、其配偶者、直系卑屬又ハ配偶者ト養親又ハ其直系尊屬トノ間ニ於テハ第七百三十條ノ規定ニ依リ親族關係カ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第七百七十二條 子カ婚姻ヲ爲スニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但男カ滿三十二年女滿二十五年ニ達シタル後ハ此限ニ在ラス父母ノ一方カ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足

ル

父母共ニ知レサルトキ、死亡シタルトキ、家ヲ去リタルトキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ未成年者ハ其後見人及ヒ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十三條 繼父母又ハ嫡母カ子ノ婚姻ニ同意セサルトキハ子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 禁治産者カ婚姻ヲ爲スニハ其後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第七百七十五條 婚姻ハ之ヲ戶籍吏ニ届出ルニ因リテ其効力ヲ生ス

前項ノ届出ハ當事者雙方及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第七百七十六條 戶籍吏ハ婚姻カ第七百四十一

條第一項、第七百四十四條第一項、第七百五十條第一項、第七百五十四條第一項、第七百六十五條乃至第七百七十三條及ヒ前條第二項ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

但婚姻カ第七百四十條第一項又ハ第七百五十條第一項ノ規定ニ違反スル場合ニ於テ戶籍吏カ注意ヲ爲シタルニ拘ハラズ當事者カ其届出ヲ爲サント欲スルトキハ此限ニ在ラス

第七百七十七條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ婚姻ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ其届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二款 婚姻ノ無効及ヒ取消

第七百七十八條 婚姻ハ左ノ場合ニ限り無効トス

- 一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ婚姻ヲ爲ス意思ナキトキ
- 二 當事者カ婚姻ノ届出ヲ爲ササルトキ但其届出カ第七百七十五條第二項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ婚姻ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第七百七十九條 婚姻ハ第七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スルコトヲ得ス

第七百八十條 第七百六十五條乃至第七百七十一條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ各當事者、其戸主、親族又ハ檢事ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但檢事ハ當事者ノ一方カ死亡

シタル後ハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

- 第七百六十六條乃至第七百六十八條ノ規定ニ違反シタル婚姻ニ付テハ當事者ノ配偶者又ハ前配偶者モ亦其取消ヲ請求スルコトヲ得
- 第七百八十一條 第七百六十五條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ不適當者カ適齡ニ達シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス
- 不適當者ハ適齡ニ達シタル後尙ホ三個月間其婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ得但適齡ニ達シタル後追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
- 第七百八十二條 第七百六十七條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ六個月ヲ經過シ又ハ女カ再婚後懐胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第七百八十三條 第七百七十二條ノ規定ニ違反

シタル婚姻ハ同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條 前條ノ取消權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 一 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ婚姻アリタルコトヲ知リタル後又ハ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後六個月ヲ經過シタルトキ
- 二 同意ヲ爲ス權利ヲ有セシ者カ追認ヲ爲シタルトキ
- 三 婚姻届出ノ日ヨリ二年ヲ經過シタルトキ

第七百八十五條 詐欺又ハ強迫ニ因リテ婚姻ヲ爲シタル者ハ其婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求ス

ルコトヲ得

- 前項ノ取消權ハ當事者カ詐欺ヲ發見シ若クハ強迫ヲ免レタル後三個月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ消滅ス
- 第七百八十六條 婿養子縁組ノ場合ニ於テハ各當事者ハ縁組ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ婚姻ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但縁組ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ婚姻ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス
- 前項ノ取消權ハ當事者カ縁組ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後三個月ヲ經過シ又ハ取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス
- 第七百八十七條 婚姻ノ取消ハ其效力ヲ既往ニ及ホサス

婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知ラサリシ當事者カ婚姻ニ因リテ財産ヲ得タルトキハ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テ其返還ヲ爲スコトヲ要ス
婚姻ノ當時其取消ノ原因ノ存スルコトヲ知リタル當事者ハ婚姻ニ因リテ得タル利益ノ全部ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ相手方カ善意ナリシトキハ之ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第二節 婚姻ノ效力

第七百八十八條 妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ家ニ入ル

第七百八十九條 妻ハ夫ト同居スル義務ヲ負フ

第七百九十條 夫婦ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

頁フ

第七百九十一條 妻カ未成年者ナルトキハ成年ノ夫ハ其後見人ノ職務ヲ行フ

第七百九十二條 夫婦間ニ於テ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻中何時ニテモ夫婦ノ一方ヨリ之ヲ取消スコトヲ得但第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第三節 夫婦財産制

第一款 總則

第七百九十三條 夫婦カ婚姻ノ届出前ニ其財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲サリシトキハ其財産關係ハ次款ニ定ムル所ニ依ル

第七百九十四條 夫婦カ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ届出マテニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人

及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十五條 外國人カ夫ノ本國ノ法定財産制ニ異ナリタル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ婚姻ノ後日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ日本ニ住所ヲ定メタルトキハ一年内ニ其契約ヲ登記スルニ非サレハ日本ニ於テハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七百九十六條 夫婦ノ財産關係ハ婚姻届出ノ後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ管理ノ失當ニ因リ其財産ヲ危クシタルトキハ他ノ一方ハ自ら其管理ヲ爲サンコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

共有財産ニ付テハ前項ノ請求ト共ニ其分割ヲ請求スルコトヲ得

第七百九十七條 前條ノ規定又ハ契約ノ結果ニ依リ管理者ヲ變更シ又ハ共有財産ノ分割ヲ爲シタルトキハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二款 法定財産制

第七百九十八條 夫ハ婚姻ヨリ生スル一切ノ費用ヲ負擔ス但妻カ戶主タルトキハ妻之ヲ負擔ス

前項ノ規定ハ第七百九十條及ヒ第八章ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第七百九十九條 夫又ハ女戶主ハ用方ニ從ヒ其配偶者ノ財産ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ有ス
夫又ハ女戶主ハ其配偶者ノ財産ノ果實中ヨリ

其債務ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス

第八百條 第五百九十五條及ヒ第五百九十八條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百一條 夫ハ妻ノ財産ヲ管理ス
夫カ妻ノ財産ヲ管理スルコト能ハサルトキハ妻自ラ之ヲ管理ス

第八百二條 夫カ妻ノ爲メニ借財ヲ爲シ、妻ノ財産ヲ讓渡シ、之ヲ擔保ニ供シ又ハ第六百二條ノ期間ヲ超エテ其貸貸ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス但管理ノ目的ヲ以テ果實ヲ處分スルハ此限ニ在ラス

第八百三條 夫カ妻ノ財産ヲ管理スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ裁判所ハ妻ノ請求ニ因リ夫ヲシテ其財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第八百四條 日常ノ家事ニ付テハ妻ハ夫ノ代理人ト看做ス

夫ハ前項ノ代理權ノ全部又ハ一部ヲ否認スルコトヲ得但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八百五條 夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ於テハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

第八百六條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ夫カ妻ノ財産ヲ管理シ又ハ妻カ夫ノ代理ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八百七條 妻又ハ夫カ婚姻前ヨリ有セル財産及ヒ婚姻中自己ノ名ニ於テ得タル財産ハ其特有財産トス
夫婦ノ孰レニ屬スルカ分明ナラサル財産ハ夫

又ハ女戸主ノ財産ト推定ス

第四節 離婚

第一款 協議上ノ離婚

第八百八條 夫婦ハ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第八百九條 滿二十五年ニ達セサル者カ協議上ノ離婚ヲ爲スニハ第七百七十二條及ヒ第七百七十三條ノ規定ニ依リ其婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第八百十條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ協議上ノ離婚ニ之ヲ準用ス

第八百十一條 戶籍吏ハ離婚カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百九條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戶籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シタルトキト雖モ離婚ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラレルコトナシ

第八百十二條 協議上ノ離婚ヲ爲シタル者カ其協議ヲ以テ子ノ監護ヲ爲スヘキ者ヲ定メサリシトキハ其監護ハ父ニ屬ス
父カ離婚ニ因リテ婚家ヲ去リタル場合ニ於テハ子ノ監護ハ母ニ屬ス
前二項ノ規定ハ監護ノ範圍外ニ於テ父母ノ權利義務ニ變更ヲ生スルコトナシ

第二款 裁判上ノ離婚

第八百十三條 夫婦ノ一方ハ左ノ場合ニ限り離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

- 一 配偶者カ重婚ヲ爲シタルトキ
- 二 妻カ姦通ヲ爲シタルトキ

- 三 夫カ姦淫罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルトキ
- 四 配偶者カ偽造、賄賂、猥褻、窃盜、強盜、詐欺取財、受寄財物費消、贓物ニ關スル罪若クハ刑法第七十五條、第二百六十條ニ掲ケタル罪ニ因リテ輕罪以上ノ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ニ因リテ重禁錮三年以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 五 配偶者ヨリ同居ニ堪ヘサル虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 六 配偶者ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタルトキ
- 七 配偶者ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルトキ
- 八 配偶者カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐待

ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキ

九 配偶者ノ生死カ三年以上分明ナラサルトキ

十 婿養子縁組ノ場合ニ於テ離縁アリタルトキ又ハ養子カ家女ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ離縁若クハ縁組ノ取消アリタルトキ

第八百十四條 前條第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意シタルトキハ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

前條第一號乃至第七號ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ他ノ一方又ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキ亦同シ

第八百十五條 第八百十三條第四號ニ掲ケタル

處刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其配偶者ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十六條 第八百十三條第一號乃至第八號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離婚ノ原因タル事實ヲ知リタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百十七條 第八百十三條第九號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ配偶者ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百十八條 第八百十三條第十號ノ場合ニ於テ離縁又ハ縁組取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附帶シテ離婚ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百十三條第十號ノ事由ニ因ル離婚ノ訴ハ當事者カ離縁又ハ縁組ノ取消アリタルコトヲ知リタル後三ヶ月ヲ經過シ又ハ離婚請求ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ之ヲ提起スルヲ得ス

第八百十九條 第八百十二條ノ規定ハ裁判上ノ離婚ニ之ヲ準用ス但裁判所ハ子ノ利益ノ爲メ其監護ニ付キ之ニ異ナリタル處分ヲ命スルコトヲ得

第四章 親子

第一節 實子

第一款 嫡出子

第八百二十條 妻カ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ婚

姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

第八百二十一條 第七百六十七條第一項ノ規定

ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女カ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハサルトキハ裁判所之ヲ定ム

第八百二十二條 第八百二十條ノ場合ニ於テ夫

ハ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

第八百二十三條 前條ノ否認權ハ子又ハ其法定

代理人ニ對スル訴ニ依リテ之ヲ行フ但夫カ子ノ法定代理人ナルトキハ裁判所ハ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

第八百二十四條 夫カ子ノ出生後ニ於テ其嫡出

ナルコトヲ承認シタルトキハ其否認權ヲ失フ

第八百二十五條 否認ノ訴ハ夫カ子ノ出生ヲ知

リタル時ヨリ一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

ス

第八百二十六條 夫カ未成年者ナルトキハ前條

ノ期間ハ其成年ニ達シタル時ヨリ之ヲ起算ス但夫カ成年ニ達シタル後ニ子ノ出生ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

夫カ禁治産者ナルトキハ前條ノ期間ハ禁治産ノ取消アリタル後夫カ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算ス

第二款 庶子及ヒ私生子

第八百二十七條 私生子ハ其父又ハ母ニ於テ之

ヲ認知スルコトヲ得

父カ認知シタル私生子ハ之ヲ庶子トス

第八百二十八條 私生子ノ認知ヲ爲スニハ父又

ハ母カ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

第八百二十九條 私生子ノ認知ハ戶籍吏ニ届出

ツルニ依リテ之ヲ爲ス

認知ハ遺言ニ依リテモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第八百三十條 成年ノ私生子ハ其承諾アルニ非

サレハ之ヲ認知スルコトヲ得ス

第八百三十一條 父ハ胎內ニ在ル子ト雖モ之ヲ

認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬ア

ルトキニ限り之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬カ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

第八百三十二條 認知ハ出生ノ時ニ遡リテ其效

力ヲ生ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百三十三條 認知ヲ爲シタル父又ハ母ハ其

認知ヲ取消スコトヲ得ス

第八百三十四條 子其他ノ利害關係人ハ認知ニ

對シテ反對ノ事實ヲ主張スルコトヲ得

第八百三十五條 子、其直系卑屬又ハ此等ノ者

ノ法定代理人ハ父又ハ母ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得

第八百三十六條 庶子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ

嫡出子タル身分ヲ取得ス

婚姻中父母カ認知シタル私生子ハ其認知ノ時

ヨリ嫡出子タル身分ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ子カ既ニ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

第八百三十七條 成年ニ達シタル者ハ養子ト爲スコトヲ得

第八百三十八條 尊屬又ハ年長者ハ之ヲ養子ト爲スコトヲ得ス

第八百三十九條 法定ノ推定家督相續人タル男子アル者ハ男子ヲ養子ト爲スコトヲ得ス女孺ト爲スコトヲ得ス

第八百四十條 後見人ハ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス其任務ヲ終了シタル後未タ管理ノ計算ヲ終ハラサル間亦同シ

前項ノ規定ハ第八百四十八條ノ場合ニ之ヲ適用セス

第八百四十一條 配偶者アル者ハ其配偶者ト共ニスルニ非サレハ縁組ヲ爲スコトヲ得ス夫婦ノ一方カ他ノ一方ノ子ヲ養子ト爲スニハ

他ノ一方ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第八百四十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ夫婦ノ一方カ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキハ他ノ一方ハ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲スコトヲ得

第八百四十三條 養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ナルトキハ其家ニ在ル父母之ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲スコトヲ得

繼父母又ハ嫡母カ前項ノ承諾ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十四條 成年ノ子カ養子ト爲シ又ハ滿十五年以上ノ子カ養子ト爲ルニハ其家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八百四十五條 縁組又ハ婚姻ニ因リテ他家ニ入りタル者カ更ニ養子トシテ他家ニ入ラント

欲スルトキハ實家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但妻カ夫ニ隨ヒテ他家ニ入ルハ此限ニ在ラス

第八百四十六條 第七百二十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前三條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第七百七十三條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第八百四十七條 第七百七十四條及ヒ第七百七十五條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ適用ス

第八百四十八條 養子ヲ爲サント欲スル者ハ遺言ヲ以テ其意思ヲ表示スルコトヲ得此場合ニ於テハ遺言執行者、養子ト爲ルヘキ者又ハ第八百四十三條ノ規定ニ依リ之ニ代ハリテ承諾ヲ爲シタル者及ヒ成年ノ證人二人以上ヨリ遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク縁組ノ届出ヲ

爲スコトヲ要ス 前項ノ届出ハ養親ノ死亡ノ時ニ遡リテ效力ヲ生ス

第八百四十九條 戶籍吏ハ縁組カ第七百四十一條第一項、第七百四十四條第一項、第七百五十條第一項及ヒ前十二條ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

第七百七十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第八百五十條 外國ニ在ル日本人間ニ於テ縁組ヲ爲サント欲スルトキハ其國ニ駐在スル日本ノ公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第七百七十五條及ヒ前二條ノ規定ヲ適用ス

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消
第八百五十一條 縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トス

- 一 人違其他ノ事由ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキトキ
- 二 當事者カ縁組ノ届出ヲ爲ササルトキ但

其届出カ第七百七十五條第二項及ヒ第八百四十八條第一項ニ掲ケタル條件ヲ缺クニ止マルトキハ縁組ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨ケラルルコトナシ

第八百五十二條 縁組ハ第七條ノ規定ニ依ルニ非サレハ之ヲ取消スコトヲ得ス

第八百五十三條 第八百三十七條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養親又ハ其法定代理人ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但養親カ成年

ニ達シタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ追認ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第八百五十四條 第八百三十八條又ハ第八百三十九條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ各當事者、其戸主又ハ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第八百五十五條 第八百四十條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ養子又ハ其實方ノ親族ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但管理ノ計算カ終ハリタル後養子カ追認ヲ爲シ又ハ六ヶ月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

追認ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル後之ヲ爲スニ非サレハ其効ナシ

養子カ成年ニ達セス又ハ能力ヲ回復セサル間ニ管理ノ計算カ終ハリタル場合ニ於テハ第一

項但書ノ期間ハ養子カ成年ニ達シ又ハ能力ヲ回復シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第八百五十六條 第八百四十一條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ササリシ配偶者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但配偶者

カ縁組アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シタルトキハ追認ヲ爲シタルモノト看做ス

第八百五十七條 第八百四十四條乃至第八百四十六條ノ規定ニ違反シタル縁組ハ同意ヲ爲ス

權利ヲ有セシ者ヨリ其取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得同意カ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキ亦同シ

第七百八十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百五十八條 増養子縁組ノ場合ニ於テハ各

當事者ハ婚姻ノ無効又ハ取消ヲ理由トシテ縁組ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但婚姻ノ無効又ハ取消ノ請求ニ附帶シテ縁組ノ取消ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ取消權ハ當事者カ婚姻ノ無効ナルコト又ハ其取消アリタルコトヲ知リタル後六ヶ月ヲ經過シ又ハ其取消權ヲ拋棄シタルトキハ消滅ス

第八百五十九條 第七百八十五條及ヒ第七百八十七條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ準用ス但第七百八十五條第二項ノ期間ハ之ヲ六ヶ月トス

第三款 縁組ノ效力

第八百六十條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養親ノ嫡出子タル身分ヲ取得ス

第八百六十一條 養子ハ縁組ニ因リテ養親ノ家

二入ル

第四款 離縁

第八百六十二條 縁組ノ當事者ハ其協議ヲ以テ
離縁ヲ爲スコトヲ得

養子カ十五年未滿ナルトキハ其離縁ハ養親養
子ニ代ハリテ縁組ノ承諾ヲ爲ス權利ヲ有スル
者トノ協議ヲ以テ爲ス

養親カ死亡シタル後養子カ離縁ヲ爲サント欲
スルトキハ戸主ノ同意ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ
得

第八百六十三條 滿二十五年ニ達セサル者カ協
議上ノ離縁ヲ爲スニハ第八百四十四條ノ規定
ニ依リ其縁組ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル
者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第七百七十二條第二項、第三項及ヒ第七百七

十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八百六十四條 第七百七十四條及ヒ第七百七

十五條ノ規定ハ協議上ノ離縁ニ之ヲ準用ス

第八百六十五條 戶籍吏ハ離縁カ第七百七十五

條第二項、第八百六十二條及ヒ第八百六十三條

ノ規定其他ノ法令ニ違反セサルコトヲ認メタ

ル後ニ非サレハ其届出ヲ受理スルコトヲ得ス

戶籍吏カ前項ノ規定ニ違反シテ届出ヲ受理シ

タルトキト雖モ離縁ハ之カ爲メニ其效力ヲ妨

ケラレルコトナシ

第八百六十六條 縁組ノ當事者ノ一ハ左ノ場

合ニ限リ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

一 他ノ一方ヨリ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ

受ケタルトキ
二 他ノ一方ヨリ惡意ヲ以テ遺棄セラレタ

ルトキ

三 養親ノ直系尊屬ヨリ虐待又ハ重大ナル
侮辱ヲ受ケタルトキ

四 他ノ一方カ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セ
ラレタルトキ

五 養子ニ家名ヲ置シ又ハ家産ヲ傾クヘキ
重大ナル過失アリタルトキ

六 養子逃亡シテ三年以上復歸セサルトキ

七 養子ノ死生カ三年以上分明ナラザルト

八 他ノ一方カ自己ノ直系尊屬ニ對シテ虐
待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘ

タルトキ

九 増養子縁組ノ場合ニ於テ離婚アリタル
トキ又ハ養子カ養女ト婚姻ヲ爲シタル

場合ニ於テ離婚若クハ婚姻ノ取消アリ
タルトキ

第八百六十七條 養子カ滿十五年ニ達セサル間

ハ其縁組ニ付キ承諾權ヲ有スル者ヨリ離縁ノ
訴ヲ提起スルコトヲ得

第八百四十三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ
之ヲ準用ス

第八百六十八條 第八百六十六條第一號乃至第

六號ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方又

ハ其直系尊屬ノ行爲ヲ宥恕シタルトキハ離縁

ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十九條 第八百六十六條第四號ノ場合

ニ於テ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ行爲ニ同意

シタルトキハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百六十六條第四號ニ掲ケタル刑ニ處セラ

レタル者ハ他ノ一方ニ同一ノ事由アルコトヲ理由トシテ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十條 第八百六十六條第一號乃至第五號及第七號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ之ヲ提起スル權利ヲ有スル者カ離縁ノ原因タル事實ヲ知りタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其事實發生ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百七十一條 第八百六十六條第六號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養親カ養子ノ復歸シタルコトヲ知りタル時ヨリ一年ヲ經過シタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス其復歸ノ時ヨリ十年ヲ經過シタル後亦同シ

第八百七十二條 第八百六十六條第七號ノ事由ニ因ル離縁ノ訴ハ養子ノ生死カ分明ト爲リタル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

ル後ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

第八百七十三條 第八百六十六條第九號ノ場合ニ於テ離婚又ハ婚姻取消ノ請求アリタルトキハ之ニ附滯シテ離縁ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八百七十四條 養子カ戸主ト爲リタル後ハ離縁ヲ爲スコトヲ得ス但隱居ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第八百七十五條 養子ハ離縁ニ因リ其實家ニ於テ有セシ身分ヲ回復ス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八百七十六條 夫婦カ養子ト爲リ又ハ養子カ養親ノ他ノ養子ト婚姻ヲ爲シタル場合ニ於テ妻カ離縁ニ因リテ養家ヲ去ルヘキトキハ夫ハ其選擇ニ從ヒ離縁又ハ離婚ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 親 權

第一節 總 則

第八百七十七條 子ハ其家ニ在ル父ノ親權ニ服ス但獨立ノ生計ヲ立ツル成年者ハ此限ニ在ラス

父カ知レサルトキ死亡シタルトキ家ヲ去リタルトキ又ハ親權ヲ行フコト能ハサルトキハ家ニ在ル母之ヲ行フ

第八百七十八條 繼父、繼母又ハ嫡母カ親權ヲ行フ場合ニ於テハ次章ノ規定ヲ準用ス

第二節 親權ノ效力

第八百七十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ監護及ヒ教育ヲ爲ス權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第八百八十條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母カ指定シタル場所ニ其居所ヲ定ムルコトヲ要ス但第七百四十九條ノ適用ヲ妨ケス

第八百八十一條 未成年ノ子カ兵役ヲ出願スルニハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ必要ナル範圍内ニ於テ自ラ其子ヲ懲戒シ又ハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

子ヲ懲戒場ニ入ルル期間ハ六ヶ月以下ノ範圍内ニ於テ裁判所之ヲ定ム但此期間ハ父又ハ母ノ請求ニ因リ何時ニテモ之ヲ短縮スルコトヲ得

得

第八百八十三條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又

ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ職業ヲ營ムコト

ヲ得ス

父又ハ母ハ第六條第二項ノ場合ニ於テハ前項

ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

第八百八十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年

ノ子ノ財産ヲ管理シ又其財産ニ關スル法律行

爲ニ付キ其子ヲ代表ス但其子ノ行爲ヲ目的ト

スル債務ヲ生スヘキ場合ニ於テハ本人ノ同意

ヲ得ルコトヲ要ス

第八百八十五條 未成年ノ子カ其配偶者ノ財産

ヲ管理スヘキ場合ニ於テハ親權ヲ行フ父又ハ

母之ニ代ハリテ其財産ヲ管理ス

第八百八十六條 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ

代ハリテ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲シ又ハ子ノ之

ヲ爲スコトニ同意スルニハ親族會ノ同意ヲ得

ルコトヲ要ス

一 營業ヲ爲スコト

二 借財又ハ保證ヲ爲スコト

三 不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル權利

ノ喪失ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト

四 不動產又ハ重要ナル動產ニ關スル和解

又ハ仲裁契約ヲ爲スコト

五 相續ヲ拋棄スルコト

六 贈與又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト

第八百八十七條 親權ヲ行フ母カ前條ノ規定ニ

違反シテ爲シ又ハ同意ヲ與ヘタル行爲ハ子又

ハ其法定代理人ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得此

場合ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ規定ハ第二百一十一條乃至第二百二十六條

ノ適用ヲ妨ケス

第八百八十八條 親權ヲ行フ父又ハ母ト其未成

年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付テハ父又ハ母

ハ其子ノ爲メニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ

親族會ニ請求スルコトヲ要ス

父又ハ母カ數人ノ子ニ對シテ親權ヲ行フ場合

ニ於テ其一人ト他ノ子トノ利益相反スル行爲

ニ付テハ其一方ノ爲メ前項ノ規定ヲ準用ス

第八百八十九條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ自己ノ

爲メニスルト同一ノ注意ヲ以テ其管理ヲ行フ

コトヲ要ス

母ハ親族會ノ同意ヲ得テ爲シタル行爲ニ付テ

モ其責ヲ免ルルコトヲ得ス但母ニ過失ナカリ

シトキハ此限ニ在ラス

第八百九十條 子カ成年ニ達シタルトキハ親

權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ遲滞ナク其管理ノ計

算ヲ爲スコトヲ要ス但其子ノ養育及ヒ財産ノ

管理ノ費用ハ其子ノ財産ノ收益ト之ヲ相殺シ

タルモノト看做ス

第八百九十一條 前條但書ノ規定ハ無償ニテ子

ニ財産ヲ與フル第三者カ反對ノ意思ヲ表示シ

タルトキハ其財産ニ付テハ之ヲ適用セス

第八百九十二條 無償ニテ子ニ財産ヲ與フル第

三者カ親權ヲ行フ父又ハ母ヲシテ之ヲ管理セ

シメサル意思ヲ表示シタルトキハ其財産ハ父

又ハ母ノ管理ニ屬セサルモノトス

前項ノ場合ニ於テ第三者カ管理者ヲ指定セサ

リシトキハ裁判所ハ子、其親族又ハ檢事ノ請

求ニ因リ其管理者ヲ選任ス

第三者カ管理ヲ指定セシトキト雖モ其管理
者ノ權限カ消滅シ又ハ之ヲ改任スル必要アル
場合ニ於テ第三者カ更ニ管理者ヲ指定セサル
トキ亦同シ
第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ前二項ノ
場合ニ之ヲ準用ス
第八百九十三條 第六百五十四條及ヒ第六百五
十五條ノ規定ハ父又ハ母カ子ノ財産ヲ管理ス
ル場合及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス
第八百九十四條 親權ヲ行ヒタル父若クハ母又
ハ親族會員ト其子トノ間ニ財産ノ管理ニ付テ
生シタル債權ハ其管理權消滅ノ時ヨリ五年間
之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
子カ未タ成年ニ達セサル間ニ管理權カ消滅シ
タルトキハ前項ノ期間ハ其子カ成年ニ達シ又

ハ後任ノ法定代理人カ就職シタル時ヨリ之ヲ
記算ス
第八百九十五條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其未成
年ノ子ニ代ハリテ戸主權及ヒ親權ヲ行フ

第三節 親權ノ喪失

第八百九十六條 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ
著シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又
ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スル
コトヲ得
第八百九十七條 親權ヲ行フ父又ハ母カ管理ノ
失當ニ因リテ子ノ財産ヲ危クシタルトキハ裁
判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理
權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得
父カ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權ハ家
ニ在ル母之ヲ行フ

第八百九十八條 前二條ニ定メタル原因カ止ミ
タルトキハ裁判所ハ本人又ハ其親族ノ請求ニ
因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得
第八百九十九條 親權ヲ行フ母ハ財産ノ管理ヲ
辭スルコトヲ得

第六章 後見

第一節 後見ノ開始

第九百條 後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス
一 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキト
キ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セザ
ルトキ
二 禁治産ノ宣告アリタルトキ

第二節 後見ノ機關

第一款 後見人

第九百一條 未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行

フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得
但管理權ヲ有セサル者ハ此限ニ在ラス
親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財産ノ管
理ヲ辭シタルトキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ
後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得

第九百二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治産者ノ

後見人ト爲ル

妻カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見
人ト爲ル夫カ後見人タラサルトキハ前項ノ規
定ニ依ル

夫カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見
人ト爲ル妻カ後見人タラサルトキ又ハ夫カ未
成年者ナルトキハ第一項ノ規定ニ依ル

第九百三條 前二條ノ規定ニ依リテ家族ノ後見
人タル者アラサルトキハ戸主其後見人ト爲ル

第九百四條 前三條ノ規定ニ依リテ後見人タル

者アラサルトキハ後見人ハ親族會之ヲ選任ス

第九百五條 母カ財産ノ管理ヲ辭シ、後見人カ

其任務ヲ辭シ、親權ヲ行ヒタル父若クハ母カ

家ヲ去リ又ハ戶主カ隱居ヲ爲シタルニ因リ後

見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキハ其父、

母又ハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集シ又ハ

其招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第九百六條 後見人ハ一人タルコトヲ要ス

第九百七條 後見人ハ婦女ヲ除ケ外左ノ事由ア

ルニ非サレハ其任務ヲ辭スルコトヲ得ス

一 軍人トシテ現役ニ服スルコト

二 被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ

公務ニ従事スルコト

三 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ

本條又ハ次條ニ掲ケタル事由ノ存セシ

場合ニ於テ其事由カ消滅シタルコト

四 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シ

タルコト但配偶者、直系血族及ヒ戶主

ハ此限ニ在ラス

五 此他正當ノ事由

第九百八條 左ニ掲ケタル者ハ後見人タルコト

ヲ得ス

一 未成年者

二 禁治産者及ヒ準禁治産者

三 剝奪公權者及ヒ停止公權者

四 裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理

人又ハ保佐人

五 破産者

六 被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シ

タル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族

七 行方ノ知レサル者

八 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事

跡、不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリ

ト認メタル者

第九百九條 前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用

ス

保佐人又ハ其代表スル者ト準禁治産者トノ利

益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人

ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス

第二款 後見監督人

第九百十條 後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ

遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得

第九百十一條 前條ノ規定ニ依リテ指定シタル

後見監督人ナキトキハ法定後見人又ハ指定後

見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ヲ裁

判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要

ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見

人ヲ免職スルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直チ

ニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ要ス

第九百十二條 後見人就職ノ後後見監督人ノ缺

ケタルトキハ後見人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集

シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス此場

合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九百十三條 後見人ノ更迭アリタルトキハ親

族會ハ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要ス但前

後見監督人ヲ再選スルコトヲ妨ケス

新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サ

ルトキハ後見監督人ハ遲滯ナク親族會ヲ招集

シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲サシムルコト
ヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ後見人ノ行
爲ニ付キ之ト連滞シテ其責ニ任ス
第九百十四條 後見人ノ配偶者直系血族又ハ兄
弟姉妹ハ後見監督人タルコトヲ得ス

第九百十五條 後見監督人ノ職務左ノ如シ

- 一 後見人ノ事務ヲ監督スルコト
- 二 後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滞ナク
其後任者ノ任務ニ就クコトヲ促シ若シ
後任者ナキトキハ親族會ヲ招集シテ其
選任ヲ爲サシムルコト
- 三 急迫ノ事情アル場合ニ於テ必要ナル處
分ヲ爲スコト
- 四 後見人又ハ其代表スル者ト被後見人ト
ノ利益相反スル行爲ニ付キ被後見人ヲ

代表スルコト

第九百十六條 第六百四十四條、第九百七條及
七第九百八條ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ準用
ス

第二節 後見ノ事務

第九百十七條 後見人ハ遲滞ナク被後見人ノ財
産ノ調査ニ著手シ一ヶ月内ニ其調査ヲ終ハリ
且其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス但此期間ハ親
族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得
財產ノ調査及ヒ其目錄ノ調製ハ後見監督人ノ
立會ヲ以テ之ヲ爲スニ非サレハ其效ナシ
後見人カ前二項ノ規定ニ從ヒ財產ノ目錄ヲ調
製セサルトキハ親族會ハ之ヲ免黜スルコトヲ
得

第九百十八條 後見人ハ目錄ノ調製ヲ終ハルマ

テハ急迫ノ必要アル行爲ノミヲ爲ス權限ヲ有
ス但之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ
得ス

第九百十九條 後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ
有シ又ハ債務ヲ負フトキハ財產ノ調査ニ著手
スル前ニ之ヲ後見監督人ニ申出ツルコトヲ要
ス

後見人カ被後見人ニ對シ債權ヲ有スルコトヲ
知リテ之ヲ申出テサルトキハ其債權ヲ失フ
後見人カ被後見人ニ對シ債務ヲ負フコトヲ知
リテ之ヲ申出テサルトキハ親族會ハ其後見人
ヲ免黜スルコトヲ得

第九百二十條 前三條ノ規定ハ後見人就職ノ後
被後見人カ包括財產ヲ取得シタル場合ニ之ヲ
準用ス

第九百二十一條 未成年者ノ後見人ハ第八百七

十九條乃至第八百八十三條及ヒ第八百八十五
條ニ定メタル事項ニ付キ親權ヲ行フ父又ハ母
ト同一ノ權利義務ヲ有ス但親權ヲ行フ父又ハ
母カ定メタル教育ノ方法及ヒ居所ヲ變更シ、
未成年者ヲ懲戒場ニ入レ、營業ヲ許可シ、其
許可ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルニハ親族會ノ
同意ヲ得ルコトヲ要ス

第九百二十二條 禁治産者ノ後見人ハ禁治産者
ノ資力ニ應シテ其療養看護ヲ力ムルコトヲ要
ス禁治産者ヲ瘋癲病院ニ入レ又ハ私宅ニ監置
スルト否トハ親族會ノ同意ヲ得テ後見人之ヲ
定ム

第九百二十三條 後見人ハ被後見人ノ財產ヲ管
理シ又其財產ニ關スル法律行爲ニ付キ被後見

人ヲ代表ス
第八百八十四條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之
ヲ準用ス

第九百二十四條 後見人ハ其就職ノ初ニ於テ親
族會ノ同意ヲ得テ被後見人ノ生活、教育又ハ
療養看護及ヒ財産ノ管理ノ爲メ毎年費スヘキ
金額ヲ豫定スルコトヲ要ス
前項ノ豫定額ハ親族會ノ同意ヲ得ルニ非サレ
ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但己ムコトヲ得サ
ル場合ニ於テ豫定額ヲ超ユル金額ヲ支出スル
コトヲ妨ケス

第九百二十五條 親族會ハ後見人及ヒ被後見人
資力其他ノ事情ニ依リ被後見人ノ財産中ヨリ
相當ノ報酬ヲ後見人ニ與フルコトヲ得但後見
人カ被後見人ノ配偶者、直系血族又ハ戶主ナ

ルトキハ此限ニ在ラス
第九百二十六條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得テ
有給ノ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得但第百
六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百二十七條 親族會ハ後見人就職ノ初ニ於
テ後見人カ被後見人ノ爲メニ受取りタル金錢
カ何程ノ額ニ達セハ之ヲ寄託スヘキカヲ定ム
ルコトヲ要ス
後見人カ被後見人ノ爲メニ受取りタル金錢カ
親族會ノ定メタル額ニ達スルモ相當ノ期間内
ニ之ヲ寄託セサルトキハ其法定利息ヲ拂フコ
トヲ要ス
金錢ヲ寄託スヘキ場所ハ親族會ノ同意ヲ得テ
後見人之ヲ定ム

第九百二十八條 指定後見人及ヒ選定後見人ハ

每年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親
族會ニ報告スルコトヲ要ス

第九百二十九條 後見人カ被後見人ニ代ハリテ
營業若クハ第十二條第一項ニ掲ケタル行爲ヲ
爲シ又ハ未成年者ノ之ヲ爲スコトニ同意スル
ニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但元本ノ
領收ニ付テハ此限ニ在ラス

第九百三十條 後見人カ被後見人ノ財産又ハ
被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタル
トキハ被後見人ハ之ヲ取消スコトヲ得此場合
ニ於テハ第十九條ノ規定ヲ準用ス
前項ノ規定ハ第百二十一條乃至第百二十六條
ノ適用ヲ妨ケス

第九百三十一條 後見人ハ親族會ノ同意ヲ得ル
ニ非サレハ被後見人ノ財産ヲ賃借スルコトヲ

得ス

第九百三十二條 後見人カ其任務ヲ曠ケスルト
キハ親族會ハ臨時管理人ヲ選任シ後見人ノ責
任ヲ以テ被後見人ノ財産ヲ管理セシムルコト
ヲ得

第九百三十三條 親族會ハ後見人ヲシテ被後見
人ノ財産ノ管理及ヒ返還ニ付キ相當ノ擔保ヲ
供セシムルコトヲ得

第九百三十四條 被後見人カ戶主ナルトキハ後
見人ハ之ニ代ハリテ其權利ヲ行フ但家族ヲ離
籍シ、其復籍ヲ拒ミ又ハ家族カ分家ヲ爲シ若
クハ廢絶家ヲ再興スルコトニ同意スルニハ親
族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

後見人ハ未成年者ニ代ハリテ親權ヲ行フ但第
九百十七條乃至第九百二十一條及ヒ前十條ノ

規定ヲ準用ス

第九百三十五條 親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサル場合ニ於テハ後見人ハ財産ニ關スル權限ノミヲ有ス

第九百三十六條 第六百四十四條、第八百八十七條、第八百八十九條第二項及ヒ第八百九十二條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第四節 後見ノ終了

第九百三十七條 後見人ノ任務カ終了シタルトキハ後見人又ハ其相續人ハ二个月内ニ其管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ親族會ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第九百三十八條 後見ノ計算ハ後見監督人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲ス

後見人ノ更迭アリタル場合ニ於テハ後見人ノ

計算ハ親族會ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九百三十九條 未成年者カ成年ニ達シタル後後見ノ計算ノ終了前ニ其者ト後見人又ハ其相續人トノ間ニ爲シタル契約ハ其者ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得其者カ後見人又ハ其相續人ニ對シテ爲シタル單獨行爲亦同シ

第十九條及ヒ第二百二十一條乃至第二百二十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百四十條 後見人カ被後見人ニ返還スヘキ金額及ヒ被後見人カ後見人ニ返還スヘキ金額ニハ後見人ノ計算終了ノ時ヨリ利息ヲ附スコトヲ要ス

後見人カ自己ノ爲メニ被後見人ノ金額ヲ消費シタルトキハ其消費ノ時ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償

ノ責ニ任ス

第九百四十一條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ後見ニ之ヲ準用ス

第九百四十二條 第八百九十四條ニ定メタル時効ハ後見人、後見監督人又ハ親族會員ト被後見人トノ間ニ於テ後見ニ關シテ生シタル債權ニ之ヲ準用ス

前項ノ時効ハ第九百三十九條ノ規定ニ依リテ法律行爲ヲ取消シタル場合ニ於テハ其取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第九百四十三條 前條第一項ノ規定ハ保佐人又ハ親族會員ト準禁治產者トノ間ニ之ヲ準用ス

第七章 親族會

第九百四十四條 本法其他ノ法令ノ規定ニ依リ親族會ヲ開クヘキ場合ニ於テハ會議ヲ要スル

事件ノ本人、戸主、親族、後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ招集ス

第九百四十五條 親族會員ハ三人以上トシ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所之ヲ選定ス

後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定スルコトヲ得

第九百四十六條 遠隔ノ地ニ居住スル者其他正當ノ事由アル者ハ親族會員タルコトヲ辭スルコトヲ得

後見人、後見監督人及ヒ保佐人ハ親族會員タルコトヲ得ス

第九百四十七條 親族會ノ議事ハ會員ノ過半數

ヲ以テ之ヲ決ス
會員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ
數ニ加ハルコトヲ得ス

第九百四十八條 本人、戶主、家ニ在ル父母、
配偶者、本家並ニ分家ノ戶主、後見人、後見
監督人及ヒ保佐人ハ親族會ニ於テ其意見ヲ述
ブルコトヲ得

親族會ノ招集ハ前項ニ掲ケタル者ニ之ヲ通知
スルコトヲ要ス

第九百四十九條 無能力者ノ爲メニ設ケタル親
族會ハ其者ノ無能力ノ止ムマテ繼續ス但親族

會ハ最初ノ招集ノ場合ヲ除ク外本人、其法定
代理人、後見監督人、保佐人又ハ會員之ヲ招
集ス

第九百五十條 親族會ニ缺員ヲ生シタルトキハ

會員ハ補缺員ノ選定ヲ裁判所ニ請求スルコト
ヲ要ス

第九百五十一條 親族會ノ決議ニ對シテハ一個
月内ニ會員又ハ第九百四十四條ニ掲ケタル者
ヨリ其不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得

第九百五十二條 親族會カ決議ヲ爲スコト能ハ
サルトキハ會員ハ其決議ニ代ハルヘキ裁判ヲ
爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百五十三條 第六百四十四條ノ規定ハ親族
會員ニ之ヲ準用ス

第八章 扶養ノ義務

第九百五十四條 直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ
扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家
ニ在ル者トノ間亦同シ

第九百五十五條 扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル
場合ニ於テハ其義務ヲ履行スヘキ者ノ順序左
ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系尊屬

第三 直系尊屬

第四 戶主

第五 前條第二項ニ掲ケタル者

第六 兄弟姉妹

直系尊屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ
最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項ニ掲ケタル直
系尊屬亦同シ

第九百五十六條 同順位ノ扶養義務者數人アル
トキハ各其資力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス但家
ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家

ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第九百五十七條 扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者
數人アル場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ其全
員ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義務者ハ
左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第一 直系尊屬

第二 直系尊屬

第三 配偶者

第四 第九百五十四條第二項ニ掲ケタル者

第五 兄弟姉妹

第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第九百五十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ
之ヲ準用ス

第九百五十八條 同順位ノ扶養權利者數人アル
トキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコトヲ

得

第九百五十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九百五十九條 扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキニノミ存在ス自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要力之ヲ受クヘキ者ノ過失ニ因ラシテ生シタルトキニノミ存在ス但扶養義務者カ戶主ナルトキハ此限ニ在ラス

第九百六十條 扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リテ之ヲ定ム
第九百六十一條 扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶

養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラ

スシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第九百六十二條 扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得
第九百六十三條 扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第五編 相續

第一章 家督相續

第一節 總則

第九百六十四條 家督相續ハ左ノ事由ニ因リテ開始ス

一 戶主ノ死亡、隱居又ハ國籍喪失
二 戶主カ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ニ因リテ其家ヲ去リタルトキ

三 女戶主ノ入夫婚姻ハ入夫ノ離婚

第九百六十五條 家督相續ハ被相續人ノ住所ニ於テ開始ス

第九百六十六條 家督相續回復ノ請求權ハ家督相續人又ハ其法定代理人カ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ
第九百六十七條 相續財産ニ關スル費用ハ其財産中ヨリ之ヲ支辨ス但家督相續人ノ過失ニ因ルモノハ此限ニ在ラス
前項ニ掲ケタル費用ハ遺留分權利者カ贈與ノ

減殺ニ因リテ得タル財産ヲ以テ支辨スルコトヲ要セス

第二節 家督相續人

第九百六十八條 胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ胎兒カ死體ニテ生マレタルトキハ之ヲ適用セス

第九百六十九條 左ニ掲ケタル者ハ家督相續人タルコトヲ得ス

- 一 故意ニ被相續人又ハ家督相續ニ付キ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者
- 二 被相續人ノ殺害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發又ハ告訴セザリシ者但其他者ノ是非ノ辨別ナキトキ又ハ殺害者カ自

已ノ配偶者若クハ直系血族ナリシトキハ此限ニ在ラス

三 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續者カ相續ニ關スル遺言ヲ爲シ、之ヲ取消シ又ハ之ヲ變更スルコトヲ妨ケタル者

四 詐欺又ハ強迫ニ因リ被相續人ヲシテ相續ニ關スル遺言ヲ爲サシメ、之ヲ取消サシメ又ハ之ヲ變更セシメタル者

五 相續ニ關スル被相續人ノ遺言書ヲ偽造、變造、毀滅又ハ藏匿シタル者

第九百七十條 被相續人ノ家族タル直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ相續人ト爲ル

一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

二 親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男子先ニス

三 親等ノ同シキ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス

四 親等ノ同シキ嫡出子、庶子及ヒ私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及ヒ庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス

五 前四號ニ掲ケタル事項ニ付キ相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第八百三十六條ノ規定ニ依リ又ハ養子縁組ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得シタル者ハ家督相續ニ付テハ嫡出子タル身分ヲ取得シタル時ニ生マレタルモノト看做ス

第九百七十一條 前條ノ規定ハ第七百三十六條ノ適用ヲ妨ケス

第九百七十二條 第七百三十七條及ヒ第七百三

十八條ノ規定ニ依リテ家族ト爲リタル直系卑屬ハ嫡出子又ハ庶子タル他ノ直系卑屬ナキ場合ニ限リ第九百七十條ノ規定シタル順序ニ從ヒテ家督相續人ト爲ル

第九百七十二條 法定ノ推定家督相續人ハ兄弟姉妹ノ爲メニスル養子縁組ニ因リテ其相續權ヲ害セララルコトナシ

第九百七十四條 第九百七十條及ヒ第九百七十二條ノ規定ニ依リテ家督相續人タルヘキ者カ家督相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ第九百七十條及ヒ第九百七十二條ニ定メタル順序ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ家督相續人ト爲ル

第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ニ付キ

左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト

二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキコト

三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト

四 浪費者トシテ準禁治産ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト

此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

第九百七十六條 被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯

ナク裁判所ニ廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス此
場合ニ於テハ廢除ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡
リテ其效力ヲ生ス

第九百七十七條 推定家督相續人廢除ノ原因止
ミタルトキハ被相續人又ハ推定家督相續人ハ
廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百七十五條 第一號ノ場合ニ於ケル
被相續人ハ何時ニテモ廢除ノ取消ヲ請求スル
コトヲ得

前二項ノ規定ハ相續開始ノ後ハ之ヲ適用セズ
前條ノ規定ハ廢除ノ取消ニ之ヲ適用ス

第九百七十八條 推定家督相續人ノ廢除又ハ其
取消ノ請求アリタル後其裁判確定前ニ相續カ
開始シタルトキハ裁判所ハ親族、利害關係人
又ハ險事ノ請求ニ因リ戸主權ノ行使及ヒ遺產

ノ管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得
廢除ノ遺言アリタルトキ亦同シ
裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ第
二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第九百七十九條 法定ノ推定家督相續人ナキト
キハ被相續人ハ家督相續人ヲ指定スルコトヲ
得此指定ハ法定ノ家督相續人アルニ至リタル
トキハ其效力ヲ失フ

家督相續人ノ指定ハ之ヲ取消スコトヲ得
前二項ノ規定ハ死亡又ハ隱居ニ因ル家督相續
ノ場合ニノミ之ヲ適用ス

第九百八十條 家督相續人ノ規定及ヒ其取消
ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生
ス

第九百八十一條 被相續人カ遺言ヲ以テ家督相
續人ノ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタ
ルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタ
ル後遲滞ナク之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要
ス此場合ニ於テ指定又ハ其取消ハ被相續人ノ
死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第九百八十二條 法定又ハ指定ノ家督相續人ナ
キ場合ニ於テ其家ニ被相續人ノ父アルトキハ
父、父アラサルトキ又ハ父カ其意思ヲ表示ス
ルコト能ハサルトキハ母、父母共ニアラサル
トキ又ハ其意思ヲ表示スルコト能ハサルトキ
ハ親族會ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相
續人ヲ選定ス

第一 配偶者但家女ナルトキ

第二 兄弟

第三 姉妹

第九百八十四條 第九百八十二條ノ規定ニ依リ
テ家督相續人タル者ナキトキハ家ニ在ル直系
尊屬中親等ノ最モ近キ者家督相續人ト爲ル但
親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

第九百八十五條 前條ノ規定ニ依リテ家督相續
人タル者ナキトキハ親族會ノ被相續人ノ親族
家族、分家ノ戸主又ハ本家若クハ分家ノ家族
中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

前項ニ掲ケタル者ノ中ニ家督相續人タルヘキ

第四 第一號ニ該當セサル配偶者

第五 兄弟姉妹ノ直系卑屬

第九百八十三條 家督相續人ヲ選定スヘキ者ハ
正當ノ事由アル場合ニ限り裁判所ノ許可ヲ得
テ前條ニ掲ケタル順序ヲ變更シ又ハ選定ヲ爲
ササルコトヲ得

第九百八十四條 第九百八十二條ノ規定ニ依リ
テ家督相續人タル者ナキトキハ家ニ在ル直系
尊屬中親等ノ最モ近キ者家督相續人ト爲ル但
親等ノ同シキ者ノ間ニ在リテハ男ヲ先ニス

第九百八十五條 前條ノ規定ニ依リテ家督相續
人タル者ナキトキハ親族會ノ被相續人ノ親族
家族、分家ノ戸主又ハ本家若クハ分家ノ家族
中ヨリ家督相續人ヲ選定ス

前項ニ掲ケタル者ノ中ニ家督相續人タルヘキ

者ナキトキハ親族會ハ他人ノ中ヨリ之ヲ選定ス

親族會ハ正當ノ事由アル場合ニ限り前二項ノ規定ニ拘ハラズ裁判所ノ許可ヲ得テ他人ヲ選定スルコトヲ得

第三節 家督相續ノ效力

第九百八十六條 家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戶主ノ有セシ權利義務ヲ承繼ス但前戶主ノ一身ニ專屬セルモノハ此限ニ在ラス

第九百八十七條 系譜、及ヒ祭具墳墓ノ所有權ハ家督相續ノ特權ニ屬ス

第九百八十八條 隱居者及ヒ入夫婚姻ヲ爲ス女戶主ハ確定日附アル證書ニ依リテ其財産ヲ留保スルコトヲ得但家督相續人ノ遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第九百八十九條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ノ債權者ハ其前戶主ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

入夫ノ婚姻取消又ハ入夫ノ離婚ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ入夫カ戶主タリシ間ニ負擔シタル債務ノ辨濟ハ其入夫ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ家督相續人ニ對スル請求ヲ妨ケス

第九百九十條 國籍喪失者ノ家督相續人ハ戶主權及ヒ家督相續ノ特權ニ屬スル權利ノミヲ承繼ス但遺留分及ヒ前戶主カ特ニ指定シタル相續財産ヲ承繼スルコトヲ妨ケス

國籍喪失者カ日本人ニ非サシハ享有スルコトヲ得サル權利ヲ有スル場合ニ於テ一年內ニ之

ヲ日本人ニ讓渡ササルトキハ其權利ハ家督相續人ニ歸屬ス

第九百九十一條 國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ノ債權者ハ家督相續人ニ對シテハ其受ケタル財産ノ限度ニ於テノミ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第一章 遺產相續

第一節 總則

第九百九十二條 遺產相續ハ家族ノ死亡ニ因リテ開始ス

第九百九十三條 第九百六十五條乃至第九百六十八條ノ規定ハ遺產相續ニ之ヲ準用ス

第二節 遺產相續人

第九百九十四條 被相續人ノ直系卑屬ハ左ノ規定ニ從ヒ遺產相續人ト爲ル

一 親等ノ異ナリタル者ノ間ニ在リテハ其近キ者ヲ先ニス

二 親等ノ同シキ者ハ同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第九百九十五條 前條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者カ相續ノ開始前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ前條ノ規定ニ從ヒ其者ト同順位ニ於テ遺產相續人ト爲ル

第九百九十六條 前二條ノ規定ニ依リテ遺產相續人タルヘキ者ナキ場合ニ於テ遺產相續人ト爲ルヘキ者ノ順位左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系尊屬

第三 戶主

前項第二號ノ場合ニ於テハ第九百九十四條ノ規定ヲ準用ス

第九百九十七條 左ニ掲ケタル者ハ遺産相續人タルコトヲ得ス

- 一 故意ニ被相續人又ハ遺産相續ニ付キ先順位若クハ同順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者
- 二 第九百六十九條第二號乃至第五號ニ掲ケタル者

第九百九十八條 遺留分ヲ有スル推定遺産相續人カ被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルトキハ被相續人ハ其推定遺産相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第九百九十九條 被相續人ハ何時ニテモ推定遺産相續人廢除ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第一千條 第九百七十六條及ヒ第九百七十八條ノ規定ハ推定遺産相續人ノ廢除及ヒ其取消ニ之ヲ準用ス

第二節 遺産相續ノ效力

第一款 總則

第一千一條 遺産相續人ハ相續開始ノ時ヨリ被相續人ノ財産ニ屬セシ一切ノ權利義務ヲ承繼ス但被相續人ノ一身ニ專屬セシモノハ此限ニ在ラス

第一千二條 遺産相續人數人アルトキハ相續財産ハ其共有ニ屬ス

第一千三條 各共同相續人ハ其相續分ニ應シテ被

相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二款 相續分

第一千四條 同順位ノ相續人數人アルトキハ其各自ノ相續分ハ相均シキモノトス但直系卑屬數人アルトキハ庶子及ヒ私生子ノ相續分ハ嫡出子ノ相續分ノ二分ノ一トス

第一千五條 第九百九十五條ノ規定ニ依リテ相續人タル直系卑屬ノ相續分ハ其直系尊屬カ受クヘカリシモノニ同シ但直系卑屬數人アルトキハ其各自ノ直系尊屬カ受クヘカリシ部分ニ付キ前條ノ規定ニ從ヒテ其相續分ヲ定ム

第一千六條 相續人ハ前二條ノ規定ニ拘ハラズ遺言ヲ以テ共同相續人ノ相續分ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得但被相續人又ハ第三者ハ遺留分ニ關スル規定ニ

違反スルコトヲ得ス

被相續人カ共同相續人中ノ一人若クハ數人ノ相續分ノミヲ定メ又ハ之ヲ定メシメタルトキハ他ノ共同相續人ノ相續分ハ前二條ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第一千七條 共同相續人中被相續人ヨリ遺贈ヲ受ケ又ハ婚姻、養子縁組、分家、廢絶家再興ノ爲メ若クハ生計ノ資本トシテ贈與ヲ受ケタル者アルトキハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與ノ價額ヲ加ヘタルモノヲ相續財産ト看做シ前二條ノ規定ニ依リテ算定シタル相續分ノ中ヨリ其遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シ其殘額ヲ以テ其者ノ相續分トス

遺贈又ハ贈與ノ價額カ相續分ノ價額ニ等シク

又ハ之ニ超ムルトキハ受遺者又ハ受贈者ハ其相續分ヲ受ケルコトヲ得ス
 被相續人カ前二項ノ規定ニ異ナリタル意思ヲ表示シタルトキハ其意思表示ハ遺留分ニ關スル規定ニ反セサル範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス
 第一千八條 前條ニ掲ケタル贈與ノ價額ハ受贈者ノ行爲ニ因リ其目的タル財産カ滅失シ又ハ其價格ノ贈減アリタルトキト雖モ相續開始ノ當時仍ホ原狀ニテ存スルモノト看做シテ之ヲ定ム
 第一千九條 共同相續人ノ一人カ分割前ニ其相續分ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ他ノ共同相續人ハ其價額及ヒ費用ヲ償還シテ其相續分ヲ讓受ケルコトヲ得
 前項ニ定メタル權利ハ一个月内ニ之ヲ行使ス

ルコトヲ要ス

第三款 遺産ノ分割

第一千十條 被相續人ハ遺言ヲ以テ分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得
 第一千十一條 被相續人ハ遺言ヲ以テ相續開始ノ時ヨリ五年ヲ起エサル期間内分割ヲ禁スルコトヲ得
 第一千十二條 遺産ノ分割ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス
 第一千十三條 各共同相續人ハ相續開始前ヨリ存スル事由ニ付キ他ノ共同相續人ニ對シ賣主ト同シク其相續分ニ應シテ擔保ノ責ニ任ス
 第一千十四條 各共同相續人ハ其相續分ニ應シ他ノ共同相續人カ分割ニ因リテ受ケタル債權ニ

付キ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス
 辨濟則ニ在ラサル債權及ヒ停止條件附債權ニ付テハ各共同相續人ハ辨濟ヲ爲スヘキ時ニ於ケル債務者ノ資力ヲ擔保ス
 第一千十五條 擔保ノ責ニ任スル共同相續人中償還ヲ爲ス資力ナキ者アルトキハ其償還スルコト能ハサル部分ハ求償者及ヒ他ノ資力アル者各其相續分ニ應シテ之ヲ分擔ス但求償者ニ過失アルトキハ他ノ共同相續人ニ對シテ分擔ヲ請求スルコトヲ得ス
 第一千十六條 前三條ノ規定ハ被相續人カ遺言ヲ以テ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ適用セス

第三章 相續ノ承認及ヒ拋棄

第一節 總則

第一千十七條 相續人ハ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知りタル時ヨリ三個月内ニ單純若クハ限定ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ要ス但此期間ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ裁判所ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得
 相續人ハ承認又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ相續財産ノ調査ヲ爲スコトヲ得
 第一千十八條 相續人カ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタルトキハ前條第一項ノ期間ハ其者ノ相續人カ自己ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知りタル時ヨリ之ヲ起算ス
 第一千十九條 相續人カ無能力者ナルトキハ第一千十七條第一項ノ期間ハ其法定代理人カ無能力者ノ爲メニ相續ノ開始アリタルコトヲ知りタ

ル時ヨリ之ヲ起算ス
第一千二十條 法定家督相續人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス但第九百八十四條ニ掲ケタル者ハ此限ニ在ラス

第一千二十一條 相續人ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理スルコトヲ要ス但承認又ハ拋棄ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ何時ニテモ相續財産ノ保存ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所カ管理人ヲ選任シタル場合ニ於テハ**第二十七條**乃至**第二十九條**ノ規定ヲ準用ス
第一千二十二條 承認及ヒ拋棄ハ**第一千十七條**第一項ノ期間内ト雖モ之ヲ取消スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ第一編及ヒ前編ノ規定ニ依リテ承認又ハ拋棄ノ取消ヲ爲スコトヲ妨グス但其取消權ハ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ六個月間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス承認又ハ拋棄ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第二節 承認

第一款 單純承認

第一千二十三條 相續人カ單純承認ヲ爲シタルトキハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼ス

第一千二十四條 左ニ掲ケタル場合ニ於テハ相續人ハ單純承認ヲ爲シタルモノト看做ス

- 一 相續人カ相續財産ノ全部又ハ一部ヲ處分シタルトキ但保存行爲及ヒ第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸貸ヲ爲

スハ此限ニ在ラス

二 相續人カ**第一千十七條**第一項ノ期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲サザリシトキ

三 相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ト雖モ相續財産ノ全部若クハ一部ヲ隱匿シ、私ニ之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之ヲ財産目録中ニ記載セザリシトキ但相續人カ拋棄ヲ爲シタルニ因リテ相續人ト爲リタル者カ承認ヲ爲シタル後ハ此限ニ在ラス

第二款 限定承認

第一千二十五條 相續人ハ相續ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テノ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スヘキコトヲ留保シテ承認ヲ爲スコトヲ得

第一千二十六條 相續人カ限定承認ヲ爲サント欲スルトキハ**第一千十七條**第一項ノ期間内ニ財産目録ヲ調製シテ之ヲ裁判所ニ提出シ限定承認ヲ爲ス旨ヲ申述スルコトヲ要ス

第一千二十七條 相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ其被相續人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セザリシモノト看做ス

第一千二十八條 限定承認者ハ其固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六百四十五條、**第六百四十六條**、**第六百五十一條**第一項、**第二項**及ヒ**第一千二十一條**第二項、**第三項**ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千二十九條 限定承認者ハ限定承認ヲ爲シタル後五日內ニ一切ノ相續者債權及ヒ受遺者ニ

對シ限定承認者ヲ爲シタルコト及ヒ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但此期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 限定承認者ハ前條第一項ノ期間満了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

第三十一條 第三十九條第一項ノ期間満了後ハ限定承認者ハ相續財產ヲ以テ其期間内ニ申出テタル債權者其他知レタル債權者ニ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先債權者有スル債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

債權ト雖モ前條ノ規定ニ依リテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス
條件附債權又ハ存續期間ノ不確定ナル債權ハ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒテ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス
第三十三條 限定承認者ハ前二條ノ規定ニ依リテ各債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ非サレハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス
第三十四條 前三條ノ規定ニ從ヒテ辨濟ヲ爲スニ付キ相續財產ノ賣却ヲ必要トスルトキハ限定承認者ハ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ要ス但裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ相續財產ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟シテ其競賣ヲ止ムルコトヲ得
第三十五條 相續債權者及ヒ受遺者ハ自己ノ

費用ヲ以テ相續財產ノ競賣又ハ鑑定ニ參加スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二百六十條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十六條 限定承認者カ第三十九條ニ定メタル公告若クハ催告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ同條第一項ノ期間内ニ或債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シタルニ因リ他ノ債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス第三十條乃至第三十三條ノ規定ニ違反シテ辨濟ヲ爲シタルトキ亦同シ
前項ノ規定ハ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ニ對スル他ノ債權者又ハ受遺者ノ求償ヲ妨ケス
第七百二十四條ノ規定ハ前二項ノ場合ニモ亦

之ヲ適用ス

第三十七條 第三十九條第一項ノ期間内ニ申出テサリシ債權者及ヒ受遺者ニシテ限定承認者ニ知レサリシ者ハ殘餘財產ニ付テノミ其權利ヲ行フコトヲ得但相續財產ニ付キ特別擔保ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第三節 拋棄

第三十八條 相續ノ拋棄ヲ爲サント欲スル者ハ其旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス
第三十九條 拋棄ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス
數人ノ遺產相續人アル場合ニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ其相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應シテ之ニ歸屬ス
第四十條 相續ノ拋棄ヲ爲シタル者ハ其拋

棄ニ因リテ相續人ト爲リタル者カ相續財産ノ管理ヲ始ムルコトヲ得ルマテ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ其財産ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

第六百四十條、第六百四十六條、第六百五十二條第一項、第二項及ヒ第一千二十一條第二項、第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章 財産ノ分離

第一千四十一條 相續債權者又ハ受遺者ハ相續開始ノ時ヨリ三個月内ニ相續人ノ財産中ヨリ相續財産ヲ分離セシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得其期間満了ノ後ト雖モ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間亦同シ

裁判所カ前項ノ請求ニ因リテ財産ノ分離ヲ命シタルトキハ其請求ヲ爲シタル者ハ五日内ニ

他ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ財産分離ノ命令アリタルコト及ヒ一定ノ期間内ニ配當加入ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二個月ヲ下ルコトヲ得ス

第一千四十二條 産財分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産ニ付キ相續人ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受ケ

第一千四十三條 財産分離ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ相續財産管理ニ付キ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所カ管人理ヲ選任シタル場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用ス

第一千四十四條 相續人ハ單純承認ヲ爲シタル後ト雖モ財産分離ノ請求アリタルトキハ爾後其

固有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ニ於テ管

理人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百四十五條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條第一項、第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十五條 財産ノ分離ハ不動産ニ付テハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第一千四十六條 第三百四條ノ規定ハ財産分離ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十七條 相續人ハ第一千四十一條第一項及ヒ第二項ノ期間満了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

財産分離ノ請求アリタルトキハ相續人ハ第一千

四十一條第二項ノ期間満了ノ後相續財産ヲ以テ財産分離ノ請求又ハ配當加入ノ申出ヲ爲シ

タル債權者及ヒ受遺者ニ各其債權ノ割合ニ應

ジテ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス但優先債權ヲ有スル

債權者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第一千三十二條乃至第一千三十六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一千四十八條 財産分離ノ請求ヲ爲シタル者及ヒ配當加入ノ申出ヲ爲シタル者ハ相續財産ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受ケルコト能ハサリシ場合ニ限り相續人ノ固有財産ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得此場合ニ於テハ相續人ノ債權者ハ其

者ニ先チテ辨濟ヲ受ケルコトヲ得

第一千四十九條 相續人ハ其固有財産ヲ以テ相續債權者若クハ受遺者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ之ニ相

當ノ擔保ヲ供シテ財産分離ノ請求ヲ防止シ又ハ其效力ヲ消滅セシムルコトヲ得但相續人ノ債權者カ之ニ因リテ損害ヲ受クヘキコトヲ證明シテ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラズ

第千五十條 相續人カ限定承認ヲ爲スコトヲ得ル間又ハ相續財産カ相續人ノ固有財産ト混合セサル間ハ其債權者ハ財産分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三百四條、第千二十七條、第千二十九條乃至第千三十六條、第千四十三條乃至第千四十五條及ヒ第千四十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千二十九條ニ定メタル公告及ヒ催告ハ財産分離ノ請求ヲ爲シタル債權者之ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 相續人ノ曠缺

第千五十一條 相續人アルコト分明ナラサルトキハ相續財産ハ之ヲ法人トス

第千五十二條 前條ノ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續財産ノ管理入ヲ選任スルコトヲ要ス

裁判所ハ遲滯ナリ管理入ノ選任ヲ公告スルコトヲ要ス

第千五十三條 第二十七條乃至第二十九條ノ規定ハ相續財産ノ管理入ニ之ヲ準用ス

第千五十四條 管理入ハ相續債權者又ハ受遺者ノ請求アルトキハ之ニ相續財産ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第千五十五條 相續人アルコト分明ナルニ至リタルトキハ法人ハ存立セザリシモノト看做ス但管理入カ其權限内ニ於テ爲シタル行爲ノ效

力ヲ妨ケス

第千五十六條 管理入ノ代理權ハ相續人カ相續ノ承認ヲ爲シタル時ニ於テ消滅ス

前項ノ場合ニ於テハ管理入ハ遲滯ナリ相續人ニ對シテ管理ノ計算ヲ爲スコトヲ要ス

第千五十七條 第千五十二條第二項ニ定メタル公告アリタル後二个月内ニ相續人アルコト分明ナルニ至ラサルトキハ管理入ハ遲滯ナリ一切ノ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條第二項、第三項及ヒ第千三十條乃至第千三十七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第千三十四條但書ノ規定ハ此限ニ在ラズ

第千五十八條 前條第一項ノ期間満了ノ後仍ホ相續人アルコト分明ナラサルトキハ裁判所ハ管理入又ハ檢事ノ請求ニ因リ相續人アラハ一定ノ期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ公告スルコトヲ要ス但其期間ハ一年ヲ下ルコトヲ得ス

第千五十九條 前條ノ期間内ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相續財産ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テハ第千五十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス

第六章 遺言

第一節 總則

第千六十條 遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ從

フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第六十一條 兩十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 第四條、第九條、第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セス

第六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス

第六十四條 遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財産ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス

第六十五條 第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス

第六十六條 被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ト

爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無効トス
前項ノ規定ハ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス

第一節 遺言ノ方式
第一款 普通方式
第六十七條 遺言ハ自筆證書、公正證書又ハ秘密證書ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但特別方式ニ依ルコトヲ許ス場合ハ此限ニ在ラズ

第六十八條 自筆證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ遺言者其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シ之ニ捺印スルコトヲ要ス
自筆證書中ノ挿入、削除其他ノ變更ハ遺言者其場所ヲ指示シ之ヲ變更シタル旨ヲ附記シテ特ニ之ニ署名シ且其變更ノ場所ニ捺印スルニ

非サレハ其效ナシ

第六十九條 公正證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一 證人二人以上ノ立會アルコト

二 遺言者ノ趣旨ヲ公證人ニ口授スルコト

三 公證人カ遺言者ノ口述ヲ筆記シ之ヲ遺言者及ヒ證人ニ讀聞カスコト

四 遺言者及ヒ證人カ筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後各自之ニ署名、捺印スルコト但遺言者カ署名スルコト能ハサル場合ニ於テハ公證人其事由ヲ附記シテ署名ニ代フルコトヲ得

五 公證人カ其證書ハ前四號ニ掲ケタル方式ニ從ヒテ作りタルモノナル旨ヲ附記シテ之ニ署名、捺印スルコト

第七十條 秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲スニハ左ノ方式ニ從フコトヲ要ス

一 遺言者カ其證書ニ署名、捺印スルコト印章ヲ以テ之ニ封印スルコト

二 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人以上ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書ナル旨及ヒ其筆者ノ氏名、住所ヲ申述スルコト

三 公證人カ其證書提出ノ日附及ヒ遺言者ノ申述ヲ封紙ニ記載シタル後遺言者及ヒ證人ト共ニ之ニ署名、捺印スルコト

第七十一條 秘密證書ニ依ル遺言ハ前條ニ定

メタル方式ニ缺グルモノアルモ第千六十八條ノ方式ヲ具備スルトキハ自筆證書ニ依ル遺言トシテ其效力ヲ有ス

第七十二條 言語ヲ發スルコト能ハサル者カ秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ遺言者ハ公證人及ヒ證人ノ前ニ於テ其證書ハ自己ノ遺言書ナル旨竝ニ其筆者ノ氏名、住所ヲ封紙ニ自書シテ第千七十條第一項第三號ノ申述ニ代フルコトヲ要ス

公證人ハ遺言カ前項ニ定メタル方式ヲ踐ミタル旨ヲ封紙ニ記載シテ申述ノ記載ニ代フルコトヲ要ス

第七十三條 禁治産者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス

遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在ラザリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス但秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ其封紙ニ右ノ記載及ヒ署名、捺印ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條 左ニ掲ケタル者ハ遺言ノ證人又ハ立會人タルコトヲ得ス

- 一 未成年者
- 二 禁治産者及ヒ準禁治産者
- 三 剝奪公權者及ヒ停止公權者
- 四 遺言者ノ配偶者
- 五 推定相続人、受遺者及ヒ其配偶者竝ニ直系血族
- 六 公證人ト家ヲ同シケル者及ヒ公證人

ノ直系血族竝ニ筆生、雇人

第七十五條 遺言ハ二人以上同一ノ證書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二款 特別方式

第七十六條 疾病其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル者カ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ證人三人以上ノ立會ヲ以テ其一人ニ遺言ノ趣旨ヲ口授シテ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ其口授ヲ受ケタル者之ヲ筆記シテ遺言者及ヒ他ノ證人ニ讀聞ガセ各證人其筆記ノ正確ナルコトヲ承認シタル後之ヲ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言ノ日ヨリ二十日內ニ證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ裁判所ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非ザレハ

其效ナシ

裁判所ハ遺言カ遺言者ノ眞意ニ出テタル心證ヲ得ルニ非ザレハ之ヲ確認スルコトヲ得ス

第七十七條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル場所ニ在ル者ハ警察官一人及ヒ證人一人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第七十八條 從軍中ノ軍人及ヒ軍屬ハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得若シ將校及ヒ相當官カ其場所ニ在ラザルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

從軍中ノ軍人又ハ軍屬カ疾病又ハ傷疾ノ爲メ病院ニ在ルトキハ其院ノ醫師ヲ以テ前項ニ掲ゲタル將校又ハ相當官ニ代フルコトヲ得

第七十九條 從軍中疾病、傷殘其他ノ事由ニ因リテ死亡ノ危急ニ迫リタル軍人及ヒ軍屬ハ證人二人以上ノ立會ヲ以テ口頭ニテ遺言ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル遺言ハ證人其旨趣ヲ筆記シテ之ニ署名、捺印シ且證人ノ一人又ハ利害關係人ヨリ遲滯ナク理事又ハ主理ニ請求シテ其確認ヲ得ルニ非サレハ其效ナシ第千七十六條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十條 艦船中ニ在ル者ハ軍艦及ヒ海軍所屬ノ船舶ニ於テハ將校又ハ相當官一人及ヒ證人二人以上其他ノ船舶ニ於テハ船長又ハ事務員一人及ヒ證人二人以上ノ立會ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ將校又ハ相當官カ其艦船中ニ在テサルトキハ準士官又ハ下士一人ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八十一條 第七十九條ノ規定ハ艦船遭難ノ場合ニ之ヲ準用ス但海軍ノ所屬ニ非サル船舶中ニ在ル者カ遺言ヲ爲シタル場合ニ於テハ其確認ハ之ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

第八十二條 第七十七條、第七十八條及ヒ第八十條ノ場合ニ於テハ遺言者、筆者、立會人及ヒ證人ハ各自遺言書ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

第八十三條 第七十七條乃至第八十一條ノ場合ニ於テ署名又ハ捺印スルコト能ハサル者アルトキハ立會人又ハ證人ハ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第八十四條 第六十八條第二項及ヒ第七十三條乃至第七十五條ノ規定ハ前八條ノ規定ニ依ル遺言ニ之ヲ準用ス

第八十五條 前九條ノ規定ニ依リテ爲シタル遺言ハ遺言者カ普通法式ニ依リテ遺言ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル時ヨリ六個月間生存スルトキハ其效ナシ

第八十六條 日本ノ領事ノ駐在スル地ニ在ル日本人カ公正證書又ハ祕密證書ニ依リテ遺言ヲ爲サント欲スルトキハ公證人ノ職務ハ領事之ヲ行フ

第三節 遺言ノ效力

第八十七條 遺言ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

遺言ニ停止條件ヲ附シタル場合ニ於テ其條件

カ遺言者ノ死亡後ニ成就シタルトキハ遺言ハ條件成就ノ時ヨリ其效力ヲ生ス

第八十八條 受遺者ハ遺言者ノ死亡後何時ニテモ遺贈ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得

遺贈ノ拋棄ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ遡リ其效力ヲ生ス

第八十九條 遺贈義務者其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スヘキ旨ヲ受遺者ニ催告スルコトヲ得若シ受遺者カ其期間内ニ遺贈義務者ニ對シテ其意思ヲ表示セサルトキハ遺贈ヲ承認シタルモノト看做ス

第九十條 受遺者カ遺贈ノ承認又ハ拋棄ヲ爲サズシテ死亡シタルトキハ其相續人ハ自己ノ相續權ノ範圍内ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲ス

コトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表
示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千九十一條 遺贈ノ承認及ヒ拋棄ハ之ヲ取消
スコトヲ得ス

第一千九十二條 第二項ノ規定ハ遺贈ノ承認及ヒ
拋棄ニ之ヲ準用ス

第一千九十三條 包括受遺者ハ遺產相續人ト同一
ノ權利義務ヲ有ス

第一千九十四條 受遺者ハ遺贈カ辨濟期ニ至ラサ
ル間ハ遺贈義務者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求
スルコトヲ得停止條件附遺贈ニ付キ其條件ノ
成否未定ノ間亦同シ

第一千九十五條 受遺者ハ遺贈ノ履行ヲ請求スル
コトヲ得ル時ヨリ果實ヲ取得ス但遺言者カ其
遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思

ニ從フ

第一千九十五條 遺贈義務者カ遺言者ノ死亡後遺
贈ノ目的物ニ付キ費用ヲ出シタルトキハ第二
百九十九條ノ規定ヲ準用ス

果實ヲ收取スル爲メニ出シタル通常ノ必要費
ハ果實ノ價格ヲ超エサル限度ニ於テ其償還ヲ
請求スルコトヲ得

第一千九十六條 遺贈ハ遺言者ノ死亡前ニ受遺者
カ死亡シタルトキハ其效力ヲ生セス

停止條件附遺贈ニ付テハ受遺者カ其條件ノ成
就前ニ死亡シタルトキハ亦同シ但遺言者カ其
遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思
ニ從フ

第一千九十七條 遺贈カ其效力ヲ生セサルトキ又
ハ拋棄ニ因リ其效力ナキニ至リタルトキハ受

遺言者カ受クヘカリシモノハ相續人ニ歸屬ス但
遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルト
キハ其意思ニ從フ

第一千九十八條 遺贈ハ其目的タル權利カ遺言者
ノ死亡ノ時ニ於テ相續財產ニ屬セサルトキハ
其效力ヲ生セス但其權利カ相續財產ニ屬セザ
ルコトアルニ拘ハラズ之ヲ以テ遺贈ノ目的ト
爲シタルモノト認ムヘキトキハ此限ニ在ラズ

第一千九十九條 相續財產ニ屬セサル權利ヲ目的
トスル遺贈カ前條但書ノ規定ニ依リテ有效ナ
ルトキハ遺贈義務者ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ
受遺者ニ移轉スル義務ヲ負フ若シ之ヲ取得ス
ルコト能ハサルカ又ハ之ヲ取得スルニ付キ過
分ノ費用ヲ要スルトキハ其價額ヲ辨償スルコ
トヲ要ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表

示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千百條 不特定物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シ
タル場合ニ於テ受遺者カ追奪ヲ受ケタルトキ
ハ遺贈義務者ハ之ニ對シテ賣主ト同シク擔保
ノ責ニ任ス
前項ノ場合ニ於テ物ニ瑕疵アリタルトキハ遺
贈義務者ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フルコト
ヲ要ス

第一千百一條 遺言者カ遺贈ノ目的物ノ滅失若ク
ハ變造又ハ其占有ノ喪失ニ因リ第三者ニ對シ
テ償金ヲ請求スル權利ヲ有スルトキハ其權利
ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス
遺贈ノ目的物カ他ノ物ト附合又ハ混和シタル
場合ニ於テ遺言者カ第二百四十三條乃至第二
百四十五條ノ規定ニ依リ合成物又ハ混和物ノ

單獨所有者又ハ共有者ト爲リタルトキハ其全部ノ所有權又ハ共有權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千一百一十條 遺贈ノ目的タル物又ハ權利ガ遺言者ノ死亡ノ時ニ於テ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ受遺者ハ遺贈義務者ニ對シ其權利ヲ消滅セシムヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第一千一百一十一條 債權ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ遺言者カ辨濟ヲ受ケ且其受取リタル物カ尙ホ相續財産中ニ存スルトキハ其物ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

金錢ヲ目的トスル債權ニ付テハ相續財産中ニ其債權額ニ相當スル金錢ナキトキト雖モ其金

額ヲ以テ遺贈ノ目的ト爲シタルモノト推定ス

第一千一百一十二條 負擔附遺贈ヲ受ケタル者ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テノミ其負擔シタル義務ヲ履行スル責ニ任ズ

受遺者カ遺贈ノ拋棄ヲ爲シタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ者自ラ受遺者ト爲ルコトヲ得但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第一千一百一十三條 負擔附遺贈ノ目的ノ價額カ相續ノ限定承認又ハ遺留分回復ノ訴ニ因リテ減少シタルトキハ受遺者ハ其減少ノ割合ニ應ジテ其負擔シタル義務ヲ免ル但遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

第四節 遺言ノ執行

第一千一百一十四條 遺言書ノ保管者ハ相續ノ開始ヲ知

リタル後遲滯ナク之ヲ裁判所ニ提出シテ其檢認ヲ請求スルコトヲ要ス遺言書ノ保管者ナキ場合ニ於テ相續人カ發見シタル後亦同シ

前項ノ規定ハ公正證書ニ依ル遺言ニハ之ヲ適用セズ

封印アル遺言書ハ裁判所ニ於テ相續人又ハ其代理人ノ立會ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス

第一千一百一十五條 前條ノ規定ニ依リテ遺言書ヲ提出スルコトヲ怠リ、其檢認ヲ經スシテ遺言ヲ執行シ又ハ裁判所外ニ於テ其開封ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第一千一百一十六條 遺言者ハ遺言ヲ以テ一人又ハ數人ノ遺言執行者ヲ指定シ又ハ其指定ヲ第三者ニ委託スルコトヲ得

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其指定ヲ爲シテ之ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

遺言執行者指定ノ委託ヲ受ケタル者其委託ヲ辭セトスルトキハ遲滯ナク其旨ヲ相續人ニ通知スルコトヲ要ス

第一千一百一十七條 遺言執行者カ就職ヲ承諾シタルトキハ直チニ其任務ヲ行フコトヲ要ス

第一千一百一十八條 相續人其他ノ利害關係人ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ就職ヲ承諾スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ遺言執行者ニ催告スルコトヲ得若シ遺言執行者カ其期間内ニ相續人ニ對シテ確答ヲ爲ササルトキハ就職ヲ承諾シタルモノト看做ス

第一千一百一十九條 無能力者及ヒ破産者ハ遺言執行

者タルコトヲ得ス

第一千一百一十二條 遺言執行者ナキトキ又ハ之ナキ

ニ至リタルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ之ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規則ニ依リテ選任シタル遺言執行者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ就職ヲ拒ムコトヲ得ス

第一千一百一十三條 遺言執行者ハ遲滞ナク相續財産

ノ目錄ヲ調製シテ之ヲ相續人ニ交付スル事ヲ要ス

遺言執行者ハ相續人ノ請求アルトキハ其立會ヲ以テ財産目錄ヲ調製シ又ハ公證人ヲシテ之ヲ調製セシムルコトヲ要ス

第一千一百一十四條 遺言執行者ハ相續財産ノ管理其他遺言ノ執行ニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權

利義務ヲ有ス

第六百四十四條乃至第六百四十七條及ヒ第六百五十條ノ規定ハ遺言執行者ニ之ヲ準用ス

第一千一百一十五條 遺言執行者アル場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ヲ處分シ其他遺言ノ執行ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第一千一百一十六條 前三條ノ規定ハ遺言カ特定財産ニ關スル場合ニ於テハ其財産ニ付テノミ之ヲ適用ス

第一千一百一十七條 遺言執行者ハ之ヲ相續人ノ代理人ト看做ス

第一千一百一十八條 遺言執行者ハ已ムコトヲ得サル事由アルニ非サレハ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムルコトヲ得ス但遺言者カ其遺言ニ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

遺言執行者カ前項但書ノ規定ニ依リ第三者ヲシテ其任務ヲ行ハシムル場合ニ於テハ相續人ニ對シ第五百五條ニ定メタル責任ヲ負フ

第一千一百一十九條 數人ノ遺言執行者アル場合ニ於テハ其任務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス但

遺言者カ其遺言ニ別段ノ意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ

各遺言執行者ハ前項ノ規定ニ拘ハラヌ保存行爲ヲ爲スコトヲ得

第一千一百二十條 遺言執行者ハ遺言ニ報酬ヲ定メ

タルトキニ限リ之ヲ受クルコトヲ得

裁判所ニ於テ遺言執行者ヲ選任シタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ其報酬ヲ定ムルコトヲ得遺言執行者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ第六百四十八條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用

ス

第一千一百二十一條 遺言執行者カ其任務ヲ怠リタルトキ其他正當ノ事由アルトキハ利害關係人

ハ其解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

遺言執行者ハ正當ノ事由アルトキハ就職ノ後ト雖モ其任務ヲ辭スルコトヲ得

第一千一百二十二條 第六百五十四條及ヒ第六百五十五條ノ規定ハ遺言執行者ノ任務カ終了シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一千一百二十三條 遺言ノ執行ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但之ニ因リテ遺留分ヲ減スルコトヲ得ス

第五節 遺言ノ取消

第一千一百二十四條 遺言者ハ何時ニモ遺言ノ方式ニ從ヒテ其遺言ノ全部又ハ一部ヲ取消スル

トテ得

第一千二百二十五條

前ノ遺言ト後ノ遺言ト抵觸スルトキハ其抵觸スル部分ニ付テハ後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス前項ノ規定ハ遺言ト遺言後ノ生前處分其他ノ法律行為ト抵觸スル場合ニ之ヲ準用ス

第一千二百二十六條

遺言者カ故意ニ遺言書ヲ毀滅シタルトキハ其毀滅シタル部分ニ付テハ遺言ヲ取消シタルモノト看做ス遺言者カ故意ニ遺贈ノ目的物ヲ毀滅シタルトキ亦同シ

第一千二百二十七條

前三條ノ規定ニ依リテ取消サレタル遺言ハ其取消ノ行為カ取消サレ又ハ效力ヲ生セサルニ至リタルトキト雖モ其效力ヲ回復セズ但其行為カ詐欺又ハ強迫ニ因リタル場合ハ此限ニ在ラズ

第一千二百二十八條

遺言者ハ其遺言ノ取消權ヲ拋棄スルコトヲ得ス

第一千二百二十九條

負擔シタル義務ヲ履行セサルトキハ相續人ハ相當ノ期間ヲ定メテ其履行ヲ催告シ若シ其期間内ニ履行ナキトキハ遺言ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

第七章 遺留分

第一千二百三十條

法定家督相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク此他家督相續人ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第一千二百三十一條

遺產相續人タル直系卑屬ハ遺留分トシテ被相續人ノ財産ノ半額ヲ受ク遺產相續人タル配偶者又ハ直系尊屬ハ遺留分

第一千二百三十四條

遺留分ヲ保全スルニ必要ナル限度ニ於テ遺贈及ヒ前條ニ掲ケタル贈與ノ減殺ヲ請求スルコトヲ得

第一千二百三十五條

條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ヲ以テ贈與又ハ遺贈ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ其贈與又ハ遺贈ノ一部ヲ減殺スヘキトキハ遺留分權利者ハ第一千二百三十二條第二項ノ規則ニ依リテ定メタル價格ニ從ヒ直チニ其殘部ノ價額ヲ受遺者又ハ受贈者ニ給付スルコトヲ要ス

第一千二百三十六條

贈與ハ遺贈ヲ減殺シタル後ニ非サレバ之ヲ減殺スルコトヲ得ス

第一千二百三十七條

遺贈ハ其目的ノ價額ノ割合ニ應シテ之ヲ減殺ス但遺言者カ其遺言ニ別段ノ

トシテ被相續人ノ財産ノ三分ノ一ヲ受ク

第一千二百三十二條

遺留分ハ被相續人カ相續開始ノ時ニ於テ有セシ財産ノ價額ニ其贈與シタル財産ノ價額ヲ加ヘ其中ヨリ債務ノ全額ヲ控除シテ之ヲ算定ス

條件附權利又ハ存續期間ノ不確定ナル權利ハ

裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ

其價格ヲ定ム

家督相續ノ特權ニ屬スル權利ハ遺留分ノ算定

ニ關シテハ其價額ヲ算入セス

第一千二百三十三條

贈與ハ相續開始前一年間ニ爲シタルモノニ限リ前條ノ規定ニ依リテ其價額ヲ算入ス一年前ニ爲シタルモノト雖モ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコトヲ知リテ之ヲ爲シタルトキ亦同シ

意思ヲ表示シタルトキハ其意思ニ從フ
第一千二百二十八條 贈與ノ減殺ハ後ノ贈與ヨリ始
メ順次ニ前ノ贈與ニ及フ

第一千二百二十九條 受贈者ハ其返還スヘキ財産ノ
外尙ホ減殺ノ請求アリタル日以後ノ果實ヲ返
還スルコトヲ要ス

第一千二百四十條 減殺ヲ受クヘキ受贈者ノ無資
力ニ因リテ生シタル損失ハ遺留分權利者ノ負
擔ニ歸ス

第一千二百四十一條 負擔附贈與ハ其目的ノ價額中
ヨリ負擔ノ價額ヲ控除シタルモノニ付キ其減
殺ヲ請求スルコトヲ得

第一千二百四十二條 不相當ノ對價ヲ以テ爲シタル
有償行爲ハ當事者雙方カ遺留分權利者ニ損害
ヲ加フルコトヲ知リテ爲シタルモノニ限り之

ヲ贈與ト看做ス此場合ニ於テ遺留分權利者カ
其減殺ヲ請求スルトキハ其對價ヲ償還スルコ
トヲ要ス

第一千二百四十三條 減殺ヲ受クヘキ受贈者カ贈與
ノ目的ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ遺留分權利
者ニ其價額ヲ辨償スルコトヲ要ス但讓受人カ
讓渡ノ當時遺留分權利者ニ損害ヲ加フルコト
ヲ知リタルトキハ遺留分權利者ハ之ニ對シテ
モ減殺ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規則ハ受贈者カ贈與ノ目的ノ上ニ權利
ヲ設定タシル場合ニ之ヲ準用ス

第一千二百四十四條 受贈者及ヒ受遺者ハ減殺ヲ受
クヘキ限度ニ於テ贈與又ハ遺贈ノ目的ノ價額
ヲ遺留分權利者ニ辨償シテ返還ノ義務ヲ免ル
ルコトヲ得

前項ノ規則ハ前條第一項但書ノ場合ニ之ヲ準
用ス

第一千二百四十五條 減殺ノ請求權ハ遺留分權利者
カ相續ノ開始及ヒ減殺スヘキ贈與又ハ遺贈ア
リタルコトヲ知リタル時ヨリ一年間之ヲ行ハ
サルトキハ時効ニ依リテ消滅ス相續開始ノ時
ヨリ十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第一千二百四十六條 第九百九十五條、第一千四條、
第一千五條、第一千七條及ヒ第一千八條ノ規則ハ遺
留分ニ之ヲ準用ス

民
法
終

民法施行法

(明治三十一年六月法律第十一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル民法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 通則

第一條 民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

第二條 民法ニ於テ破産ト稱スルハ民事ニ付テハ家資分散ヲ謂フ

第三條 身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其債務ヲ完済スルマテハ之ヲ破産者ト看做ス

第四條 證書ハ確定日附アルニ非サレハ第三者

ニ對シ其作成ノ日ニ付キ完全ナル證據力ヲ有セス

第五條 證書ハ左ノ場合ニ限り確定日附アルモノトス

一 公正證書ナルトキハ其日附ヲ以テ確定日附トス

二 登記所又ハ公證人役場ニ於テ私署證書ニ日附アル印章ヲ捺シタルトキハ其印章ノ日附ヲ以テ確定日附トス

三 私署證書ノ署名者中ニ死亡シタル者アルトキハ其死亡ノ日ヨリ確定日附アルモノトス

四 確定日附アル證書中ニ私署證書ヲ引用シタルトキハ其ノ日附證書ヲ以テ引用シタル私署證書ノ確定日附トス

五 官廳又ハ公署ニ於テ私署證書ニ或事項ヲ記入シ之ニ日附ヲ記載シタルトキハ其日附ヲ以テ其證書ノ確定日附トス

第六條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者アルトキハ登記官吏又ハ公證人ハ確定日附簿ニ署名者ノ氏名又ハ其一人ノ氏名ニ外何名ト附記シタルモノ及ヒ件名ヲ記載シ其證書ニ登簿番號ヲ記入シ帳簿及ヒ證書ニ日附アル印章ヲ捺捺シ且其印章ヲ以テ帳簿ト證書トニ割印ヲ爲スコトヲ要ス

證書カ數紙ヨリ成レル場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル印章ヲ以テ毎紙ノ綴目又ハ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 確定日附簿ニハ豫メ登簿番號ヲ印刷シ

請求順ヲ以テ前條ノ規定ニ從ヒ記入ヲ爲スコトヲ要ス

確定日附簿ニハ地方裁判所長其紙數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ捺捺シ且其職印ヲ以テ毎紙ノ綴目ニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第八條 私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ手数料ヲ納ムルコトヲ要ス

第九條 左ノ法令ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

一 明治五年第二百九十五號布告

二 明治六年第二十一號布告

三 同年第二十八號布告

四 同年第四十號布告

- 五 同年第六十二號布告
- 六 同年第七十七號布告
- 七 同年第二百十五號布告代人規則
- 八 同年第二百五十二號布告
- 九 同年第三百六號布告動產不動產書入金穀貸借規則
- 十 同年第三百六十二號布告出訴期限規則
- 十一 明治七年第二十七號布告
- 十二 明治八年第六號布告
- 十三 同年第六十三號布告
- 十四 同年第二百二號布告金穀貸借請人證人辨償規則
- 十五 同年第四百四十八號布告建物書入質規則及七建物買賣讓渡規則
- 十六 明治九年第七十五號布告

- 十七 同年第九十九號布告
 - 十八 明治十年第五十號布告
 - 十九 明治十四年第七十三號布告
 - 二十 明治十七年第二十號布告
 - 二十一 明治二十三年法律第九十四號財產委棄法
 - 二十二 同年勅令二百十七號經濟提供規則
- 明治六年第十八號布告地所賃入書入規則ハ第十一條ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第十條 民法中不動產上ノ權利ニ關スル規定ハ當分ノ内之ヲ沖繩縣ニ施行セス
- 第十一條 本法ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二章 總則編ニ關スル規定
- 第十二條 民法施行前ニ民法第七條又ハ第十一條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル

者ハ其施行ノ日ヨリ禁治產者又ハ準禁治產者ト看做ス

後見人ハ民法施行ノ日ヨリ一个月以内ニ禁治產又ハ準禁治產ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者カ民法施行ノ日ヨリ一个月内ニ禁治產又ハ準禁治產ノ請求ヲ爲サリシトキハ其期間經過ノ後ハ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

前項ノ期間内ニ禁治產又ハ準禁治產ノ請求アリタルモ裁判所ニ於テ之ヲ却下シタルトキハ抗告期間經過ノ後、若シ抗告アリタルトキハ最後ノ抗告棄却ノ時ヨリ又訴ニ於テ禁治產又ハ準禁治產ノ宣告ヲ取消シタルトキハ其判決確定ノ日ヨリ前條第一項ノ規定ヲ適用セス

第十四條 刑法第十條第三號、第三十五條、第

三十六條、刑法附則第四十一條、陸軍刑法第十八條第四號及七海軍刑法第九條第四號、第二十二條ハ之ヲ削除ス

刑法第五十五條中「行政ノ所分ヲ以テ治產ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但」ノ二十三字及七陸軍刑法第三十二條中「第三十五條第三十六條」ノ十字ハ之ヲ削除ス

第十五條 民法施行ノ日ニ於テ刑事禁治產者タル者ハ其施行ノ日ヨリ能力ヲ回復ス

第十六條 民法施行前ヨリ刑事禁治產者ノ財產ヲ管理スル者ハ刑事禁治產者又ハ刑事禁治產者カ定メタル他ノ管理者カ其財產ヲ管理スルコトヲ得ルマテ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ管理者ハ民法第三條ニ定メタル權限ヲ有ス但刑事禁治產者カ別段ノ意思

ヲ表示シタルトキハ此限ニ在ラス

第十七條 民法第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ民法施行前ニ住所又ハ居所ヲ去リタル者ニ付テモ亦之ヲ適用ス

民法施行前ヨリ不在者ノ財産ヲ管理スル者ハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ其管理ヲ繼續ス

第十八條 民法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ民法施行前ヨリ生死分明ナラサル者ニモ亦之ヲ適用ス

民法施行前既ニ民法第三十條ノ期間ヲ經過シタル者ニ付テハ直チニ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ失踪者ハ民法ノ施行ト同時ニ死亡シタルモノト看做ス

第十九條 民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル

社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ掲ケタル目的ヲ有スルモノハ之ヲ法人トス

前項ノ法人ノ代表者ハ民法第二十七條又ハ第三十九條ニ掲ケタル事項其他社員又ハ寄附者カ定メタル事項ヲ記載シタル書面ヲ作り民法施行ノ日ヨリ三個月内ニ之ヲ主務官廳ニ差出

タシ其認可ヲ請フコトヲ要ス此場合ニ於テ主務官廳ハ其書面カ民法其他ノ法令ニ反スルトキ又ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ認可ヲ得タル書面ハ定款又ハ寄附行爲ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十條 法人ノ代表者カ前條第二項ノ規定ニ從ヒ主務官廳ノ認可ヲ得タルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記ス

ルコトヲ要ス

一 民法第四十六條第一項第一號乃至第三號及ヒ第五號乃至第八號ニ掲ケタル事項

一

主務官廳ノ認可ノ年月日
前項ノ期間ハ主務官廳ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ規定ニ從ヒテ爲シタル登記ハ民法第四十六條第一項ニ定メタル登記ト同一ノモノト看做ス

第二十一條 第十九條第一項ノ法人カ財産目錄又ハ社員名簿ヲ備ヘサルトキハ民法施行ノ後渾滞ナク之ヲ作ルコトヲ要ス

第二十二條 法人ノ代表者カ前三條ノ規定ニ反シ認可ヲ受ケ、登記ヲ爲シ又ハ財産目錄若ク

ハ社員名簿ヲ作ルコトヲ怠リタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處セラル

第二十三條 第十九條第一項ノ法人カ其目的以外ノ事業ヲ爲シ又ハ認可ノ條件ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 民法ノ規定ニ依リ法人ニ關シテ登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十五條 主務官廳カ正當ノ事由ナクシテ法人ノ設立許可ヲ取消シ又ハ其解散ヲ命シタルトキハ其法人ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 法人ノ清算人カ民法第七十九條及ヒ第八十一條第一項ノ規定ニ依リ爲スヘキ公

告ハ裁判所カ爲スヘキ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 剝奪公權者及ヒ停止公權者ハ法人ノ理事、監事又ハ清算人タルコトヲ得ス

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セ

第二十九條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過シタル債權ハ時効ニ因リテ消滅シタルモノト省做ス

第三十條 民法施行前ニ出訴期限ヲ經過セサル債權ニ付テハ民法中時効ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十一條 民法施行前ニ進行ヲ始メタル出訴期限カ民法ニ定メタル時効ノ期限ヨリ長キト

キハ舊法ノ規定ニ從フ但其殘期カ民法施行ノ日ヨリ起算シ民法ニ定メタル時効ノ期限ヨリ長キトキハ其日ヨリ起算シテ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十二條 前條但書ノ規定ハ舊法ニ出訴期限ナキ權利ニ之ヲ準用ス

第三十三條 前三條ノ場合ニ於テ民法中時効ノ中斷及ヒ停止ニ關スル規定ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第三十四條 第三十條乃至第三十二條ノ規定ハ時効期間ノ性質ヲ有セサル法定期間ニ之ヲ準用ス

第三章 物權編ニ關スル規定
第三十五條 慣習上物權ト認メタル權利ニシテ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ

後ハ民法其他ノ法律ニ定ムルモノニ非サレハ物權タル效力ヲ有セス

第三十六條 民法ニ定メタル物權ハ民法施行前ニ發生シタルモノト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ有ス

第三十七條 民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年内ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十八條 民法施行前ヨリ占有又ハ準占有ヲ爲ス者ニハ其施行ノ日ヨリ民法ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 民法施行前ヨリ動產ヲ占有スル者カ民法第百九十二條ノ條件ヲ具備スルトキハ

民法ノ施行ト同時ニ其動產ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

第四十條 遺失物ハ明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則第二條ニ依リ榜示ヲ爲シタル後一年内ニ其所有者ノ知レサルトキハ民法施行前ニ其榜示ヲ爲シタルトキト雖モ拾得者其所有權ヲ取得ス但漂着物ニ付テハ明治八年第六十六號布告内國船難破及漂流物取扱規則ノ規定ニ從フ

第四十一條 埋藏物ニ付テハ特別法ノ施行ニ至ルマテ遺失物ト同一ノ手續ニ依リテ公告ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 民法施行前ヨリ民法第二百四十二條乃至第二百四十六條ノ規定ニ依レハ所有權ヲ取得スヘカリシ狀況ニ在ル者ハ民法ノ施行

同時ニ民法ノ規定ニ從ヒテ所有權ヲ取得ス
但第三者カ正當ニ取得シタル權利ヲ妨ケス
第四十三條 共有者カ民法施行前ニ於テ五年ヲ
超ユル期間内共有物ノ分割ヲ爲ササル契約ヲ
爲シタルトキハ其契約ハ民法施行ノ日ヨリ五
年ヲ超エサル範圍内ニ於テ其效力ヲ有ス
第四十四條 民法施行前ニ設定シタル地上權ニ
シテ存續期間ノ定ナキモノニ付キ當事者カ民
法第二百六十八條第二項ノ請求ヲ爲シタルト
キハ裁判所ハ設定ノ時ヨリ二十年以上民法施
行ノ日ヨリ五十年以下ノ範圍内ニ於テ其存續
期間ヲ定ム
地上權者カ民法施行前ニシタル建物又ハ
竹木アルトキハ地上權ハ其建物ノ朽廢又ハ其
竹木ノ伐採期ニ至ルマテ存續ス

地上權者カ前項ノ建物ニ修繕又ハ變更ヲ加ヘ
タルトキハ地上權ハ原建物ノ朽廢スヘカリシ
時ニ於テ消滅ス
第四十五條 外國人又ハ外國法人ノ爲メニ設定
シタル地上權ニハ條約又ハ命令ニ別段ノ定ナ
キ場合ニ限り民法ノ規定ヲ適用ス
第四十六條 民法第二百七十五條及ヒ第二百七
十六條ノ期間ハ民法施行前ヨリ同條ニ定メタ
ル事實カ始マリタルトキト雖モ其始ヨリ之ヲ
起算ス
第四十七條 民法施行前ニ設定シタル永小作權
ハ其存續期間カ五十年ヨリ長キトキト雖モ其效
力ヲ存ス但其期間カ施行ノ日ヨリ起算シテ五
十年ヲ超ユルトキハ其日ヨリ起算シテ之ヲ五
十年ニ短縮ス

民法施行前ニ期間ヲ定メスシテ規定シタル永
小作權ノ存續期間ハ慣習ニ依リ五十年ヨリ短
キ場合ヲ除ク外民法施行ノ日ヨリ五十年トス
民法施行前ニ永久存續スヘキモノトシテ設定
シタル永小作權ハ民法施行ノ日ヨリ五十年ヲ
經過シタル後一年内ニ所有者ニ於テ相當ノ價
金ヲ拂ヒテ其消滅ヲ請求スルコトヲ得若シ所
有者カ此權利ヲ拋棄シ又ハ一年内ニ此權利ヲ
行使セザルトキハ爾後一年内ニ永小作人ニ於
テ相當ノ代價ヲ拂ヒテ所有權ヲ買取ルコトヲ
要ス(明治三十三年三月法律第七十一號ヲ以
テ本項ヲ追加ス)
第四十八條 民法ノ規定ニ從ヘハ民法施行前ヨ
リ先取特權ヲ有スヘカリシ債權者ハ其施行ノ
日ヨリ先取特權ヲ有ス

第四十九條 民法第三百七十條ノ規定ハ民法施
行前ニ抵當權ノ目的タル不動産ニ附加シタル
物ニモ亦之ヲ適用ス
第五十條 民法第三百七十四條ノ規定ハ民法
施行前ニ設定シタル抵當權ニモ亦之ヲ適用ス
但民法施行ノ日ヨリ一年内ニ特別ノ登記ヲ爲
シタル利息其他ノ定期金ニ付テハ元本ト同一
ノ順位ヲ以テ抵當權ヲ行フコトヲ得
第五十一條 民事訴訟法第六百四十九條第二項
及ヒ第三項ヲ改メテ左ノ三項トス
不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵
當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス
留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ
競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨
濟スル責ニ任ス

質権カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競
落人ハ其質権ヲ以テ擔保スル債權及ヒ質權
者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟
スル責ニ任ス

第四章 債權編ニ關スル規定

第五十二條 明治十年第六十六號布告利息制限

法第十三條ハ之ヲ削除ス

第五十三條 民法施行前ヨリ債務ヲ負擔スル者

カ其施行ノ後ニ至リ債務ヲ履行セサルトキハ
民法ノ規定ニ從ヒ不履行ノ責ニ任ス

前項ノ規定ハ債權者カ債務ノ履行ヲ受クルコ
トヲ拒ミ又ハ之ヲ受クルコト能ハサル場合ニ
之ヲ準用ス

第五十四條 民事訴訟法第七百三十三條第一項
ヲ左ノ如ク改ム

民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合
ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ
民法ノ規定ニ從ヒ決定ヲ爲ス

第五十五條 民事訴訟法第七百三十四條ヲ左ノ
如ク改ム

債務ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第
一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ
相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行
ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定
ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠
償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス

第五十六條 金錢ヲ目的トスル債務ヲ負擔シタ
ル者カ民法施行前ヨリ其履行ヲ怠タリタルト
キハ損害賠償ノ額ハ其施行ノ日以後ハ民法第
四百四條ニ定メタル利率ニ依リテ之ヲ定ム但

民法第四百十九條第一項但書ノ適用ヲ妨ケス

第五十七條 指圖證券、無記名證券及ヒ民法第

四百七十一條ニ掲ケタル證券ハ公示催告ノ手
續ニ依リテ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第五十八條 民法施行前ニ發生シタル債務ト雖

モ相殺ニ因リテ之ヲ免ルルコトヲ得

雙方ノ債務カ民法施行前ヨリ互ニ相殺ヲ爲ス

ニ適シタルトキハ相殺ノ意思表示ハ民法施行

ノ日ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第五十九條 民法第六百五條ノ規定ハ民法施行

前ニ爲シタル不動産ノ賃貸借ニモ亦之ヲ適用

ス

第六十條 第四百五條ノ規定ハ外國人又ハ外

國法人ニ土地ヲ賃貸シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十一條 刑法則第五十四條乃至第六十條

ハ之ヲ削除ス

第五章 親族編ニ關スル規定

第六十二條 民法施行ノ際家族タル者ハ民法ノ

規定ニ依レハ家族タルコトヲ得サル者ト雖モ

之ヲ家族トス

家族ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ

戶主權ニ服ス

第六十三條 民法ノ規定ニ依レハ父又ハ母ノ家

ニ入ルヘキ者ト雖モ民法施行ノ際他家ニ在ル

者ニハ其規定ヲ適用セス

第六十四條 民法施行前ニ隱居者又ハ家督相繼

人カ詐欺又ハ強迫ニ因リ隱居ヲ爲シ又ハ相繼

ヲ承認シタルトキハ民法第七百五十九條ノ規

定ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得但第三十二條

及ヒ第三十四條ノ適用ヲ妨ケス

民法第七百六十條ノ規定ハ民法施行前ニ家督相續人ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第六十五條

民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組カ其當時ノ法律ニ依レハ無効ナルトキト雖モ民法ノ規定ニ依リ有效ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ有效トス

第六十六條

民法第七百六十七條第一項ノ期間ハ前婚カ民法施行前ニ解消シ又ハ取消サレタルトキト雖モ其解消又ハ取消ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六十七條

民法施行前ニ生シタル事實カ民法ニ依リ婚姻又ハ養子縁組ノ取消ノ原因タルヘキトキハ其婚姻又ハ養子縁組ハ之ヲ取消スコトヲ得但此事實カ既ニ民法ニ定メタル期間ヲ

經過シタルモノナルトキハ此限ニ在ラス

第六十八條

民法施行前ニ爲シタル婚姻又ハ養子縁組ト雖モ其施行ノ日ヨリ民法ニ定メタル效力ヲ生ス

第六十九條

民法施行前ニ婚姻ヲ爲シタル者カ夫婦ノ財産ニ付キ別段ノ契約ヲ爲サザリシトキハ其財産關係ハ民法施行ノ日ヨリ法定財産制ニ依ル

民法施行前ニ夫婦カ其財産ニ付キ契約ヲ爲シタルトキハ其契約ハ婚姻届出ノ後ニ爲シタルモノト雖モ其效力ヲ存ス但其契約カ法定財産制ニ異ナルトキハ民法施行ノ日ヨリ六个月内ニ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ夫婦ノ承繼人及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七十條

民法施行前ニ生シタル事實カ民法

ニ依リ婚姻又ハ離縁ノ原因タルヘキトキハ夫婦又ハ養子縁組ノ當事者ノ一方ハ離婚又ハ離縁ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

第六十七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十一條

嫡出ノ推定及ヒ否認ニ關スル民法ノ規定ハ民法施行前ニ懐胎シタル子ニモ亦之ヲ適用ス

七十二條

子ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ父又ハ母ノ親權ニ服ス

七十三條

裁判所ハ民法施行前ニ生シタル事實ニ據リテ親權又ハ管理權ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得

七十四條

民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者ノ後見人タル者アルト

キハ其後見人ハ民法施行ノ日ヨリ民法ノ規定ニ從テ其任務ヲ行フ

第七十五條

民法第九百條第一號ノ場合ニ於テ民法施行ノ際未成年者カ後見人ヲ有セザルトキハ民法ニ定メタル者其後見人ト爲ル

第七十六條

民法施行前ニ民法第七條又ハ第十條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ後見人ヲ附シタル者アル場合ニ於テ後見人其他民法第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ禁治産ノ宣告アリタルトキハ後見人ハ其宣告ノ時ヨリ民法ノ規定ニ從ヒテ後見人ノ任務ヲ行ヒ準禁治産ノ宣告アリタルトキハ保佐人ノ任務ヲ行フ

第七十七條

民法施行前ニ未成年又ハ民法第七條若クハ第十一條ニ掲ケタル原因ニ非サル事由ノ爲メニ選任シタル後見人ノ任務ハ民法施

行ノ日ヨリ終了ス

未成年者ノ後見人又ハ民法第七條若クハ第十條ニ掲ケタル原因ノ爲メニ選任シタル後見人カ民法第九百八條ニ該當スルトキハ亦同シ

第七十八條 民法第九百三十七條及ヒ第九百四十條乃至第九百四十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

民法第九百三十八條ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十九條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ遲滯ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免黜スルコトヲ得

第八十條 第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ後見人ノ任務ヲ行フ者ハ遲滯ナク被後見人ノ財産ヲ調査シ其目錄ヲ調製スルコトヲ要ス

民法第九百十七條第二項第三項第九百十八條及第九百十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十一條 民法第九百二十四條及ヒ第九百二十七條ノ規定ハ後見人カ第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ其任務ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第八十二條 民法第九百三十條ノ規定ハ後見人カ民法施行前ニ被後見人ノ財産又ハ被後見人ニ對スル第三者ノ權利ヲ讓受ケタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十三條 後見人カ民法施行前ヨリ被後見人ノ財産ヲ賃借セルトキハ後見監督人ヲ選任セシムル爲メ招集シタル親族會ノ同意ヲ求ムルコトヲ要ス若シ親族會カ同意ヲ爲サザリシトキハ賃貸借ハ其效力ヲ失フ

第六節 相續編ニ關スル規定

第八十四條 民法施行前ニ民法第九百六十九條及ヒ第九百九十七條ニ掲ケタル行爲ヲ爲シタル者ト雖モ相續人タルコトヲ得ス

第八十五條 民法第九百七十四條及ヒ第九百九十五條ノ規定ハ相續人タルヘキ者カ民法施行前ニ死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第八十六條 相續人廢除ノ原因タル事實カ民法施行前ニ生シタルト雖廢除ノ請求ヲ爲ス

ヲ得

第八十七條 相續人廢除ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ廢除シタル相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十八條 家督相續人ノ指定ノ取消ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ指定シタル家督相續人ニモ亦之ヲ適用ス

第八十九條 民法第九百八十九條ノ規定ハ民法施行前ニ前戸主ノ債權者ト爲リタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第九十條 民法第七條及ヒ第八條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

第九十一條 相續ノ承認、拋棄及ヒ財産ノ分離ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル

相續ニハ之ヲ適用セス
第九十二條 相續人曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ其施行前ニ開始シタル相續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

第九十三條 相續財産ノ管理人カ民法第五十七條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ裁判所カ同法第五十八條ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十四條 遺言ノ成立及ヒ取消ニ付テハ其當時ノ法律ヲ適用シ其效力ニ付テハ遺言者ノ死亡ノ時ノ法律ヲ適用ス

第九十五條 民法第三百三十二條乃至第四百三十六條及ヒ第三百三十八條乃至第四百四十五條ノ規定ハ民法施行前ニ爲シタル贈與ニモ亦之ヲ適用ス

民法施行法終

民法中改正及參考法令

○失火者ニ對スル責任ノ除外例

(明治三十二年三月法律第四十號)

民法第七百九條ノ規定ハ失火ノ場合ニハ之ヲ適用セス但失火者ニ重大ナル過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

(參照) 民法第七百九條ハ故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ストノ規定ナリ

○法人設立許可申請手續

(明治三十二年四月內務省令第十號)

第一條 社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ニ依リ之ヲ法人ト爲スニ付內務大臣ノ許可ヲ要スルモノハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ其ノ申請書ニ通ヲ差出スヘシ其ノ許可ヲ得テ設立シタル法人及民法施行法第十九條ノ法人ニ於テ內務大臣ノ認可ヲ要スル場合亦同シ

第二條 前條ノ法人ヨリ內務大臣ニ差出スヘキ願届書ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ヲ經由スヘシ

○全

(明治三十一年九月
文部省令第十九號)

民法第三十四條ニ依リ學術教育ニ關スル社團又ハ財團ヲ法人ト爲サントスルモノ又ハ學術教育ニ關スル社團又ハ財團ニシテ民法施行法第十九條ニ該當スルモノハ其事務所所在地ノ地方長官ノ許可又ハ認可ヲ受クヘシ

○外人捺印其他ニ關スル規定

(明治三十三年三月
法律第五十號)

第一條 法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フコトヲ得

第三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○私書ニ確定日附記載
手數料

(明治三十一年七月
司法省令第十一號)

私署證書ニ確定日附ヲ附スルコトヲ登記所又ハ公證人役場ニ請求スル者ハ每一件ニ付キ手數料金十錢ヲ納ムヘシ
登記所ニ納ムヘキ手數料ハ登記用紙ヲ請求書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

○民法第七十九條及千八百
十一條ノ規定ニ依ル遺言
ノ確定ニ關スル法律

第一條 民事訴訟法第九十二條ニ依リ訴訟上ノ

救助ヲ求ムル外國人ハ日本ニ住所、居所ヲ有セサルトキハ其ノ住所又ハ居所アル外國ノ管轄官廳ノ證明書ヲ以テ同法第九十三條ニ定メタル無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ證明書ニハ日本ニ駐在スル其ノ外國ノ領事ノ認證ヲ受クヘシ
日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ハ其ノ住所又ハ居所地ノ市町村長ノ證明書ヲ以テ前項ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ市町村長ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ證明カ不十分ナルトキハ裁判所ハ日本ニ駐在スル本國領事ノ認證アル本國管轄官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

附則

(明治三十三年二月
法律第十三號)

第一條 民法第七十九條ノ規定ニ依リ軍人軍屬ノ爲シタル遺言ノ確認ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ

- 一 陸軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル陸軍官衛團隊ノ軍法會議ノ理事又ハ遺言ヲ爲シタル地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ若シ其ノ軍法會議ノ設置ナク若クハ廢セラレタル場合ニ於テハ遺言者ノ住所又ハ相續開始地ヲ管轄スル陸軍軍法會議ノ理事ニ請求スヘシ
- 二 海軍ニ在リテハ遺言當時遺言者ノ屬シタル海軍官衛團隊所在地又ハ其ノ附近

軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ若シ遺言ヲ爲シタル者カ艦船乗込員ナル場合ニ於テハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第二條 民法第八十一條本文ノ場合ニ該當スル遺言ノ確認ハ便宜海軍軍法會議ノ主理ニ請求スヘシ

第三條 民事訴訟法裁判所職員ノ除斥人證鑑定ニ關スル規定非訟事件手續法第六條第八條第九條第十一條第十二條第十四條第十七條乃至第十九條第三十二條第九條第二項ノ規定及民事訴訟費用法ノ規定ハ本法ノ事件ニ之ヲ準用シ其ノ規定中裁判所及判事ニ屬スル職務ハ理事又ハ主理之ヲ行ヒ書記ニ屬スル職務ハ錄事之ヲ行フ但シ上訴ニ關スル規定ハ準用ノ限

ニ在ラス

○民法施行法中改正

(明治三十三年三月 法律第七十一號)

民法施行法中左ノ通改正ス

第四十七條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

シタル永小作權ハ民法施行ノ日ヨリ五十年經過シタル後一年內ニ所有者ニ於テ相當ノ償金ヲ拂ヒテ其消滅ヲ請求スルコトヲ得若シ所有者カ此權利ヲ拋棄シ又ハ一年內ニ此權利ヲ行使セサルトキハ爾後一年內ニ永小作人ニ於テ相當代價ヲ拂ヒテ所有權ヲ買取ルコトヲ要ス

○民法中改正

(明治三十四年四月 法律第三十六號)

民法中左ノ通改正ス

民法第三百七十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ抵當權者カ債務ノ不履行ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル權利ヲ有スル場合ニ於テ其最後ノ二年分ニ付テモ亦之ヲ適用ス但利息其他ノ定期金ト通シテ二年分ヲ超ユルコトヲ得ス

○永代借地權ニ關スル件

第一條 政府ノ永代借地券ヲ以テ外國人又ハ外國法人ノ爲ニ設定シタル永代借地權ハ之ヲ物權トシ民法中所有權ニ關スル規定ヲ準用ス永代借地權ハ民法ノ規定ニ從ヒ他ノ權利ノ目的タルコトヲ得

地券條約又ハ法令ニ別段ノ定メアル場合ニハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第二條 永代借地權ノ移轉アリタルトキハ其ノ土地ノ所在地ヲ管轄スル地方廳ニ於テ地券ニ其ノ旨ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

第四條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記及永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ニ設クルコトヲ得

附則

第五條 本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 民法施行法第四十五條ノ規定ハ本法施行

行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
第七條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利テ
本法施行前ニ地上權又ハ之ヲ目的トスル權利
トシテ登記セラレタルモノハ永代借地權又ハ
之ヲ目的トスル權利トシテ登記セラレタルモノ
ノト同一ノ効力ヲ有ス

○地上權ニ關スル件

(明治三十三年三月)
法律第七十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル地上權ニ關スル法律
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法施行前他人ノ土地ニ於テ工作物又
ハ竹木ヲ所有スル爲其ノ土地ヲ使用スル者ハ
地上權者ト推定ス
第二條 第一條ノ地上權者ハ本法施行ノ日ヨリ

一箇年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第
三者ニ對抗スルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ本法施行前ニ善意ニテ取得シタ
ル第三者ノ權利ヲ害スルコトナシ

○民法中改正

民法中左ノ通改正ス
第七百四十三條ニ左ノ二項ヲ加フ
家族カ分家ヲ爲ス場合ニ於テハ戶主ノ同意ヲ
得テ自己ノ直系卑屬ヲ分家ノ家族ト爲スコト
ヲ得
前項ノ場合ニ於テ直系卑屬カ滿十五年以上ナ
ルトキハ其同意ヲ得ルコトヲ要ス

附則

本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ本家ニ在ル直
系卑屬カ意思能力ヲ有セサルトキハ法定代理人

之ニ代ハリ民法第七百三十七條第一項ノ規定ニ
依リテ分家ノ家族ト爲ル手續ヲ爲スコトヲ得
本法施行前ニ分家ヲ爲シタル者ノ直系卑屬ニシ
テ民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ分家ノ家族
ト爲リタル者ニ付テハ同法第九百七十二條ノ規
定ヲ適用セス但第三者カ既ニ取得シタル權利ヲ
害スルコトヲ得ス

民法中改正及參考法令終

商法目次

商法目次

商法

第一編 總則

第一章 法例

第二章 商人

第三章 商業登記

第四章 商號

第五章 商業帳簿

第六章 商業使用人

第七章 代理商

第二編 會社

第一章 總則

第二章 合名會社

一一一 二 三 四 五 六 七 七

第一節 設立

第二節 會社ノ内部ノ關係

第三節 會社ノ外部ノ關係

第四節 社員ノ退社

第五節 解散

第六節 清算

第三章 合資會社

第四章 株式會社

第一節 設立

第二節 株式

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第二款 取締役

第三款 監查役

第四節 會社ノ計算

八 九 〇 一 三 四 七 九 九 一 二 二 二 二 二 三 三

二 商 法 目 次

第五節 社 債	三五
第六節 定款ノ變更	三七
第七節 解 散	三九
第八節 清 算	四〇
第五章 株式合資會社	四二
第六章 外國會社	四五
第七章 罰 則	四七
第三編 商行爲	四九
第一章 總 則	四九
第二章 賣 買	五三
第三章 交互計算	五五
第四章 匿名組合	五六
第五章 仲立營業	五七
第六章 問屋營業	五八
第七章 運送取扱營業	五九

第八章 運送營業	六一
第一節 物品運送	六一
第二節 旅客運送	六五
第九章 寄 託	六五
第一節 總 則	六五
第二節 倉庫營業	六六
第十章 保 險	七一
第一節 損害保險	七一
第一款 總 則	七一
第二款 火災保險	七七
第三款 運送保險	七八
第二節 生命保險	七九
第四編 手 形	八一
第一章 總 則	八一
第二章 爲替手形	八二

三 商 法 目 次

第一節 振 出	八二
第二節 裏 書	八四
第三節 引 受	八五
第四節 擔保ノ請求	八七
第五節 支 拂	八九
第六節 償還ノ請求	九〇
第七節 保 證	九二
第八節 參 加	九三
第一款 參加引受	九三
第二款 參加支拂	九四
第九節 拒絕證書	九五
第十節 爲替手形ノ復本及 ニ附本	九六
第三章 約束手形	九八
第四章 小切手	九九

第五編 海商	一〇一
第一章 船舶及船舶所有者	一〇一
第一節 船員	一〇四
第一節 船長	一〇四
第二節 海員	〇八
第三章 運送	一一
第一節 物品運送	一一
第一款 總 則	一一
第二款 船荷證券	一一八
第一節 旅客運送	一二〇
第四章 海員	一二二
第五章 保 險	一二四
第六章 船舶債權者	一三一
商法施行法	一三四
商法目次終	

商法

(明治三十二年三月
法律第四十八號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル商法修正ノ件ヲ裁可
シ茲ニ之ヲ公布セシム
商法別冊ノ通之レヲ定ム
此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治
三十二年四月勅令第百三十三號ヲ以テ此施行期
日ヲ同年六月十六日ト定ム)
明治二十三年法律三十二號商法ハ第三編ヲ除ク
外此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一編 總則

第一章 法例

第一條 商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テ
ハ商慣習法ヲ適用シ慣習商法ナキトキハ民法
ヲ適用ス

第二條 公法人ノ商行為ニ付テハ法令ニ別段ノ
定ナキトキニ限リ本法ノ規定ヲ適用ス

第三條 當事者ノ一方ノ爲メニ商行為タル行爲
ニ付テハ本法ノ規定ヲ雙方ニ適用ス

第二章 商人

第四條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商
行為ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第五條 未成年者又ハ妻カ商業ヲ營ムトキハ登
記ヲ爲スコトヲ要ス

第六條 會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許サ
レタル未成年者又ハ妻ハ其會社ノ業務ニ關シ

テハ之ヲ能力者ト看做ス

第七條 後見人カ被後見人ノ爲メニ商業ヲ營ム

トキハ登記ヲ爲スコトヲ要ス

後見人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八條 戶戶ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他小商人ニハ商業登記、商號及ヒ商業

帳簿ニ關スル規定ヲ適用セズ

第三章 商業登記

第九條 本法ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ハ當事者ノ請求ニ因リ其營業所ノ裁判所ニ備ヘタル商業登記簿ニ之ヲ登記ス

第十條 本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ

本法ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス

第十一條 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滯

ナク之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十二條 登記スヘキ事項ハ登記及ヒ公告ノ後ニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス登記及ヒ公告ノ後ト雖モ第三者カ正當ノ事由ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ亦同

第十三條 支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項

ヲ登記セザリシトキハ前條ノ規定ハ其支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テノミ之ヲ適用ス

第十四條 登記ハ其公告ト抵觸スルトキト雖モ

之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第十五條 登記シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其

事項カ消滅シタルトキハ當事者ハ遲滯ナク變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 商號

第十六條 商人ハ其氏名、其他ノ名稱ヲ以テ

商號ト爲スコトヲ得

第十七條 會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名

會社、合資會社、株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス

第十八條 會社ニ非スシテ商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ユルコトヲ得ス會社ノ

營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ

前項ノ規定ニ違反シタル者ハ五圓以上五十圓

以下ノ過料ニ處セラレ

第十九條 他人カ登記シタル商號ハ同市町村內

ニ於テ同一ノ營業ノ爲メ之ヲ登記スルコトヲ得ス

第二十條 商號ノ登記ヲ爲シタル者ハ不正ノ競

争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用ス

ル者ニ對シテ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

同市町村內ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ他人ノ

登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定ス

第二十一條 商號ノ讓渡ハ其登記ヲ爲スニ非サ

レハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十二條 商號ト共ニ營業ヲ讓渡シタル場合

ニ於テ當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシト

キハ讓渡人ハ同市町村內ニ於テ二十年間同一

ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル條約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣內且三十年ヲ超エサル範圍內ニ於テノミ其效力ヲ有ス

四 商 法

讓渡人ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 前條ノ規定ハ營業ノミヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 商號ノ登記ヲ爲シタル者カ其商號ヲ廢止シ又ハ之ヲ變更シタル場合ニ於テ其廢止又ハ變更ノ登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人ハ其登記ノ抹消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ異議アラハ其期間内ニ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告シ若シ其期間内ニ異議ノ申立ナキハ直チニ其登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第五章 商業帳簿

第二十五條 商人ハ帳簿ヲ備ヘ之ニ日ノ取引

其他財産ニ影響ヲ及ボスヘキ一切ノ事項ヲ整理且明瞭ニ記載スルコトヲ要ス但家事費用ハ一个月毎ニ其總額ヲ記載スルヲ以テ足ル小賣ノ取引ハ現金賣下掛賣下分チ日ノ賣上總額ノミヲ記載スルコトヲ得

第二十六條 動産、不動産、債權、債務其他ノ財産ノ總目錄及ヒ貸借方ノ對照表ハ商人ノ開業ノ時又ハ會社ノ設立登記ノ時及ヒ毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作り特ニ設ケタル帳簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス
其目錄調製ノ時ニ於ケル價格ヲ附スルコトヲ要ス

第二十七條 年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社

五 商 法

ニ在リテハ毎配當期ニ前條ノ規定ニ從ヒ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス

第二十八條 商人ハ十年間其商業帳簿及ヒ其營業ニ關スル信書ヲ保存スルコトヲ要ス
前項ノ期間ハ商業帳簿ニ付テハ其帳簿閉鎖ノ時ヨリ之ヲ起算ス

第六章 商業使用人

第二十九條 商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムルコトヲ得

第三十條 支配人ハ主人ニ代ハリテ其商業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
支配人ハ番頭、手代其他ノ使用人ヲ選任又ハ解任スルコトヲ得
支配人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善

意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十一條 支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ之ヲ置キタル本店又ハ支店ノ所在地ニ於テ主人之ヲ登記スルコトヲ要ス

第三十二條 支配人ハ主人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲シ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス
支配人カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ主人ハ之ヲ以テ自己ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得

前項ニ定メタル權利ハ主人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハザルトキハ消滅スル爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ
第三十三條 商人ハ番頭又ハ手代ヲ選任シ其營業ニ關スル或種類又ハ特定ノ事項ヲ委任スル

コトヲ得

番頭又ハ手代ハ其委任ヲ受ケタル事項ニ關シ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十四條 支配人、番頭又ハ手代ニ非サル使用人ハ主人ニ代ハリテ法律行爲ヲ爲ス權限ヲ有セサルモノト推定ス

第三十五條 本章ノ規定ハ主人ト商業使用人トノ間ニ生スル雇傭關係ニ付キ民法ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ケス

第七章 代理商

第三十六條 代理商トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

第三十七條 代理商カ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルトキハ遲滞ナリ本人ニ對シテ其通知

ヲ發スルコトヲ要ス

第三十八條 代理商ハ本人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第三十二條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ代理商カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條 物品販賣ノ委託ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵又ハ其數量ノ不足其他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受クル權限ヲ有ス

第四十條 當事者カ契約ノ期間ヲ定メザリシトキハ各當事者ハ二个月前ニ豫告ヲ爲シテ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

當事者カ契約ノ期間ヲ定メタルトキハ各當事者ス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者

ハ何時ニテモ其契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四十一條 代理商ハ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲シタルニ因リテ生シタル債權ニ付キ本人ノ爲メニ占有スル物ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二編 會社

第一章 總則

第四十二條 本法ニ於テ會社トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル目的ヲ以テ設立シタル社團ヲ謂フ

第四十三條 會社ハ合名會社、合資會社、株式會社及ヒ株式合資會社ノ四種トス

第四十四條 會社ハ之ヲ法人トス

會社ノ住所ハ其本店ノ所在地ニ在ルモノトス

第四十五條 會社ノ設立ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對

抗スルコトヲ得ス

第四十六條 會社ハ其本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得ス

第四十七條 會社カ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後六个月内ニ開業ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得但正當ノ事由アルトキハ其會社ノ請求ニ因リ此期間ヲ伸長スルコトヲ得

第四十八條 會社カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其解散ヲ命スルコトヲ得

第二章 合名會社

第一節 設立

第四十九條 合名會社ヲ設立スルニハ定款ヲ作ルコトヲ要ス

第五十條 合名會社ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載シ各社員之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 目的
- 二 商號
- 三 社員ノ氏名、住所
- 四 本店及ヒ支店ノ所在地
- 五 社員ノ出資ノ種類及價格又ハ評價ノ標準

第五十一條 會社ハ定款ヲ作りタル日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 前條第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

- 二 本店及ヒ支店
- 三 設立ノ年月日
- 四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
- 五 社員ノ出資ノ種類及ヒ財產ヲ目的トスル出資ノ價格
- 六 會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メタルトキハ其氏名

會社設立ノ後支店ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ前項ニ定メタル登記ヲ爲シ本店及ヒ他ノ支店ノ所在地ニ於テハ二週間内ニ其支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルコトヲ要ス

本店又ハ支店ノ所在地ヲ管轄スル登記所ノ管轄區域内ニ於テ新ニ支店ヲ設ケタルトキハ其

支店ヲ設ケタルコトヲ登記スルヲ以テ足ル

第五十二條 會社カ其本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ二週間内ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ二週間内ニ前條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ本店又ハ支店ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 第五十一條第一項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 會社ノ内部ノ關係

第五十四條 會社ノ内部ノ關係ニ付テハ定款又ハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ組合ニ關スル民法

法ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 社員カ債權ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ債務者カ辨濟期ニ辨濟ヲ爲サザリシトキハ社員ハ其辨濟ノ責ニ任ス此場合ニ於テハ其利息ヲ拂フ外尙ホ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第五十六條 各社員ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第五十七條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執行社員ヲ定メタルトキト雖モ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第五十八條 定款ノ變更其他會社ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ヲ爲スニハ總社員ノ同意アルコトヲ要ス

第五十九條 社員カ他ノ社員ノ承諾ヲ得スシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ其讓渡ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十條 社員ハ他ノ社員ノ承諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

社員カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ他ノ社員ハ過半数ノ決議ニ依リ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得
前項ニ定メタル權利ハ他ノ社員ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二週間之ヲ行ハサルトキ

ハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三節 會社ノ外部ノ關係

第六十一條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ會社ヲ代表スヘキ社員ヲ定メサルトキハ各社員會社ヲ代表ス

第六十二條 會社ヲ代表スヘキ社員ハ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
民法第四十四條第一項及ヒ第五十四條ノ規定ハ合名會社ニ之ヲ準用ス

第六十三條 會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各社員連帶シテ其辨濟ノ責ニ任ス
第六十四條 設立ノ後會社ニ加入シタル社員ハ

其加入前ニ生シタル會社ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負フ

第六十五條 社員ニ非サル者ニ自己ヲ社員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其者ハ善意ノ第三者ニ對シテ社員ト同一ノ責任ヲ負フ

第六十六條 社員ノ出資ノ減少ハ之ヲ以テ會社ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但本店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲シタル後二年間債權者カ之ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ此限ニ在ラス

第六十七條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得
第四節 社員ノ退社

第六十八條 定款ヲ以テ會社ノ存立時期ヲ定メサリシトキ又ハ或社員ノ終身同會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ營業年度ノ終ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得但六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

會社ノ存立時期ヲ定メタルト否トヲ問ハス已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得
第六十九條 前條ニ掲ケタル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ因リテ退社ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總社員ノ同意
- 三 死亡
- 四 破産
- 五 禁治産

六 除名

第七十條 社員ノ除名ハ左ノ場合ニ限リ他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス

一 社員カ出資ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ催告ヲ受ケタル後相當ノ期間内ニ出資ヲ爲ササルトキ

二 社員カ第六十條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 社員カ會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スルニ當タリ會社ニ對シテ不正ノ行爲ヲ爲シタルトキ

四 社員カ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサル場合ニ於テ其業務ノ執行ニ干與シ

タルトキ

五 其他社員カ重要ナル義務ヲ盡ササルトキ

第七十一條 退社員ハ労働又ハ信用ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタルトキト雖モ其持分ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七十二條 會社ノ商號中ニ退社員ノ氏又ハ氏名ヲ用非タルトキハ退社員ハ其氏又ハ氏名ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第七十三條 退社員ハ本店ノ所在地ニ於テ退社ノ登記ヲ爲ス前ニ生シタル會社ノ債務ニ付キ責任ヲ負フ此責任ハ其登記後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス
前項ノ規定ハ他ノ社員ノ承諾ヲ得テ持分ヲ讓

渡シタル社員ニ之ヲ準用ス

第五節 解散

第七十四條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 存立時期ノ滿了其他定款ニ定メタル事由ノ發生

二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

三 總社員ノ同意

四 會社ノ合併

五 社員カ一人ト爲リタルコト

六 會社ノ破産
七 裁判所ノ命令

第七十五條 前條第一號ノ場合ニ於テハ社員ノ全部又ハ一部ノ同意ヲ以テ會社ヲ繼續スルコトヲ得但同意ヲ爲サザリシ社員ハ退社ヲ爲シ

タルモノト看做ス

第七十六條 會社カ解散シタルトキハ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 會社ノ合併ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及ヒ貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス
會社ハ前項ノ期間内ニ其債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二个月ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ會社ノ合併ニ對シテ異議ヲ述ヘザリシトキハ之

ヲ承認シタルモノト看做ス
債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ會社ハ之ニ辨
濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ
合併ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ反シテ合併ヲ爲シタルトキハ之
ヲ以テ異議ヲ述ヘタル債權者ニ對抗スルコト
ヲ得ス

第八十條 會社カ第七十八條第二項ニ定メタ
ル公告ヲ爲サスシテ合併ヲ爲シタルトキハ其
合併ハ之ヲ以テ其債權者ニ對抗スルコトヲ得
ス
會社カ知レタル債權者ニ催告ヲ爲サスシテ合
併ヲ爲シタルトキハ其合併ハ之ヲ以テ其催告
ヲ受ケサリシ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十一條 會社カ合併ヲ爲シタルトキハ二週
間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ合併後存
續スル會社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併
ニ因リテ消滅シタル會社ニ付テハ解散ノ登記
ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テ
ハ第五十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコ
トヲ要ス

第八十二條 合併後存續スル會社又ハ合併ニ因
リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタ
ル會社ノ權利義務ヲ承繼ス

第八十三條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ
各社員ハ會社ノ解散ヲ裁判所ニ請求スルコト
ヲ得但裁判所ハ社員ノ請求ニ因リ會社ノ解散
ニ代ヘテ或社員ヲ除名スルコトヲ得
第六節 清算

第八十四條 會社ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的

ノ範圍内ニ於テハ尙ホ存續スルモノト看做ス
第八十五條 解散ノ場合ニ於ケル會社財産ノ處
分方法ハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ之ヲ定
ムルコトヲ得此場合ニ於テハ解散ノ日ヨリ二
週間内ニ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作ルコト
ヲ要ス

第七十八條第二項、第七十九條及ヒ第八十條
ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十六條 前條ノ規定ニ依リテ會社財産ノ處
分方法ヲ定メサリシトキハ合併及ヒ破産ノ場
合ヲ除ク外後十三條ノ規定ニ從ヒテ清算ヲ爲
スコトヲ要ス

第八十七條 清算ハ總社員又ハ其選任シタル者
ニ於テ之ヲ爲ス
清算人ノ選任ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第八十八條 第七十四條第五號ノ場合ニ於テハ
裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選
任ス

第八十九條 會社カ裁判所ノ命令ニ因リテ解散
シタルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ
請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第九十條 清算人ノ選任アリタルトキハ其清
算人ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於
テ自己ノ氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス

第九十一條 清算人ノ職務左ノ如シ
一 現務ノ結了
二 債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟
三 殘餘財産ノ分配
清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一
切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有

清算人ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 民法第八十一條ノ規定ハ合名會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九十二條 會社ニ現存スル財産ガ其債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ清算人ハ辨濟期ニ拘

ハラズ社員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十三條 清算人數人アルトキハ清算ニ關スル行爲ハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス但第三者ニ對シテハ各自會社ヲ代表ス

第九十四條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ作り之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ請求ニ因リ毎月清算ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

報告スルコトヲ要ス

第九十五條 清算人ハ會社ノ債務ヲ辨濟シタル後ニ非サレハ會社財産ヲ社員ニ分配スルコトヲ得ス

第九十六條 社員カ選任シタル清算人ハ何時ニテモ之ヲ解任スルコトヲ得此解任ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第九十七條 清算人ノ解任又ハ變更ハ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ之ヲ登記スルコトヲ要ス

第九十八條 清算人ノ任務カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク清算ヲ爲シテ各社員ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

前項ノ計算ニ對シ社員カ一个月内ニ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス但清算人ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十九條 清算カ終了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第一百條 會社カ事業ニ着手シタル後其設立カ取消サレタルトキハ解散ノ場合ニ準ジテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス

第一百一條 會社ノ帳簿、其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ第八十五條ノ場合ニ在リテハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後其他ノ場合ニ在リテハ清算終了

ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ定ム

第一百二條 社員カ死亡シタル場合ニ於テ其相續人數人アルトキハ清算ニ關シテ社員ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

第一百三條 第六十三條ニ定メタル社員ノ責任ハ本店ノ所在地ニ於テ解散ノ登記ヲ爲シタル後五年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

前項ノ期間經過ノ後ト雖モ分配セサル殘餘財産尙ホ存スルトキハ會社ノ債權者ハ之ニ對シテ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

第三章 合資會社

第一百四條 合資會社ハ有限責任社員ト無限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

第百五條 合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場

合ヲ除ク外合名會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第百六條 合資會社ノ定款ニハ第五十條ニ掲ケ

タル事項ノ外各社員ノ責任ノ有限又ハ無限ナル

ルコトヲ記載スルコトヲ要ス

第百七條 會社ハ定款ヲ作リタル日ヨリ二週間

内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ第五十一

條第一項ニ掲ケタル事項ノ外各社員ノ責任ノ

有限又ハ無限ナルコトヲ登記スルコトヲ要ス

第百八條 有限責任社員ハ金錢其他ノ財産ノミ

ヲ以テ其出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第百九條 各無限責任社員ハ定款ニ別段ノ定ナ

キトキハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有シ義

務ヲ負フ

無限責任社員數人アルトキハ會社ノ業務執行

ハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第百十條 支那人ノ選任及ヒ解任ハ特ニ業務執

行社員ヲ定メタルトキト雖モ無限責任社員ノ

過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第百十一條 有限責任社員ハ營業年度ノ終ニ於

テ營業時間内ニ限り會社ノ財産目錄及ヒ貸借

對照表ノ閲覧ヲ求メ且會社ノ業務及ヒ會社財

産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ有限責任社

員ノ請求ニ因リ何時ニテモ會社ノ業務及ヒ會

社財産ノ狀況ノ検査ヲ許スコトヲ得

第百十二條 有限責任社員ハ無限責任社員全員

ノ承諾アルトキハ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他

人ニ讓渡スルコトヲ得

第百十三條 有限責任社員ハ自己又ハ第三者ノ

爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲

シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスレ他ノ會社ノ無

限責任社員ト爲ルコトヲ得

第百十四條 定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ特ニ

會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メサルト

キハ各無限責任社員會社ヲ代表ス

第百十五條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行

シ又ハ會社ヲ代表スルコトヲ得ス

第百十六條 有限責任社員ニ自己ヲ無限責任社

員ナリト信セシムヘキ行爲アリタルトキハ其

社員ハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ト

同一ノ責任ヲ負フ

第百十七條 有限責任社員カ死亡シタルトキハ

其相續人之二代ハリテ社員ト爲ル

有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受クルモ之ニ

因リテ退社セス

第百十八條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限

責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ解散ス但

無限責任社員ノ全員カ退社シタル場合ニ於テ

社ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

前項但書ノ場合ニ於テハ二週間内ニ本店及ヒ

支店ノ所在地ニ於テ合資會社ニ付テハ解散ノ

登記ヲ爲シ合名會社ニ付テハ第五十一條第一

項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四章 株式會社

第一節 設立

第百十九條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發

起人アルコトヲ要ス

第百二十條 發起人ハ定款ヲ作り之ニ左ノ事項

ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

- 一 目的
 - 二 商號
 - 三 資本ノ總額
 - 四 一株ノ金額
 - 五 取締役カ有スヘキ株式ノ數
 - 六 本店及ヒ支店ノ所在地
 - 七 會社カ公告ヲ爲ス方法
 - 八 發起人ノ氏名、住所
- 第百一十一條 前條第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項ヲ定款ニ記載セザリシトキハ創立總會又ハ株主總會ニ於テ之ヲ補足スルコトヲ得前項ノ株主總會ノ決議ハ第二百九條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第百一十二條 左ニ掲ケタル事項ヲ定メタルト

キハ之ヲ定款ニ記載スルニ非サレハ其效ナシ

- 一 存立時期又ハ解散ノ事由
 - 二 株式ノ額面以上ノ發行
 - 三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名
 - 四 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數
 - 五 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額
- 第百二十三條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ會社ハ之ニ因リテ成立ス此場合ニ於テハ發起人ハ遲滞ナク株金ノ四分ノ一ヲ下ラサル第一回ノ拂込ヲ爲シ且取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス此選任ハ發起人ノ議決

權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

- 第百二十四條 取締役ハ其選任後遲滞ナク第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査セシムル爲メ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス
- 裁判所ハ検査役ノ報告ヲ聽キ第百三十五條ノ規定ニ準據シテ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第百二十五條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ株主ヲ募集スルコトヲ要ス
- 第百二十六條 株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證ニ通シ其引受クヘキ株式ノ數ヲ記載シ之ニ署名スルコトヲ要ス
- 株式申込證ハ發起人ノ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 定款作成ノ年月日

- 二 第百二十條及ヒ第百二十二條ニ掲ケタル事項
 - 三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數
 - 四 第一回拂込ノ金額
- 額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニ於テハ株式申込人ハ株式申込證ニ引受價額ヲ記載スルコトヲ要ス
- 第百二十七條 株式ノ申込ヲ爲シタル者ハ其引受クヘキ株式ノ數ニ應ジテ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ
- 第百二十八條 株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ス
- 第一回拂込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第二百二十九條 株式總數ノ引受アリタルトキハ
發起人ハ遲滞ナク各株ニ付キ第一回ノ拂込ヲ
爲シシムルコトヲ要ス
額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキ
ハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時
ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第二百三十條 株式引受人カ前條ノ拂込ヲ爲ササ
ルトキハ發起人ハ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲
スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ
其權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株式引受人ニ通知ス
ルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得
發起人カ前項ノ通知ヲ爲シタルモ株式引受人
カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ此場合
ニ於テ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ

更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ株式引受人ニ對スル損害賠償
ノ請求ヲ妨ケス

第二百三十一條 各株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込
アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ
召集スルコトヲ要ス

創立總會ニハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資
本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出席シ其議決權
ノ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲ス
第二百五十六條第一項、第二項及ヒ第六十一
條第三項、第四項、第六十二條及ヒ第六十
三條第一項、第二項ノ規定ハ創立總會ニ之
ヲ準用ス

第二百三十二條 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事
項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二百三十三條 創立總會ニ於テハ取締役及ヒ監
査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第二百三十四條 取締役及ヒ監査役ハ左ニ掲ケタ
ル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコト
ヲ要ス

- 一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
- 二 各株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリタ
ルヤ否ヤ
- 三 第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケ
タル事項ノ正當ナルヤ否ヤ

取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタ
ル者アルトキハ創立總會ハ特ニ檢査役ヲ選任
シ其者ニ代ハリテ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サ
シムルコトヲ得

第二百三十五條 創立總會ニ於テ第二百二十二條第

三號乃至第五號ニ掲ケタル事項ヲ不當ト認メ

タルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但金錢以外
ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ
於テ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ減シタルト
キハ其者ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得

第二百三十六條 引受ナキ株式又ハ第二百二十九條
ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ發起人ハ連
帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務
ヲ負フ株式ノ申込方取消サレタルトキ亦同シ

第二百三十七條 前二條ノ規定ハ發起人ニ對スル
損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第二百三十八條 創立總會ニ於テハ定款ノ變更又
ハ設立ノ廢止ノ決議ヲモ爲スコトヲ得

第二百三十九條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサ
リシトキハ會社ハ創立總會ノ終結ニ因リテ成

立ス

第四百十條 株式總數ノ引受アリタル後一年內ニ第百二十九條ノ拂込カ終ハラサルトキ又ハ其拂込カ終ハリタル後六個月內ニ發起人カ創立總會ヲ召集セサルトキハ株式引受人ハ其申込ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百十一條 會社ハ發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ第百二十四條ニ定メタル調査終了ノ日ヨリ又發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサリシトキハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間內ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 第百二十條第一號乃至第四號及第七號ニ掲ケタル事項

- 二 本店及ヒ支店
- 三 設立ノ年月日
- 四 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其時期又ハ事由
- 五 各株ニ付キ拂込ミタル株金額
- 六 開業前ニ利息ヲ配當スヘキコトヲ定メタルトキハ其利率
- 七 取締役及ヒ監査役ノ氏名、住所

第五十一條 第二項、第三項、第五十二條及ヒ**第五十三條**ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第四百十二條 會社カ前條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ハ株式引受人ハ詐欺又ハ強迫ニ因リテ其申込ヲ取消スコトヲ得ス

第二節 株式

第四百十三條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分ツコトヲ要ス

第四百十四條 株主ノ責任ハ其引受ケ又ハ讓受ケタル株式ノ金額ヲ限度トス

株主ハ株金ノ拂込ニ付キ相殺ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百十五條 株式ノ金額ハ均一ナルコトヲ要ス

株式ノ金額ハ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス但一時ニ株金ノ全額ヲ拂込ムヘキ場合ニ限り之ヲ二十圓マテニ下スコトヲ得

第四百十六條 株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス

共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲

ス義務ヲ負フ

第四百十七條 株券ハ第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ反シテ發行シタル株券ハ無効トス但株券ヲ發行シタル者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第四百十八條 株券ニハ左ノ事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ商號
- 二 第百四十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル年月日
- 三 資本ノ總額
- 四 一株ノ金額

一時ニ株金ノ全額ヲ拂込マシメサル場合ニ於

テハ拂込アル毎ニ其金額ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス

第四百十九條 株式ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ會社ノ承諾ナクシテ之ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得但第四百十一條第一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ之ヲ讓渡シ又ハ其讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十條 記名株式ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名、住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其氏名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百十一條 會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

株式ハ資本減少ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ消却スルコトヲ得ス但定款ノ定ムル所ニ從ヒ

株主ニ配當スヘキ利益ヲ以テスルハ此限ニ在ラス

第四百十二條 株金ノ拂込ハ二週間前ニ之ヲ各株主ニ催告スルコトヲ要ス

株主カ期日ニ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ更ニ一定ノ期間内ニ其拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其株主ニ通知スルコトヲ得但其期間ハ二週間ヲ下ルコトヲ得ス

第四百十三條 會社カ前條ニ定メタル手續ヲ踐ミタルモ株主カ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルコトヲ要ス此場合ニ於テ

ハ最モ先ニ滯納金額ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得ス

讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ株式ヲ競賣スルコトヲ要ス此場合ニ於テ競賣ニ依リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ヲシテ其不足額ヲ辨濟セシムルコトヲ得若シ從前ノ株主カ二週間内ニ之ヲ辨濟セズルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ會社カ損害賠償及ヒ定款ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第四百十四條 前條ニ定メタル讓渡人ノ責任ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第四百十五條 株金全額ノ拂込アリタルトキハ

株主ハ其株式ヲ無記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

株主ハ何時ニテモ其無記名式ノ券ヲ記名式ト爲スコトヲ請求スルコトヲ得

第三節 會社ノ機關 第一款 株主總會

第四百十六條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ二週間前ニ各株主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

會社カ無記名式ノ株式ヲ發行シタル場合ニ於テハ會日ヨリ三週間前ニ總會ヲ開クヘキ旨及ヒ前項ニ掲ケタル事項ヲ公告スルコトヲ要ス

第四百十七條 定時總會ハ毎年一回一定ノ時期

ニ於テ取締役之ヲ招集スルコトヲ要ス
年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ
毎配當期ニ總會ヲ招集スルコトヲ要ス

第百五十八條 定時總會ハ取締役ヲ提出シタル
書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ調査シ且利益又ハ
利息ノ配當ヲ決議ス

前項ニ掲ケタル書類ノ當否ヲ調査セシムル爲
メ總會ハ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得
第百五十九條 臨時總會ハ必要アル毎ニ取締役
之ヲ招集ス

第百六十條 資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主
ハ總會ノ目的及ヒ其招集ノ理由ヲ記載シタル
書面ヲ取締役ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求ス
ルコトヲ得
取締役方前項ノ請求アリタル後二週内ニ總

會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ其請求ヲ爲シ
タル株主ハ裁判所ノ許可ヲ得テ其招集ヲ爲ス
コトヲ得

第百六十一條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別
段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル株主ノ議
決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

無記名式ノ株券ヲ有スル者ハ會日ヨリ一週間
前ニ其株券ヲ會社ニ供託スルニ非サレハ其議
決權ヲ行フコトヲ得ス

株主ハ代理人ヲ以テ其議決權ヲ行フコトヲ得
但其代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ會社ニ差
出タスコトヲ要ス

總會ノ決議ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル者
ハ其議決權ヲ行フコトヲ得ス
第百六十二條 各株主ハ一株ニ付キ一個ノ議決

權ヲ有ス但十一株以上ヲ有スル株主ノ議決權
ハ定款ヲ以テ之ヲ制限スルコトヲ得

第百六十三條 總會招集ノ手續又ハ其決議ノ方
法カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ株主ハ其決
議ノ無効ノ宣告ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ハ決議ノ日ヨリ一个月内ニ之ヲ爲
スコトヲ要ス

取締役又ハ監査役ニ非サル株主カ第一項ノ請
求ヲ爲シタルトキハ其株券ヲ供託シ且會社ノ
請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第一款 取締役

第百六十四條 取締役ハ株主總會ニ於テ株主中
ヨリ之ヲ選任ス

第百六十五條 取締役ハ三人以上タルコトヲ要
ス

第百六十六條 取締役ノ任期ハ三年ヲ超ユルコ
トヲ得ス但其任期満了ノ後之ヲ再選スルコト
ヲ妨ケス

第百六十七條 取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ
決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但任期ノ定
アル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其任期前
ニ之ヲ解任シタルトキハ其取締役ハ會社ニ對
シ解任ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求ス
ルコトヲ得

第百六十八條 取締役ハ定款ニ定ムル員數ノ
株券ヲ監査役ニ供託スルコトヲ要ス

第百六十九條 會社ノ業務執行ハ定款ニ別段ノ
定ナキトキハ取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
支配人ノ選任及ヒ解任亦同シ

第百七十條 取締役ハ各自會社ヲ代表ス

第六十二條ノ規定ハ取締役ニ之ヲ準用ス
第七十一條 取締役ハ定款及ヒ總會ノ決議錄ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置キ且株主名簿及ヒ社債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クコトヲ要ス
 株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニテモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第七十二條 株主名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 株主ノ氏名、住所
- 二 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號
- 三 各株ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ年月日
- 四 各株式ノ取得ノ年月日
- 五 無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ其

數、番號及ヒ發行ノ年月日
第七十三條 社債原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 社債權者ノ氏名、住所
 - 二 債券ノ番號
 - 三 社債ノ總額
 - 四 各社債ノ金額
 - 五 社債ノ利率
 - 六 社債償還ノ方法及ヒ期限
 - 七 債券發行ノ年月日
 - 八 各社債ノ取得ノ年月日
 - 九 無記名式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其數、番號及ヒ發行ノ年月日
- 第七十四條** 會社カ其資本ノ半額ヲ失ヒタルトキハ取締役ハ遲滯ナリ株主總會ヲ招集シテ

之ヲ報告スルコトヲ要ス

會社財産ヲ以テ會社ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ取締役ハ直チニ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十五條 取締役ハ株主總會ノ認許アルニ非サレバ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ノ營業ノ部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

取締役カ前項ノ規定ニ反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ハ之ヲ以テ會社ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得
 前項ニ定メタル權利ハ監査役ノ一人カ其行爲ヲ知リタル時ヨリ二个月間之ヲ行ハサルトキハ消滅ス行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタルトキ

亦同シ

第七十六條 取締役ハ監査役ノ承認ヲ得タルトキニ限り自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 取締役カ法令又ハ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ株主總會ノ決議ニ依リタル場合ト雖モ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
 前項ノ規定ハ其行爲ニ對シ株主總會ニ於テ異議ヲ述ヘ且監査役ニ其旨ヲ通知シタル取締役ニハ之ヲ適用セス

第七十八條 株主總會ニ於テ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ監査役ニ請求シタルトキハ

會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス
 前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ其株券ヲ供託シ且監査役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス
 第七十九條 取締役カ受クヘキ報酬ハ定款ニ其額ヲ定メサリシトキハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム
 第三款 監査役
 第八十條 監査役ノ任期ハ之ヲ一年トス但其任期満了ノ後之ヲ再選スルコトヲ妨ケス
 第八十一條 監査役ハ何時ニテモ取締役ニ對シテ事業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及ヒ會

社財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得
 第八十二條 監査役ハ株主總會ヲ召集スル必要アリト認メタルトキハ其召集ヲ爲スコトヲ得此總會ニ於テハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得
 第八十三條 監査役ハ取締役カ株主總會ニ提出セントスル書類ヲ調査シ株主總會ニ其意見ヲ報告スルコトヲ要ス
 第八十四條 監査役ハ取締役又ハ支配人ヲ兼メルコトヲ得ス但取締役中ニ缺員ノルトキハ取締役及ヒ監査役ノ協議ヲ以テ監査役中ヨリ一時取締役ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ定ムルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リテ取締役ノ職務ヲ行フ監査

役ハ第八十二條第一項ノ規定ニ從ヒ株主總會ノ承認ヲ得ルマテハ監査役ノ職務ヲ行フコトヲ得ス
 第八十五條 會社カ取締役ニ對シ又ハ取締役カ會社ニ對シ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其訴ニ付テハ監査役會社ヲ代表ス但株主總會ハ他人ヲシテ之ヲ代表セシムルコトヲ得
 資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ請求シタルトキハ特ニ代表者ヲ指定スルコトヲ得
 第八十六條 監査役カ其任務ヲ怠リタルトキハ會社及ヒ第三者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス
 第八十七條 株主總會ニ於テ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ決議シタルトキ又ハ之ヲ

否決シタル場合ニ於テ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主カ之ヲ取締役ニ請求シタルトキハ會社ハ決議又ハ請求ノ日ヨリ一个月内ニ訴ヲ提起スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ第八十五條第一項但書及ヒ第二項ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ請求ヲ爲シタル株主ハ其株券ヲ供託シ且取締役ノ請求ニ因リ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス
 會社カ敗訴シタルトキハ右ノ株主ハ會社ニ對シテノミ損害賠償ノ責ニ任ス
 第八十八條 監査役ハ其破産又ハ禁治産ニ因リテ退任ス
 第八十九條 第六十四條、第六十七條及ヒ第七十九條ノ規定ハ監査役ニ之ヲ準用ス
 第四節 會社ノ計算

第九十條 取締役ハ定時總會ノ會日ヨリ一週間前左ノ書類ヲ監査役ニ提出スルコトヲ要ス

一 財産目錄

二 貸借對照表

三 營業報告書

四 損益計算書

五 準備金及ヒ利益又ハ利息ノ配當ニ關スル議案

第九十一條 取締役ハ定時總會ノ會日前二日前ニ掲ケタル書類及ヒ監査役ノ報告書ヲ本店ニ備フルコトヲ要ス
株主及ヒ會社ノ債權者ハ營業時間内何時ニモ前項ニ掲ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第九十二條 取締役ハ第九十條ニ掲ケタル書類ヲ定時總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス
取締役ハ前項ノ承認ヲ得タル後貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第九十三條 定時總會ニ於テ前條第一項ノ承認ヲ爲シタルトキハ會社ハ取締役及ヒ監査役ニ對シテ其責任ヲ解除シタルモノト看做ス但取締役又ハ監査役ニ不正ノ行爲アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十四條 會社ハ其資本ノ四分ノ一ニ達スルマテハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其利益ノ二十分ノ一以上ヲ積立ツルコトヲ要ス
額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ越セル金額ハ前項ノ額ニ達スルマ

テ之ヲ準備金ニ組入ルルコトヲ要ス

第九十五條 會社ハ損失ヲ填補シ且前條第一項ニ定メタル準備金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

第九十六條 會社ノ目的タル事業ノ性質ニ依リ第九十一條第二項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲シタル後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ會社ハ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但
其利率ハ法定利率ニ超ユルコトヲ得ス
前項ニ掲ケタル定款ノ規定ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第九十七條 利息又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十八條 裁判所ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ檢査役ヲ選任スルコトヲ得
檢査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監査役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得

第五節 社債

第九十九條 社債ハ第九十九條ニ定メタル決議ニ依ルニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

第二百條 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ニ超

ユルコトヲ得ス

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產
カ前項ノ金額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ
其財產ノ額ニ超ユルコトヲ得ス

第二百一條 各社債ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコト
ヲ得ス

第二百二條 社債權者ニ償還スヘキ金額カ券面

額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其金額ハ
各社債ニ付キ同一ナルコトヲ要ス

第二百三條 社債ヲ募集セントスルトキハ取締

役ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケ

タル事項

二 會社ノ商號

三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ

了ヘサル總額

四 社債發行ノ償額又ハ其最低償額

五 會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

六 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存ス

ル財產ノ額

第二百四條 社債ノ募集カ完了シタルトキハ取

締役ハ各社債ニ付キ其全額ヲ拂込マシムルコ

トヲ要ス

取締役ハ前項ノ規定ニ從ヒ全額ノ拂込ヲ受ケ

タル日ヨリ二週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地

ニ於テ第七十三條第三號乃至第六號ニ掲ケ

タル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第二百五條 債券ニハ第二百三條第一號及ヒ第

二號ニ掲ケタル事項及ヒ番號ヲ記載シ取締役

之ニ署名スルコトヲ要ス

第二百六條 記名社債ノ讓渡ハ讓受人ノ氏名、

住所ヲ社債原簿ニ記載シ且其氏名ヲ債券ニ記

載スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者

ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百七條 第五百五十五條ノ規定ハ債券ニ之ヲ

準用ス

第六節 定款ノ變更

第二百八條 定款ハ株主總會ノ決議ニ依リテノ

ミ之ヲ變更スルコトヲ得

第二百九條 定款ノ變更ハ總株主ノ半數以上ニ

シテ資本ノ半額以上ニ當タル株主出席シ其議

決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

前項ニ定メタル員數ノ株主カ出席セサルトキ

ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假

決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各株主ニ

對シテ其假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ且無記名

式ノ債券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シ

更ニ一个月ヲ下ラサル期間内ニ第二回ノ株主

總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第二回ノ株主總會ニ於テハ出席シタル株主ノ

議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

前二項ノ規定ハ會社ノ目的タル專業ヲ變更ス

ル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百十條 會社ノ資本ハ株金全額拂込ノ後ニ

非サレハ之ヲ増加スルコトヲ得ス

第二百十一條 會社ハ其資本ヲ増加スル場合ニ

限リ優先株ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テ

ハ其旨ヲ定款ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十二條 會社カ優先株ヲ發行シタル場合

ニ於テ定款ノ變更カ優先株主ニ損害ヲ及ホス
ヘキトキハ株主總會ノ決議ノ外優先株主ノ總
會ノ決議アルコトヲ要ス
優先株主ノ總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ
準用ス

第二百十三條 會社カ其資本ヲ増加シタル場合
ニ於テ各新株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリ
タルトキハ取締役ハ遲滯ナク株主總會ヲ招集
シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スル
コトヲ要ス

第二百十四條 監査役ハ左ニ掲ケタル事項ヲ調
査シ之ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス
一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
二 各新株ニ付キ第二百二十九條ノ拂込アリ
タルヤ否ヤ

三 金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲
シタル者アルトキハ其財産ニ對シテ與フ
ル株式ノ數ノ正當ナルヤ否ヤ
株主總會ハ前項ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムル
爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得

第二百十五條 株主總會ニ於テ金錢以外ノ財産
ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ不當ト認メタルト
キハ之ヲ減少スルコトヲ得此場合ニ於テハ第
百三十五條但書ノ規定ヲ準用ス

第二百十六條 引受ナキ株式又ハ第二百二十九條
ノ拂込ノ未済ナル株式アルトキハ取締役ハ連
帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務
ヲ負フ株式ノ申込カ取消サレタルトキ亦同シ
第二百十七條 會社ハ第二百十三條ノ規定ニ依
リテ招集シタル株主總會終結ノ日ヨリ二週間

内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ
登記スルコトヲ要ス

- 一 増加シタル資本ノ總額
- 二 資本増加ノ決議ノ年月日
- 三 各新株ニ付キ拂込ミタル株金額
- 四 優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權
利

前項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ
爲スマテハ新株券ノ發行及ヒ新株ノ讓渡又ハ
其豫約ヲ爲スコトヲ得ス

第二百十八條 新株ヲ發行シタルトキハ前條第
一項ノ規定ニ從ヒ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲ
爲シタル年月日ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス
優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利ヲ株
券ニ記載スルコトヲ要ス

第二百十九條 第二百二十七條乃至第三百十條、
第四百十條、第四百十二條及ヒ第四百十七條
第二項ノ規定ハ新株發行ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二百二十條 株主總會ニ於テ資本減少ノ決議
ヲ爲ストキハ同時ニ其減少ノ方法ヲ決議スル
コトヲ要ス
第七十八條乃至第八十條ノ規定ハ資本減少ノ
場合ニ之ヲ準用ス

第七節 解散
第二百二十一條 會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散
ス

- 一 第七十四條第一號、第二號、第四號、
第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事由
- 二 株主總會ノ決議
- 三 株主カ七人未滿ニ減シタルコト

第二百二十二條 前條第二號及ヒ合併ノ決議ハ
 第二百九條ノ規定ニ從フニ非サレハ之ヲ爲ス
 コトヲ得ス

第二百二十三條 會社カ合併ヲ爲サント欲スル
 トキハ其旨ヲ公告シテ株主總會ノ會日前一個
 月ヲ超エサル期間及ヒ開會中記名株ノ讓渡ヲ
 停止スルコトヲ得

株主總會ニ於テ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ
 其決議ノ日ヨリ第八十一條ノ規定ニ從ヒ本店
 ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スマテハ株主ハ其記
 名株ヲ讓渡スコトヲ得ス

第二百二十四條 會社カ解散シタルトキハ破産
 ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滞ナク株主ニ對シ
 テ其通知ヲ發シ且無記名式ノ株券ヲ發行シタ
 ル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百二十五條 第七十六條及ヒ第七十八條乃
 至第八十二條ノ規定ハ株式會社ニ之ヲ準用ス

第八節 清算

第二百二十六條 會社カ解散シタルトキハ合併
 及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外取締役其清算人ト爲
 ル但定款ニ別段ノ定アルトキ又ハ株主總會ニ
 於テ他人ヲ選任シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ
 裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選
 任ス

第二百二十七條 清算人ハ就職ノ後遲滞ナク會
 社財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及ヒ貸借對照
 表ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求
 ムルコトヲ要ス

第二百五十八條第二項及ヒ第九十二條第二項

ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十八條 株主總會ニ於テ選任シタル清
 算人ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ
 解任スルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ
 資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主ノ請求ニ因
 リ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第二百二十九條 殘餘財産ハ定款ニ依リテ拂込
 ミタル株金額ノ割合ニ應ジテ之ヲ株主ニ分配
 スルコトヲ要ス但會社カ優先株ヲ發行シタル
 場合ニ於テ之ニ異ナリタル定アルトキハ此限
 ニ在ラス

第二百三十條 清算事務力終ハリタルトキハ清
 算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ株主總
 會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百五十八條第二項及ヒ第九十三條ノ規定
 ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十一條 總會召集ノ手續又ハ其決議ノ
 方法カ法令又ハ定款ニ反スルトキハ清算人ハ
 其決議ノ無効ノ宣告ヲ請求スルコトヲ要ス

第二百三十二條 會社カ事業ニ著手シタル後其
 設立ノ無効ナルコトヲ發見シタルトキハ解散
 ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スコトヲ要ス此場合
 ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清
 算人ヲ選任ス

第二百三十三條 會社ノ帳簿其營業ニ關スル信
 書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在
 地ニ於テ清算終了ノ登記ヲ爲シタル後十年間
 之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其
 他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任

ス

第二百三十四條 第八十四條、第八十九條乃至第九十三條、第九十五條、第九十七條、第九十九條、第五百五十九條、第六百六十條、第六百六十三條、第七百七十六條乃至第七百七十八條、第六百八十一條、第六百八十三條乃至第六百八十五條、第六百八十七條及民法第七十九條、第八十條ノ規定ハ株式會社ノ清算ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五章 株式合資會社

第二百三十五條 株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヲ以テ之ヲ組織ス

第二百三十六條 左ノ事項ニ付テハ合資會社ニ關スル規定ヲ準用ス

- 一 無限責任社員相互間ノ關係
- 二 無限責任社員ト株主及ヒ第三者トノ關係

係

三 無限責任社員ノ退社
此他株式合資會社ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外株式會社ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百三十七條 無限責任社員ハ發起人ト爲リテ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名スルコトヲ要ス

- 一 第二百二十條第一號、第二號、第四號、第六號及ヒ第七號ニ掲ケタル事項
 - 二 株金ノ總額
 - 三 無限責任社員ノ氏名、住所
 - 四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ價額又ハ評價ノ標準
- 第二百三十八條 無限責任社員ノ株主ヲ募集スルコトヲ要ス

株式申込證ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 第二百二十二條、第二百二十六條第二項第一號、第四號及ヒ前條ニ掲ケタル事項
- 二 無限責任社員カ株式ヲ引受ケタルトキハ其各自カ引受ケタル株式ノ數

第二百二十九條 創立總會ニ於テハ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

無限責任社員ハ監査役ト爲ルコトヲ得ス

第二百四十條 無限責任社員ハ創立總會ニ出席

シテ其意見ヲ述フルコトヲ得但株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス
無限責任社員カ引受ケタル株式其他ノ出資ハ議決權ニ關シテハ之ヲ算入セス
前二項ノ規定ハ株主總會ニ之ヲ準用ス

第二百四十一條 監査役ハ第三百三十四條第二項

及ヒ第二百三十七條第四號ニ掲ケタル事項ヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二百四十二條 會社ハ創立總會終結ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

- 一 第二百二十條第一號、第二號、第四號、第七號及ヒ第四百四十一條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項
- 二 株金ノ總額
- 三 無限責任社員ノ氏名、住所
- 四 無限責任社員ノ株金以外ノ出資ノ種類及ヒ財產ヲ目的トスル出資ノ價格
- 五 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ヲ定メタルトキハ其氏名

六 監査役ノ氏名、住所

第二百四十三條 會社ヲ代表スヘキ無限責任社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ヲ準用ス但第百六十四條乃至第百六十八條第百七十五條及第百七十九條ノ規定ハ此限ニ在ラス

第二百四十四條 合資會社ニ於テ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付テハ株主總會ノ決議ノ外無限責任社員ノ一致アルコトヲ要ス

第二百四十五條 監査役ハ無限責任社員ヲシテ株主總會ノ決議ヲ執行セシムル責ニ任ス

第二百四十六條 株式合資會社ハ合資會社ト同

第二百四十七條 無限責任社員ノ全員ヲ退社シ

タル場合ニ於テ株主ハ第百九條ニ定メタル決議ニ依リ株式會社トシテ會社ヲ繼續スルコトヲ得此場合ニ於テハ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス

第百十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十八條 會社カ解散シタルトキハ合併破産又ハ裁判所ノ命令ニ因リテ解散シタル場合ヲ除ク外清算ハ無限責任社員ノ全員又ハ其選任シタル者及ヒ株主總會ニ於テ選任シタル者之ヲ爲ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

無限責任社員カ清算人ヲ選任スルトキハ其過半數ヲ以テ之ヲ決ス

株主總會ニ於テ選任スル清算人ハ無限責任社

員ノ全員若クハ其相續人又ハ其選任スル者ト同數ナルコトヲ要ス

第二百四十九條 無限責任社員ハ何時ニテモ其選任シタル清算人ヲ解任スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ清算人ノ解任ニ之ヲ準用ス

第二百五十條 第百二條ノ規定ハ株式合資會社ノ無限責任社員ニ之ヲ準用ス

第二百五十一條 清算人ハ第百二十七條第一項及ヒ第百三十條第一項ニ定メタル計算ニ付キ株主總會ノ承認ノ外無限責任社員全員ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十二條 株式合資會社ハ第百四十四條ノ規定ニ從ヒ其組織ヲ變更シテ之ヲ株式會社ト爲スコトヲ得

第二百五十三條 前條ノ場合ニ於テハ株主總會ハ直チニ株式會社ノ組織ニ必要ナル事項ヲ決議スルコトヲ要ス此總會ニ於テハ無限責任社員モ亦其引受クヘキ株式ノ數ニ應シテ議決權ヲ行フコトヲ得

第七十八條及ヒ第七十九條第一項、第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百五十四條 會社ハ組織變更ニ付キ債權者ノ承認ヲ得又ハ第七十九條第二項ニ定メタル義務ヲ履行シタル後二週間内ニ其本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ株式合資會社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ株式會社ニ付テハ第四十一條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

第六章 外國會社

第二百五十五條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケ

タルトキハ日本ニ成立スル同種ノモノ又ハ最
モ之ニ類似セルモノト同一ノ登記及ヒ公告ヲ
爲スコトヲ要ス

右ノ外日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社ハ其日
本ニ於ケル代表者ヲ定メ且支店設立ノ登記ト
同時ニ其氏名、住所ヲ登記スルコトヲ要ス
第六十二條ノ規定ハ外國會社ノ代表者ニ之ヲ
準用ス

第二百五十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ規定
ニ依リ登記スヘキ事項カ外國ニ於テ生シタル
トキハ登記ノ期間ハ其通知ノ到達シタル時ヨ
リ之ヲ起算ス

第二百五十七條 外國會社カ始メテ日本ニ支店
ヲ設ケタルトキハ其支店ノ所在地ニ於テ登記
ヲ爲スマテハ第三者ハ其會社ノ成立ヲ否認ス

ルコトヲ得

第二百五十八條 日本ニ本店ヲ設ケ又ハ日本ニ
於テ商業ヲ營ムヲ以テ主タル目的トスル會社
ハ外國ニ於テ設立スルモノト雖モ日本ニ於テ
設立スル會社ト同一ノ規定ニ從フコトヲ要ス

第二百五十九條 第四百七條、第四百九條、
第五百十條、第五百五條第一項、第二百六
條、第二百七條及ヒ第二百十七條第二項ノ規
定ハ日本ニ於テスル外國會社ノ株式ノ發行及
ヒ其株式若クハ社債ノ讓渡ニ之ヲ準用ス此場
合ニ於テハ始メテ日本ニ設ケタル支店ヲ以テ
本店ト看做ス

第二百六十條 外國會社カ日本ニ支店ヲ設ケタ
ル場合ニ於テ其代表者カ會社ノ業務ニ付キ公
ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル行爲ニ爲シタ

ルトキハ裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權
ヲ以テ其支店ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得

第七章 罰則

第二百六十一條 發起人、會社ノ業務ヲ執行ス
ル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役
又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五百圓以上五百
圓以下ノ過料ニ處セラレ

- 一 本編ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リ
タルトキ
- 二 本編ニ定メタル公告若クハ通知ヲ爲ス
コトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若クハ通知ヲ
爲シタルトキ
- 三 本編ノ規定ニ依リ閱覽ヲ許スヘキ書類
ヲ正當ノ理由ナクシテ閱覽セシメサリシ
トキ

四 本編ノ規定ニ依ル調査ヲ妨ケタルトキ
五 第四十六條ノ規定ニ違反シテ開業ノ準
備ニ著手シタルトキ

六 第二百二十六條第二項及ヒ第二百三十八
條第二項ノ規定ニ反シ株式申込證ヲ作ラ
ス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ
不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

七 第四百四十七條第一項又ハ第二百十七條
第二項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタ
ルトキ

八 株券又ハ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載
セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
九 定款、株主名簿、社債原簿、總會ノ決
議録、財産目録、貸借對照表、營業報告
書、損益計算書及ヒ準備金並ニ利益又ハ

利息ノ配當ニ關スル議案ヲ本店若クハ支店ニ備ヘ置カス、之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

十 第七十四條第一項又ハ第九十八條第二項ノ規定ニ反シテ株主總會ヲ召集セサルトキ

第二百六十二條 發起人、會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、外國會社ノ代表者、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ八十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル

官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

二 第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ違反シテ合併、會社財産ノ處分、資本ノ減少

又ハ組織ノ變更ヲ爲シタルトキ

三 検査役ノ調査ヲ妨ケタルトキ

四 第五十一條第一項ノ規定ニ反シ株式ヲ取得シ若クハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ之ヲ消却シタルトキ

五 第五十五條第一項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ無記名式ト爲シタルトキ

六 第七十四條第二項又ハ民法第八十一條ノ規定ニ反シ破産宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

七 第九十四條ノ規定ニ反シ準備金ヲ積立テス又ハ第九十五條第一項若クハ第九十六條ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキ

八 第二百條ノ規定ニ違反シテ社債ヲ募集シタルトキ

九 第二百六十條ノ規定ニ依ル裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

十 民法第七十九條ノ期間内ニ或債權者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第九十五條ノ規定ニ違反シテ會社財産ヲ分配シタルトキ

第三編 商行為

第一章 總則

第二百六十三條 左ニ掲ゲタル行爲ハ之ヲ商行為トス

一 利益ヲ得テ讓渡ス意思ヲ以テスル動産不動産若クハ有價證券ノ有償取得又ハ其取得シタルモノノ讓渡ヲ目的トスル行爲

二 他人ヨリ取得スヘキ動産又ハ有價證券

ノ供給契約及ヒ其履行ノ爲メニスル有償取得ヲ目的トスル行爲

三 取引所ニ於テスル取引

四 手形其他ノ商業證券ニ關スル行爲

第二百六十四條 左ニ掲ゲタル行爲ハ營業トシテ之ヲ爲ストキハ之ヲ商行為トス但專ラ賃金ヲ得ル目的ヲ以テ物ヲ製造シ又ハ勞務ニ服スル者ノ行爲ハ此限ニ在ラス

一 賃貸スル意思ヲ以テスル動産若クハ不動産ノ有償取得若クハ賃借又ハ其取得若クハ賃借シタルモノノ賃貸ヲ目的トスル行爲

二 他人ノ爲メニスル製造又ハ加工ニ關スル行爲

三 電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲

四 運送ニ關スル行爲
 五 作業又ハ勞務ノ請負
 六 出版、印刷又ハ攝影ニ關スル行爲
 七 客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引
 八 兩替其他ノ銀行取引
 九 保險
 十 寄託ノ引受
 十一 仲立又ハ取次ニ關スル行爲
 十二 商行爲ノ代理ノ引受
 第二百六十五條 商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ之ヲ商行爲トス
 商人ノ行爲ハ其營業ノ爲メニスルモノト推定ス
 第二百六十六條 商行爲ノ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示ササルトキト雖モ其行爲ハ本

人ニ對シテ其效力ヲ生ス但相手方カ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサリシトキハ代理人ニ對シテ履行ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
 第二百六十七條 商行爲ノ受任者ハ委任ノ本旨ニ反セサル範圍内ニ於テ委任ヲ受ケサル行爲ヲ爲スコトヲ得
 第二百六十八條 商行爲ノ委任ニ因ル代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅セス
 第二百六十九條 對話者間ニ於テ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ直チニ承諾ヲ爲ササルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ
 第二百七十條 隔地者間ニ於テ承諾期間ノ定ナクシテ契約ノ申込ヲ受ケタル者カ相當ノ期間内ニ承諾ノ通知ヲ發セサルトキハ申込ハ其效力ヲ失フ

民法第五百二十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二百七十一條 商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク諾否ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス若シ之ヲ發スルコトヲ怠リタルトキハ申込ヲ承諾シタルモノト看做ス
 第二百七十二條 商人カ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ申込ト共ニ受取りタル物品ノルトキハ其申込ヲ拒絕シタルトキト雖モ申込者ノ費用ヲ以テ其物品ヲ保管スルコトヲ要ス但其物品ノ價額カ其費用ヲ償フニ足ラサルトキ又ハ商人カ其保管ニ因リテ損害ヲ受ケヘキトキハ此限ニ在ラス
 第二百七十三條 數人カ其一人又ハ全員ノ爲メ

ニ商行爲タル行爲ニ因リテ債務ヲ負擔シタルトキハ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス
 保證人アル場合ニ於テ債務カ主タル債務者ノ商行爲ニ因リテ生シタルトキ又ハ保證カ商行爲ナルトキハ主タル債務者及ヒ保證人カ各別ノ行爲ヲ以テ債務ヲ負擔シタルトキト雖モ其債務ハ各自連帶シテ之ヲ負擔ス
 第二百七十四條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ或行爲ヲ爲シタルトキハ相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得
 第二百七十五條 商人間ニ於テ金錢ノ消費貸借ヲ爲シタルトキハ貸主ハ法定利息ヲ請求スルコトヲ得
 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ他人ノ爲メニ金錢ノ立替ヲ爲シタルトキハ其立替ノ日以後ノ

法定利息ヲ請求スルコトヲ得

第二百七十六條

商行爲ニ因リテ生シタル債務ニ關シテハ法定利率ハ年六分トス

第二百七十七條

民法第三百四十九條ノ規定ハ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保スル爲メニ設定シタル質權ニハ之ヲ適用セス

第二百七十八條

商行爲ニ因リテ生シタル債務ノ履行ヲ爲スルキ場所カ其行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ定マラサルトキハ特定物ノ引渡ハ行爲ノ當時其物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲シ其他ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

指圖債權及ヒ無記名債權ノ辨濟ハ債權者ノ現時ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所ニ

於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

支店ニ於テ爲シタル取引ニ付テハ其支店ヲ以テ營業所ト看做ス

第二百七十九條

指圖債權又ハ無記名債權ノ債務者ハ其履行ニ付キ期限ノ定アルトキト雖モ其期限カ到來シタル後所持人カ其證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

第二百八十條

第二百七十八條第二項及ヒ前條ノ規定ハ民法第四百七十一條ニ掲ケタル債權ニ之ヲ適用ス

第二百八十一條

金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券又ハ無記名證券ノ所持人カ其證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ公示催告ノ申立ヲ爲シタルトキハ債權者ヲシテ其債務ノ目的物

ヲ供託セシメ又ハ相當ノ擔保ヲ供シテ其證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百八十二條

第四百四十一條、第四百五十七條、第四百六十一條及ヒ第四百六十四條ノ規定ハ金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖債權ニ之ヲ適用ス

第二百八十三條

法令又ハ慣習ニ依リ取引時間ノ定アルトキハ其取引時間内ニ限り債務ノ履行ヲ爲シ又ハ其履行ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二百八十四條

商人間ニ於テ其雙方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リテ生シタル債權カ辨債期ニ在ルトキハ債權者ハ辨濟ヲ受クルマテ其債務者下ノ間ニ於ケル商行爲ニ因リテ自己ノ占有ニ歸シタル債務者ノ所有物ヲ留置スルコトヲ得但別段ノ意思表示アリタルトキハ此限

ニ在ラス

第二百八十五條

商行爲ニ因リテ生シタル債權ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外五年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス但他ノ法令ニ之ヨリ短キ時効期間ノ定アルトキハ其規定ニ從フ

第二章 賣買

第二百八十六條

商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ賣主ハ其物ヲ供託シ又ハ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲シタル後之ヲ競賣スルコトヲ得此場合ニ於テハ遲滞ナク買主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

損敗シ易キ物ハ前項ノ催告ヲ爲サスシテ之ヲ競賣スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣主カ賣買ノ目的物ヲ競賣シタルトキハ其代價ヲ供託スルコトヲ要ス但其全部又ハ一部ヲ代金ニ充當スルコトヲ妨ケス

第二百八十七條 賣買ノ性質又ハ當事者ノ意思表示ニ依リ一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ當事者ノ一方カ履行ヲ爲サスシテ其時期ヲ經過シタルトキハ相手方ハ直チニ其履行ヲ請求スルニ非サレハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第二百八十八條 商人間ノ賣買ニ於テ買主カ其目的物ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク之ヲ検査シ若シ之ニ瑕疵アルコト又ハ其數量ニ不足アルコトヲ發見シタルトキハ直チニ賣主ニ對シ

テ其通知ヲ發スルニ非サレハ其瑕疵又ハ不足ニ因リテ契約ノ解除又ハ代金減額若クハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス賣買ノ目的物ニ直チニ發見スルコト能ハサル瑕疵アリタル場合ニ於テ買主カ六个月内ニ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ賣主ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二百八十九條 前條ノ場合ニ於テ買主ハ契約ノ解除ヲ爲シタルトキト雖モ賣主ノ費用ヲ以テ賣買ノ目的物ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス但其物ニ付キ滅失又ハ毀損ノ虞アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣シ其代價ヲ保管又ハ供託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ買主カ競賣ヲ爲シタルトキ

ハ遲滞ナク賣主ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ賣主及ヒ買主ノ營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所カ同市町村内ニ在ル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二百九十條 前條ノ規定ハ賣主ヨリ買主ニ引渡シタル物品カ注文シタル物品ト異ナリタル場合ニ之ヲ準用ス其物品カ注文シタル數量ヲ超過シタル場合ニ於テ其超過額ニ付キ亦同シ

第三章 交互計算

第二百九十一條 交互計算ハ商人間又ハ商人ト商人ニ非サル者トノ間ニ平常取引ヲ爲ス場合ニ於テ一定ノ期間内ノ取引ヨリ生スル債權債務ノ總額ニ付キ相殺ヲ爲シ其殘額ノ支拂ヲ爲スヘキコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第二百九十二條

手形其他ノ商業證券ヨリ生シタル債權債務ヲ交互計算ニ組入レタル場合ニ於テ證券ノ債務者カ辨濟ヲ爲リザリシトキハ當事者ハ其債務ニ關スル項目ヲ交互計算ヨリ除去スルコトヲ得

第二百九十三條

當事者カ相殺ヲ爲スヘキ期間ヲ定メザリシトキハ其期間ハ之ヲ六個月トス

第二百九十四條

當事者カ債權債務ノ各項目ヲ記載シタル計算書ノ承認ヲ爲シタルトキハ其各項目ニ付キ異議ヲ述フルコトヲ得ス但錯誤又ハ脱漏アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百九十五條

相殺ニ因リテ生シタル殘額ニ付テハ債權者ハ計算閉鎖ノ日以後ノ法定利息ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ各項目ヲ交互計算ニ組入レタル

日ヨリ之ニ利息ヲ附スルコトヲ妨ケス
第二百九十六條 各當事者ハ何時ニテモ交互計
算ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ直チ
ニ計算ヲ閉鎖シテ殘額ノ支拂ヲ請求スルコト
ヲ得

第四章 匿名組合

第二百九十七條 匿名組合契約ハ當事者ノ一方
カ相手方ノ營業ノ爲メニ出資ヲ爲シ其營業ヨ
リ生スル利益ヲ分配スヘキコトヲ約スルニ因
リテ其効力ヲ生ス

第二百九十八條 匿名組合ノ出資ハ營業者ノ財
産ニ歸ス

匿名組合員ハ營業者ノ行爲ニ付キ第三者ニ對
シテ權利義務ヲ有セス

第二百九十九條 匿名組合員カ其氏名若クハ氏

名ヲ營業者ノ商號中ニ用非又ハ其商號ヲ營業
者ノ商號トシテ用ユルコトヲ許諾シタルトキ
ハ其使用以後ニ生シタル債務ニ付テハ營業者
ト連帶シテ其責ニ任ス

第二百條 出資カ損失ニ因リテ減シタルトキハ
其填補ノ後ニ非サレハ匿名組合員ハ利益ノ配
當ヲ請求スルコトヲ得ス

第二百一一條 組合契約ヲ以テ組合ノ存續期間ヲ
定メサリシトキ又ハ或當事者ノ終身間組合ノ
存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各當事者ハ
營業年度ノ終ニ於テ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ
得但六ヶ月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス
組合ノ存續期間ヲ定メタルトキハ各當事者ハ已
ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ何
時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第二百二條 前條ニ掲ケタル場合ノ外組合契約

ハ左ノ事由ニ因リテ終了ス

一 組合ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功
ノ不能

二 營業者ノ死亡又ハ禁治産

三 營業者又ハ匿名組合員ノ破産

第二百三條 組合契約カ終了シタルトキハ營業

者ハ匿名組合員ニ其出資ノ價額ヲ返還スルコ
トヲ要ス但出資カ損失ニ因リテ減シタルトキ
ハ其殘額ヲ返還スルヲ以テ足ル

第二百四條 第八條、第一百一條及ヒ第一百
五條ノ規定ハ匿名組合員ニ之ヲ準用ス

第五章 仲立營業

第二百五條 仲立人トハ他人間ノ商行爲ノ媒介
ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二百六條 仲立人ハ其媒介シタル行爲ニ付キ

當事者ノ爲メニ支拂其他ノ給付ヲ受クルコト
ヲ得ス但別段ノ意思表示又ハ慣習アルトキハ
此限ニ在ラス

第二百七條 仲立人カ其媒介スル行爲ニ付キ見
本ヲ受取リタルトキハ其行爲カ完了スルマテ
之ヲ保管スルコトヲ要ス

第二百八條 當事者間ニ於テ行爲カ成立シタル
トキハ仲立人ハ遲滯ナク各當事者ノ氏名又ハ
商號行爲ノ年月日及ヒ其要領ヲ記載シタル書
面ヲ作り署名ノ後之ヲ各當事者ニ交付スルコ
トヲ要ス

當事者カ直チニ履行ヲ爲スヘキ場合ヲ除ク外
仲立人ハ各當事者ヲシテ前項ノ書面ニ署名セ
シメタル後之ヲ其相手方ニ交付スルコトヲ要

前二項ノ場合ニ於テ當事者ノ一方カ書面ヲ受領セズ又ハ之ニ署名セサルトキハ仲立人ハ遲滞ナク相手方ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第三百九條 仲立人ハ其帳簿ニ前條第一項ニ掲

ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

當事者ハ何時ニテモ仲立人カ自己ノ爲メニ媒介シタル行爲ニ付シテ其帳簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三百十條 當事者カ其氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示ササルヘキ旨ヲ仲立人ニ命シタルトキハ

仲立人ハ第三百八條第一項ノ書面及ヒ前條第二項ノ謄本ニ其氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得

第三百十一條 仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名又ハ商號ヲ相手方ニ示ササリシトキハ之ニ對シテ自ら履行ヲ爲ス責ニ任ス

第三百十二條 仲立人ハ第三百八條ノ手續ヲ終

ハリタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得

仲立人ノ報酬ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第六章 問屋營業

第三百十三條 問屋トハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ物品ノ販賣又ハ買入ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百十四條 問屋ハ他人ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ因リ相手方ニ對シテ自ら權利ヲ得義務ヲ負フ

問屋ト委託者トノ間ニ於テハ本章ノ規定ノ外委任及ヒ代理ニ關スル規定ヲ準用ス

第三百十五條 問屋ハ委託者ノ爲メニ爲シタル販賣又ハ買入ニ付キ相手方カ其債務ヲ履行セサル場合ニ於テ自ら其履行ヲ爲ス責ニ任ス但別段ノ意思表示又ハ慣習ノルトキハ此限ニ在ラス

第三百十六條 問屋カ委託者ノ指定シタル金額ヨリ廉價ニテ販賣ヲ爲シ又ハ高價ニテ買入ヲ爲シタル場合ニ於テ自ら其差額ヲ負擔スルトキハ其販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力ヲ生ス

第三百十七條 問屋カ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキハ自ら買主又ハ賣主ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ賣

買ノ代價ハ問屋カ買主又ハ賣主ト爲リタルコトノ通知ヲ發シタル時ニ於ケル取引所ノ相場ニ依リテ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テモ問屋ハ委託者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第三百十八條 問屋カ買入ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ委託者カ買入レタル物品ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキハ

第三百十九條 第三十七條及ヒ第四十一條ノ規定ハ問屋ニ之ヲ準用ス

第三百二十條 前章ノ規定ハ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲メニ販賣又ハ買入ニ非サル行爲ヲ爲スヲ業トスル者ニ之ヲ準用ス

第七章 運送取扱營業

第三百二十一條

運送取扱人トハ自己ノ名ヲ以テ物品運送ノ取次ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百二十二條

運送取扱人ハ自己又ハ其使用人カ運送品ノ受取、引渡、保管、運送人又ハ他ノ運送取扱人ノ選擇其他運送ニ關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百二十三條

運送取扱人カ運送品ヲ運送人ニ引渡シタルトキハ直チニ其報酬ヲ請求スルコトヲ得

酬ノ請求スルコトヲ得ス

第三百二十四條

運送取扱人ハ運送品ニ關シ受取ルヘキ報酬、運送貨其他委託者ノ爲メニ爲シタル立替又ハ前貸ニ付テノミ其運送品ヲ留置スルコトヲ得

第三百二十五條

數人相次テ運送ノ取次ヲ爲ス場合ニ於テハ後者ハ前者ニ代ハリテ其權利ヲ行使スル義務ヲ負フ

第三百二十六條

運送取扱人カ運送人ニ辨濟ナルトキハ前者ノ權利ヲ取得ス

第三百二十七條

運送取扱人ハ特約ナキトキハ自ラ運送ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ運送取扱人ハ運送人ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第三百二十八條

運送取扱人ノ責任ハ荷受人カ運送品ヲ受取りタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百二十九條

運送取扱人ノ委託者又ハ荷受人ニ對スル債權ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百三十條

運送取扱營業ニ之ヲ准用ス

第三百三十一條

運送人トハ陸上又ハ湖川、港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トス

ル者ヲ謂フ

第一節 物品運送

第三百三十二條

荷送人ハ運送人ノ請求ニ因リ運送狀ヲ交付スルコトヲ要ス

第三百三十三條

運送人ハ左ノ事項ヲ記載シ荷送人之ニ署名スルコトヲ要ス

第三百三十四條

運送人ハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

第三百三十五條

運送人ハ左ノ事項ヲ記載シ運送人之ニ署名スルコトヲ要ス

一 前條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項

二 荷送人ノ氏名又ハ商號

三 運送貨

四 貨物引換證ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日

第三百三十四條

貨物引換證ヲ作りタルトキハ運送ニ關スル事項ハ運送人ト所持人トノ間ニ於テハ貨物引換證ノ定ムル所ニ依ル

第三百三十五條

裏書ニ依リテ貨物引換證ヲ讓渡シタルトキハ運送品ノ讓渡ト同一ノ效力ヲ有ス

第三百三十六條

運送品ノ全部又ハ一部カ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ其運送貨ヲ請求スルコトヲ得ス若シ運送人カ既ニ

其運送貨ノ全部又ハ一部ヲ受取リタルトキハ之ヲ返還スルコトヲ要ス

運送品ノ全部又ハ一部カ其性質若クハ瑕疵又ハ荷送人ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ運送人ハ運送貨ノ全額ヲ請求スルコトヲ得

第三百三十七條

運送人ハ自己若クハ運送取扱人又ハ其使用人其他運送ノ爲メ使用シタル者カ運送品ノ受取、引渡、保管及ヒ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百三十八條

貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ荷送人カ運送ヲ委託スルニ當テ其種類及ヒ價額ヲ明告シタルニ非サレハ運送人ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第三百二十九條

數人相次テ運送ヲ爲ス場合ニ於テハ各運送人ハ運送品ノ滅失、毀損又ハ延著ニ付キ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第三百四十條

運送ノ品全部滅失ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ額ハ其引渡アルヘカリシ日ニ於ケル到達地ノ價格ニ依リテ之ヲ定ム但延著ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

運送品ノ滅失又ハ毀損ノ爲メ支拂フコトヲ要セサル運送貨其他ノ費用ハ前二項ノ賠償額ヨリ之ヲ控除ス

第三百四十一條

運送品カ運送人ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキ

運送人ハ一切ノ損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第三百四十二條

荷送人又ハ貨物引換證ノ所持人ハ運送人ニ對シ運送ノ中止、運送品ノ返還其他ノ處分ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ運送人ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應ズル運送貨、立替金及ヒ其處分ニ因リ生シタル費用ヲ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ定メタル荷送人ノ權利ハ運送品カ到達地ニ達シタル後荷受人カ其引渡ヲ請求シタルトキハ消滅ス

第三百四十三條

運送品カ到達地ニ達シタル後ハ荷受人ハ運送契約ニ因リテ生シタル荷受人ノ權利ヲ取得ス

荷受人カ運送品ヲ受取リタルトキハ運送人ニ對シ運送貨其他ノ費用ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第三百四十四條 貨物引換證ヲ作りタル場合ニ於テハ之ト引換ニ非サレハ運送品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百四十五條 荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキハ運送人ハ運送品ヲ供託スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ運送人カ荷送人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ運送品ノ處分ニ付キ指圖ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルモ荷送人カ其指圖ヲ爲ササルトキハ運送品ヲ競賣スルコトヲ得運送人カ前二項ノ規定ニ從ヒテ運送品ノ供託又ハ競賣ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク荷送人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

當ノ期間ヲ定メテ運送品ノ受取ヲ催告シ其期間經過ノ後更ニ荷送人ニ對スル催告ヲ爲スコトヲ要ス
運送人ハ遲滞ナク荷受人ニ對シテモ運送品ノ供託又ハ競賣ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス
第三百四十七條 第二百八十六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス
第三百四十八條 運送人ノ責任ハ荷受人カ留保ヲ爲サスシテ運送品ヲ受取り且運送貨其他ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ消滅ス但運送品ニ直チニ發見スルコト能ハサル毀損又ハ一部滅失アリタル場合ニ於テ荷受人カ引渡ノ日ヨリ二週間内ニ運送人ニ對シテ其通知ヲ發シタルトキハ此限ニ在ラス
前項ノ規定ハ運送人ニ惡意アリタル場合ニハ

之ヲ適用セズ
第三百四十九條 第三百二十四條、第三百二十五條、第三百二十八條及ヒ第三百二十九條ノ規定ハ運送人ニ之ヲ準用ス

第二節 旅客運送

第三百五十條 旅客ノ運送人ハ自己又ハ其使用人カ運送ニ關シ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ旅客カ運送ノ爲メニ受ケタル損害ヲ賠償スル責ヲ免ルルコトヲ得ス
損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付テハ裁判所ハ被害者及ヒ其家族ノ情況ヲ斟酌スルコトヲ要ス
第三百五十一條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡シ受ケタル手荷物ニ付テハ特ニ運送貨ヲ請求セサルトキハ雖モ物品ノ運送人ト同一ノ責任ヲ負フ

手荷物カ到達地ニ達シタル日ヨリ一週間内ニ旅客カ其引渡ヲ請求セサルトキハ第二百八十六條ノ規定ヲ準用ス但住所又ハ居所ノ知レサル旅客ニハ催告及ヒ通知ヲ爲スコトヲ要セス
第三百五十二條 旅客ノ運送人ハ旅客ヨリ引渡シ受ケサル手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ自己又ハ其使用人ニ過失アル場合ヲ除ク外損害賠償ノ責ニ任セス

第九章 寄託

第一節 總則

第三百五十三條 商人カ其營業ノ範圍内ニ於テ寄託ヲ受ケタルトキハ報酬ヲ受ケサルトキト雖モ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス
第三百五十四條 旅店、飲食店、浴場其他客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ主人ハ客ヨリ寄託ヲ

受寄ル物品ノ滅失又ハ毀損ニ付キ其不可抗力ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

客カ特ニ寄託セサル物品ト雖モ場屋中ニ携帶シタル物品カ場屋ノ主人又ハ其使用人ノ不注意ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ場屋ノ主人ハ損害賠償ノ責ニ任ス

客ノ携帶品ニ付キ責任ヲ負ハサル旨ヲ告示シタルトキト雖モ場屋ノ主人ハ前二項ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百五十五條 貨幣、有價證券其他ノ高價品ニ付テハ客カ其種類及ヒ價額ヲ明告シテ之ヲ前條ノ場屋ノ主人ニ寄託シタルニ非サレハ其場屋ノ主人ハ其物品ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第三百五十六條 前二條ノ責任ハ場屋ノ主人カ寄託物ヲ返還シ又ハ客カ携帶品ヲ持去リタル後一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

前項ノ期間ハ物品ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ客カ場屋ヲ去リタル時ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ場屋ノ主人ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二節 倉庫營業

第三百五十七條 倉庫營業者トハ他人ノ爲メニ物品ヲ倉庫ニ保管スルヲ業トスル者ヲ謂フ

第三百五十八條 倉庫營業者ハ寄託者ノ請求ニ因リ寄託物ノ預證券及ヒ質入證券ヲ交付スルコトヲ要ス

第三百五十九條 預證券及ヒ質入證券ニハ左ノ

事項及ヒ番號ヲ記載シ倉庫營業者之ニ署名スルコトヲ要ス

- 一 受寄物ノ種類、品質、數量及ヒ其荷造ノ種類、個數並ニ記號
 - 二 寄託者ノ氏名又ハ商號
 - 三 保管ノ場所
 - 四 保管料
 - 五 保管ノ期間ヲ定メタルトキハ其期間
 - 六 受寄物ヲ保險ニ付シタルトキハ保險金額、保險期間及ヒ保險者ノ氏名又ハ商號
 - 七 證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日
- 第三百六十條** 倉庫營業者カ預證券及ヒ質入證券ヲ寄託者ニ交付シタルトキハ其帳簿ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
- 一 前條第一號、第二號及ヒ第四號乃至第

六號ニ掲ケタル事項

二 證券ノ番號及ヒ其作成ノ年月日

第三百六十一條 預證券及ヒ質入證券ノ所持人ハ倉庫營業者ニ對シ寄託物ヲ分割シ且其各部分ニ對スル預證券及ヒ質入證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所持人ハ前ノ預證券及ヒ質入證券ヲ倉庫營業者ニ返還スルコトヲ要ス

前項ニ定メタル寄託物ノ分割及ヒ證券ノ交付ニ關スル費用ハ所持人之ヲ負擔ス

第三百六十二條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託ニ關スル事項ハ倉庫營業者ト所持人トノ間ニ於テハ其證券ノ定ムル所ニ依ル

第三百六十三條 預證券及ヒ質入證券ヲ作リタルトキハ寄託物ニ關スル處分ハ其證券ヲ以テ

スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第三百六十四條 預證券及ヒ質入證券ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シ又ハ之ヲ質入スルコトヲ得但證券ニ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

預證券ノ所持人カ未タ質入ヲ爲ササル間ハ預證券及ヒ質入證券ハ各別ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ス
第三百六十五條 第三百三十五條ノ規定ハ預證券ニ之ヲ準用ス

第三百六十六條 預證券又ハ質入證券カ滅失シタルトキハ其所持人ハ相當ノ擔保ヲ供シテ更ニ其證券ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ倉庫營業者ハ其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百六十七條 質入證券ニ第一ノ質入裏書ヲ爲スニハ債權額、其利息及ヒ辨濟期ヲ記載スルコトヲ要ス

第一ノ質權者カ前項ニ掲ケタル事項ヲ預證券ニ記載シテ之ニ署名スルニ非サレハ質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第三百六十八條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサルトキハ手形ニ關スル規定ニ從ヒテ拒絕證書ヲ作ラシムルコトヲ要ス

第三百六十九條 質入證券ノ所持人ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ一週間ヲ經過シタル後ニ非サレハ寄託物ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得ス
第三百七十條 倉庫營業者ハ競賣代金ノ中ヨリ競賣ニ關スル費用、受寄物ニ課スヘキ租稅、保管料其他保管ニ關スル費用及ヒ立替金ヲ控

除シタル後其殘額ヲ質入證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

競賣代金ノ中ヨリ前項ニ掲ケタル費用、租稅、保管料、立替金及ヒ質入證券所持人ノ債權額、利息、拒絕證書作成ノ費用ヲ控除シタル後餘剩アルトキハ倉庫營業者ハ之ヲ預證券ト引換ニ其所持人ニ支拂フコトヲ要ス

第三百七十一條 競賣代金ヲ以テ質入證券ニ記載シタル債權ノ全部ヲ辨濟スルコト能ハサリシトキハ倉庫營業者ハ其支拂ヒタル金額ヲ質入證券ニ記載シテ其證券ヲ返還シ且其旨ヲ帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第三百七十二條 質入證券ノ所持人ハ先ツ寄託物ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキハ債務者其他ノ裏書人ニ對シテ其不足額ヲ請求スル

コトヲ得

第三百七十三條 質入證券ノ所持人カ辨濟期ニ至リ支拂ヲ受ケサリシ場合ニ於テ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキ又ハ拒絕證書作成ノ日ヨリ二週間内ニ寄託物ノ競賣ヲ請求セサリシトキハ裏書人ニ對スル請求權ヲ失フ

第三百七十四條 債務者其他ノ裏書人ニ對スル質入證券所持人ノ請求權ハ辨濟期ヨリ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第三百七十五條 寄託者又ハ預證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢若クハ其見本ノ摘出ヲ求メ又ハ其保存ニ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
質入證券ノ所持人ハ營業時間内何時ニテモ倉庫營業者ニ對シテ寄託物ノ點檢ヲ求ムルコト

ヲ得

第三百七十六條 倉庫營業者ハ自己又ハ其使用人カ受寄物ノ保管ニ關シ注意ヲ怠ラザリシコトヲ證明スルニ非サレハ其滅失又ハ毀損ニ付キ損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三百七十七條 倉庫營業者ハ受寄物出庫ノ時ニ非サレハ報酬及ヒ立替金其他受寄物ニ關スル費用ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ス但受寄物ノ一部出庫ノ場合ニ於テハ割合ニ應シテ其支拂ヲ請求スルコトヲ得

第三百七十八條 當事者カ保管ノ期間ヲ定メザリシトキハ倉庫營業者ハ受寄物入庫ノ日ヨリ六個月ヲ經過シタル後ニ非サレハ其返還ヲ爲スコトヲ得ス但已ムコトヲ得サル事由アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十九條

預證券及ヒ質入證券ヲ作リタル場合ニ於テハ之ヲ交換ニ非サレハ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百八十條 預證券ノ所持人ハ質入證券ニ記載シタル債權ノ辨濟期前ト雖モ其債權ノ全額及ヒ辨濟期マテノ利息ヲ倉庫營業者ニ供託シテ寄託物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十一條 第二百八十六條ノ規定ハ寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

第三百八十二條 第三百四十八條ノ規定ハ倉庫營業者ニ之ヲ準用ス

第三百八十三條 寄託物ノ滅失又ハ毀損ニ因リテ生シタル倉庫營業者ノ責任ハ出庫ノ日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス前項ノ期間ハ寄託物ノ全部滅失ノ場合ニ於テハ倉庫營業者カ預證券ノ所持人、若シ其所持人カ知レサルトキハ寄託者ニ對シテ其滅失ノ通知ヲ發シタル日ヨリ之ヲ起算ス

前二項ノ規定ハ倉庫營業者ニ惡意アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第十章 保險

第一節 損害保險

第一款 總則

第三百八十四條 損害保險契約ハ當事者ノ一方カ偶然ナル一定ノ事故ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之

ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第三百八十五條 保險契約ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ニ限り之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第三百八十六條 保險金額カ保險契約ノ目的ノ價額ニ超過シタルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効トス

第三百八十七條 同一ノ目的ニ付キ同時ニ數個ノ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其保險金額カ保險價額ニ超過シタルトキハ各保險者ノ負擔額ハ其各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ之ヲ定ム

數個ノ保險契約ノ日附カ同一ナルトキハ其契約ハ同時ニ爲シタルモノト推定ス

第三百八十八條

相次テ數個ノ保險契約ヲ爲シタルトキハ前ノ保險者先ツ損害ヲ負擔シ若シ其負擔額カ損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサルトキハ後ノ保險者之ヲ負擔ス

第三百八十九條

保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後ト雖モ左ノ場合ニ限り更ニ保險契約ヲ爲スコトヲ得

- 一 前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコトヲ約シタルトキ
- 二 前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一部ヲ拋棄スヘキコトヲ後ノ保險者ニ約シタルトキ
- 三 前ノ保險者カ損害ノ填補ヲ爲ササルコトヲ條件トシタルトキ

第三百九十條 同時ニ又ハ相次テ數個ノ保險契約

險者之ヲ負擔ス

第三百九十四條

當事者カ保險價額ヲ定メタルトキハ保險者ハ其價額ノ著シク過當ナルコトヲ證明スルニ非サレハ其填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ス

第三百九十五條

戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ハ特約アルニ非サレハ保險者之ヲ補填スル責ニ任セス

第三百九十六條

保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵、其自然ノ消耗又ハ保險契約者若クハ被保險者ノ惡意若クハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之ヲ補填スル責ニ任セス

第三百九十七條

保險契約ノ當時當事者ノ一方又ハ被保險者カ事故ノ生セサルヘキコト又ハ既ニ生シタルコトヲ知レルトキハ其契約ハ無

約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險者ノ一人ニ對スル權利ノ拋棄ハ他ノ保險者ノ權利義務ニ影響ヲ及ボサス

第三百九十一條

保險價額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ負擔ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第三百九十二條

保險價額カ保險期間中著シク減少シタルトキハ保險契約者ハ保險者ニ對シテ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但保險料ノ減額ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

第三百九十三條

保險者カ填補スヘキ損害ノ額ハ其損害カ生シタル地ニ於ケル其時ノ價額ニ依リテ之ヲ定ム
前項ノ損害額ヲ計算スルニ必要ナル費用ハ保險

效トス

第三百九十八條

保險契約ノ當時保險契約者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ハ無効トス但保險者カ其事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

第三百九十九條

保險契約ノ全部又ハ一部カ無効ナル場合ニ於テ保險契約者及ヒ被保險者カ善意ニシテ且重大ナル過失ナキトキハ保險者ニ對シテ保險料ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四百條

保險契約ノ當事者カ特別ノ危險ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニ於テ保險期間中其危險カ消滅シタルトキハ保險契約者

ハ將來ニ向テ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

第四百一條 保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ

第四百二條 保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

第四百三條 保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險證券ヲ交付スルコトヲ要ス

保險證券ニハ左ノ事項ヲ記載シ保險者之ニ署名スレコトヲ要ス

一 保險ノ目的

- 二 保險者ノ負擔シタル危險
 - 三 保險價額ヲ定メタルトキハ其價額
 - 四 保險金額
 - 五 保險料及ヒ其支拂ノ方法
 - 六 保險期間ヲ定メタルトキハ其始期及ヒ終期
 - 七 保險契約者ノ氏名又ハ商號
 - 八 保險契約ノ年月日
 - 九 保險證券ノ作成地及ヒ其作成ノ年月日
- 第四百四條** 被保險者カ保險ノ目的ヲ讓渡シタルトキハ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲ讓渡シタルモノト推定ス
- 前項ノ場合ニ於テ保險ノ目的ノ讓渡者シク危險ヲ變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力ヲ失フ

第四百五條 保險者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險契約者ハ相當ノ擔保ヲ供セシメ又ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ保險契約者カ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前二項ノ規定ハ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス但保險契約者カ既ニ保險料ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ此限ニ在ラズ

第四百六條 他人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保險者ハ被保險者ニ對シテ保險料ヲ請求スルコトヲ得但被保險者カ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラズ

第四百七條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テハ保險契約者ハ契約ノ全部又ハ一部ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第四百八條 保險者ノ責任カ始マル前ニ於テ保險契約者又ハ被保險者ノ行爲ニ因ラスシテ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付キ保險者ノ負擔ニ歸スヘキ危險カ生セサルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料ノ全部又ハ一部ヲ返還スルコトヲ要ス

第四百九條 前二條ノ場合ニ於テハ保險者ハ其返還スヘキ保險料ノ半額ニ相當スル金額ヲ請求スルコトヲ得

第四百十條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スルキ事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險契約ハ其效力

ヲ失フ

第四百十一條 保險期間中危險カ保險契約者又ハ被保險者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタルトキハ保險者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ増加シタルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク之ヲ保險者ニ通知スルコトヲ要ス若シ其通知ヲ怠リタルトキハ保險者ハ危險ノ變更又ハ増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得
保險者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ危險ノ變更若クハ増加ヲ知リタル後遲滞ナク契約ノ解除ヲ爲ササルトキハ其契約ヲ承認シタルモノト看

做ス

第四百十二條 保險者ハ負擔シタル危險ノ發生ニ因リテ損害カ生シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ノ生シタルコトヲ知シタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四百十三條 保險ノ目的ニ付キ保險者ノ負擔スヘキ損害カ生シタルトキハ其後ニ至リ其目的カ保險者ノ負擔セサル危險ノ發生ニ因リテ減失シタルトキト雖モ保險者ハ其損害ヲ填補スル責ヲ免ルルコトヲ得ス

第四百十四條 被保險者ハ損害ノ防止ヲ力ムルコトヲ要ス但之カ爲メニ必要又ハ有益ナリシ費用及ヒ填補額カ保險金額ニ超過スルトキト雖モ保險者之ヲ負擔ス

第三百九十一條ノ規定ハ前項但書ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百十五條 保險ノ目的ノ全部カ減失シタル場合ニ於テ保險者カ保險金額ノ全部ヲ支拂ヒタルトキハ被保險者カ其目的ニ付キ有セル權利ヲ取得ス但保險金額ノ一部ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險者ノ權利ハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リテ之ヲ定ム

第四百十六條 損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ヲ支拂ヒタルトキハ其支拂ヒタル金額ノ限度ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ第三者ニ對シテ有セル權利ヲ取得ス

保險者カ被保險者ニ對シ其負擔額ノ一部ヲ支拂ヒタルトキハ保險契約者又ハ被保險者ノ權利ヲ

利ヲ害セサル範圍内ニ於テノミ前項ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得

第四百十七條 保險金額支拂ノ義務ハ二年保險料支拂ノ義務ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四百十八條 本節ノ規定ハ相互保險ニ之ヲ準用ス但其性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二 火災保險

第四百十九條 火災ニ因リテ生シタル損害ハ其火災ノ原因如何ヲ問ハズ保險者之ヲ填補スル責ニ任ス但第三百九十五條及ヒ第三百九十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百二十條 消防又ハ避難ニ必要ナル處分ニ因リ保險ノ目的ニ付キ生シタル損害ハ保險者

之ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十一條 賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ其支拂フコトアルヘキ損害賠償ノ爲メ其物ヲ保險ニ付シタルトキハ所有者ハ保險者ニ對シテ直接ニ其損害ノ填補ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十二條 火災保險證券ニハ第四百三條

第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 保險ニ付シタル建物ノ所在、構造及ヒ
- 二 助産ヲ保險ニ付シタルトキハ之ヲ納ルル建物ノ所在、構造及ヒ用方

第四百二十三條 保險者ハ特約ヲキトキハ運送

第四百二十四條 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所

人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スル責ニ任ス

第四百二十四條 運送品ノ保險ニ付テハ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル其價額及ヒ到達地マテノ運送賃其他ノ費用ヲ以テ保險價額トス

運送品ノ到達ニ因リテ得ヘキ利益ハ特約アルトキニ限り之ヲ保險價額中ニ算入ス

第四百二十五條 運送保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 運送ノ道筋及ヒ方法
- 二 運送人ノ氏名又ハ商號
- 三 運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所
- 四 運送期間ノ定アルトキハ其期間

第四百二十六條 保險契約ハ特約アルニ非サレ

ハ運送上ノ必要ニ因リ一時運送ヲ中止シ又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更シタルトキト雖モ其效力ヲ失ハス

第二節 生命保險

第四百二十七條 生命保險契約ハ當事者ノ一方

カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フヘキコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第四百二十八條 保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被

保險者、其相續人又ハ親族ナルコトヲ要ス 保險契約ニ因リテ生シタル權利ハ被保險者ノ親族ニ限り之ヲ讓受クルコトヲ得

保險金額ヲ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキ又ハ被保險者ト保險金額ヲ受取ルヘキ者トノ親

族關係カ止ミタルトキハ保險契約者ハ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メ又ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

保險契約者カ前項ニ定メタル權利ヲ行ハスシテ死亡シタルトキハ被保險者ヲ以テ保險金額ヲ受取ルヘキ者トス

第四百二十九條 保險契約ノ當時保險契約者又

ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ重要ナル事實ヲ告ケス又ハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタルトキハ其契約ハ無効トス 但保險者カ其事實ヲ知り又ハ之ヲ知ルコトヲ得ヘカリシトキハ此限ニ在ラス

第四百三十條 生命保險證券ニハ第四百三條第二項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スル

コトヲ要ス

- 一 保險契約ノ種類
- 二 被保險者ノ氏名
- 三 保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ定メタルト
ヤハ其者ノ氏名及ヒ其者ト被保險者トノ
親族關係

第四百三十一條 左ノ場合ニ於テハ保險者ハ保
險金額ヲ支拂フ責ニ任セス

- 一 被保險者カ自殺、決闘其他ノ犯罪又ハ
死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ
- 二 保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニテ被
保險者ヲ死ニ致シタルトキ但其者カ保險
金額ノ一部ヲ受取ルヘキ場合ニ於テハ保
險者ハ其殘額ヲ支拂フ責ヲ免ルルコトヲ
得ス

前項第一號ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者
ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス
第四百三十二條 保險契約者又ハ保險金額ヲ受
取ルヘキ者カ被保險者ノ死亡シタルコトヲ知
リタルトキハ遲滞ナク保險者ニ對シテ其通知
ヲ發スルコトヲ要ス

第四百三十三條 第三百九十五條、第三百九十
七條、第三百九十九條乃至第四百一條、第四
百三條第一項、第四百五條乃至第四百七條、
第四百十條、及ヒ第四百十一條、第四百十七
條及第四百十八條ノ規定ハ生命保險ニ之ヲ準
用ス
第三百九十五條、第四百五條、第四百七條、
第四百十條及ヒ第四百十一條ノ場合ニ於テ保
險者カ保險金額ヲ支拂フコトヲ要セサルトキ

ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻ス
コトヲ要ス

第四編 手形

第一章 總則

第四百三十四條 本法ニ於テ手形トハ爲替手形
、約束手形及ヒ小切手ヲ謂フ

第四百三十五條 手形ニ署名シタル者ハ其手形
ノ文言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

第四百三十六條 代理人カ本人ノ爲メニスルコ
トヲ記載セスシテ手形ニ署名シタルトキハ本
人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百三十七條 偽造又ハ變造シタル手形ニ署
名シタル者ハ其偽造又ハ變造シタル手形ノ文
言ニ從ヒテ責任ヲ負フ

變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署

名シタルモノト推定ス

偽造者、變造者及ヒ惡意又ハ重大ナル過失ニ
因リ偽造又ハ變造シタル手形ヲ取得シタル者
ハ手形上ノ權利ヲ有セス

第四百三十八條 無能力者カ手形ヨリ生シタル
債務ヲ取消シタルトキト雖モ他ノ手形上ノ權
利義務ニ影響ヲ及ボサス

第四百三十九條 本編ニ規定ナキ事項ハ之ヲ手
形ニ記載スルモ手形上ノ效力ヲ生セス

第四百四十條 手形ノ債務者ハ本編ニ規定ナキ
事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スル
コトヲ得ス但直接ニ之ニ對抗スルコトヲ得ヘ
キ事由ハ此限ニ在ラス

第四百四十一條 何人ト雖モ惡意又ハ重大ナル
過失ナクシテ手形ヲ取得シタルモノニ對シ其

手形ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第四百四十二條 手形ノ引受又ハ支拂ヲ求ムル爲メニスル呈示、拒絕證書ノ作成其他手形上ノ權利ノ行使又ハ保全ニ付キ利害關係人ニ對シテ爲スヘキ行爲ハ其營業所、若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但其者ノ承諾アルトキハ他ノ場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

利害關係人ノ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ拒絕證書ヲ作ルヘキ公證人又ハ執達吏ハ其地ノ官署又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ要ス若シ問合ヲ爲スモ營業所、住所又ハ居所カ知レサルトキハ其役場又ハ官署若クハ公署ニ於テ拒絕證書ヲ作ルコトヲ得

第四百四十三條 引受人又ハ約束手形ノ振出人

ニ對スル債權ハ滿期日ヨリ三年所持人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ支拂拒絕證書作成ノ日ヨリ六個月裏書人ノ其前者ニ對スル償還請求權ハ償還ヲ爲シタル日ヨリ六個月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第四百四十四條 手形ヨリ生シタル債權カ時効又ハ手續ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキト雖モ所持人ハ振出人又ハ引受人ニ對シ其受ケタル利益ノ限度ニ於テ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二章 爲替手形

第一節 振出

第四百四十五條 爲替手形ニハ左ノ事項ヲ記載シ振出人ノ署名スルコトヲ要ス

一 其爲替手形タルコトヲ示スヘキ文字

二 一定ノ金額

三 支拂人ノ氏名又ハ商號

四 受取人ノ氏名又ハ商號

五 單純ナル支拂ノ委託

六 振出ノ年月日

七 一定ノ滿期日

八 支拂地

第四百四十六條 爲替手形ノ主タル部分ニ記載シタル金額カ他ノ部分ニ記載シタル金額ト異ナルトキハ主タル部分ニ記載シタル金額ヲ以テ手形金額トス

第四百四十七條 振出人ハ自己ヲ受取人又ハ支拂人ト定ムルコトヲ得

第四百四十八條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百四十九條 爲替手形ハ其金額三十圓以上ノモノニ限りテ無記名式ト爲スコトヲ得

第四百五十條 滿期日ハ左ニ掲ケタル種類ノ一タルコトヲ要ス

一 確定セル日

二 日附後確定セル期間ヲ經過シタル日

三 一覽ノ日

四 一覽後確定セル期間ヲ經過シタル日

第四百五十一條 振出人カ爲替手形ニ滿期日ヲ記載セザリシトキハ一覽ノ日ヲ以テ其爲替手形ノ滿期日トス

第四百五十二條 振出人カ爲替手形ニ支拂地ヲ記載セザリシトキハ其爲替手形ニ記載シタル支拂人ノ住所地ヲ以テ其支拂地トス

第四百五十三條 支拂地カ支拂人住所地下異ナ

ルトキハ他人ヲ以テ支拂擔當者トシテ爲替手形ニ記載スルコトヲ得

第四百五十四條 振出人ハ爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記載スルコトヲ得

第二節 裏書

第四百五十五條 爲替手形ハ其記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得但振出人カ裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百五十六條 振出人、引受人又ハ裏書人カ裏書ニ依リテ爲替手形ヲ讓受ケタルトキハ更ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十七條 裏書ハ爲替手形、其謄本又ハ補箋ニ被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人署名スルニ依リテ之ヲ爲

ス

裏書ハ裏書人ノ署名ノミヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ爾後爲替手形ハ引渡ノミニ依リテ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四百五十八條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ支拂地ニ於ケル豫備支拂人ヲ記載スルコトヲ得

第四百五十九條 裏書人ハ裏書ヲ爲スニ當タリ手形上ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ記載スルコトヲ得

第四百六十條 裏書人カ裏書ヲ爲スニ當タリ爾後裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタルトキハ其裏書人ハ被裏書人ノ後者ニ對シテ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十一條 裏書人カ其署名ノミヲ以テ裏

書ヲ爲シタルトキハ所持人ハ自己ヲ其被裏書人ト爲スコトヲ得

第四百六十二條 支拂拒絶證書作成ノ期間經過ノ後所持人カ裏書ヲ爲シタルトキハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得ス此場合ニ於テハ其裏書人ハ手形上ノ責任ヲ負フコトナシ

第四百六十三條 所持人ハ裏書ニ依リテ爲替手形ノ質入ヲ爲シ又ハ其取立ノ委任ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ裏書ニ其目的ヲ附記スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ被裏書人ハ同一ノ目的ヲ以テ更ニ裏書ヲ爲スコトヲ得

第四百六十四條 裏書アル爲替手形ノ所持人ハ其裏書ヲ連續スルニ非サレハ其權利ヲ行フコ

トヲ得ス但署名ノミヲ以テ爲シタル裏書アルトキハ次ノ裏書人ハ其裏書ニ因リテ爲替手形ヲ取得シタルモノト看做ス

第三節 引受

第四百六十五條 所持人ハ何時ニテモ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第四百六十六條 一覽後定期拂ノ爲替手形ノ所持人ハ其日附ヨリ一年內ニ爲替手形ヲ支拂人ニ呈示シテ其引受ヲ求ムルコトヲ要ス但振出人ハ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得所持人カ拒絶證書ニ依リ前項ニ定メタル呈示ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

第四百六十七條 所持人カ一覽後定期拂ノ爲替手形ヲ呈示シタル場合ニ於テ支拂人カ其引受

ナ爲サス又ハ引受ノ日附ヲ爲替手形ニ記載セ
 サリシトキハ所持人ハ呈示期間内ニ拒絶證書
 ナ作ラシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ其拒
 絶證書作成ノ日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス
 所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ其
 前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ
 引受人カ引受ノ日附ヲ記載セサリシ場合ニ於
 テ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメサリシトキハ
 呈示期間ノ末日ヲ以テ呈示ノ日ト看做ス
第四百六十八條 引受ハ爲替手形ニ其旨ヲ記載
 シ支拂人署名スルニ依リテ之ヲ爲ス
 支拂人カ爲替手形ニ署名シタルトキハ其引受
 チ爲シタルモノト看做ス
第四百六十九條 支拂人ハ手形金額ノ一部ニ付
 キ引受チ爲スコトヲ得

前項ノ場合ヲ除ク外支拂人カ爲替手形ノ單純
 ナル引受チ爲サリシトキハ其引受チ拒絶シ
 タルモノト看做ス但引受人ハ其引受ノ文言ニ
 從ヒテ責任ヲ負フ
第四百七十條 支拂人ハ爲替手形ノ引受ニ因リ
 満期日ニ於テ其引受ケタル金額ヲ支拂フ義務
 ナ負フ
第四百七十一條 引受人カ爲替手形ノ支拂チ爲
 サリシ場合ニ於テ其所持人又ハ償還チ爲シ
 タル裏書人若クハ振出人ニ對シテ支拂フヘキ
 金額ハ第四百九十一條又ハ第四百九十二條ノ
 規定ニ依リテ之ヲ定ム
第四百七十二條 支拂地カ支拂人ノ住所地下異
 ナル場合ニ於テ振出人カ爲替手形ニ支拂擔當
 者ヲ記載セサリシトキハ支拂人ハ其引受チ爲

スニ當タリ之ヲ記載スルコトヲ得若シ支拂人
 カ之ヲ記載セサリシトキハ支拂地ニ於テ自ラ
 支拂チ爲ス責ニ任ス
 前項ノ場合ニ於テ振出人ハ爲替手形ニ其引受
 チ求ムル爲メ之ヲ呈示スヘキ旨ヲ記載スルコ
 トヲ得此場合ニ於テ所持人カ拒絶證書ニ依リ
 其呈示チ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其
 前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ
第四百七十三條 支拂人ハ引受チ爲スニ當タリ
 爲替手形ニ其支拂地ニ於ケル支拂ノ場所ヲ記
 載スルコトヲ得
第四百七十四條 擔保ノ請求
 支拂人カ爲替手形ノ引受チ爲
 ササリシトキハ所持人ハ其前者ニ對シ手形金
 額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スルコト

ヲ得
 支拂人カ手形金額ノ一部ニ付キ引受チ爲シタ
 ルトキハ所持人ハ其殘額及ヒ費用ニ付キ相當
 ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得
第四百七十五條 爲替手形ノ所持人カ前條ノ請
 求チ爲サント欲スルトキハ引受拒絶證書ヲ作
 ラシメ且擔保チ供セシメント欲スル者ニ對シ
 遲滞ナク擔保請求ノ通知チ發スルコトヲ要ス
第四百七十六條 裏書人カ其後者ヨリ前條ノ通
 知チ受ケタルトキハ其前者ニ對シ其擔保スヘ
 キ金額及ヒ費用ニ付キ相當ノ擔保ヲ請求スル
 コトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ裏書人ハ擔保チ供セシメン
 ト欲スル者ニ對シ遲滞ナク擔保請求ノ通知チ
 發スルコトヲ要ス